

# 〈親子心中〉をめぐる象徴的システムの日韓比較(1)

— 神話的な〈語り〉としての「自殺事件」の民俗学的分析 —

岩 本 通 弥

はじめに

- 一 問題の所在
- 二 課題と方法——〈物語〉としての新聞記事——
- 三 韓国における自殺と〈親子心中〉の具体相
- 四 自殺記事の日韓比較

五 〈親子心中〉の日韓比較

おわりに——今後の課題——

## 論文要旨

本稿はこれまで概して「日本独特の現象」ともされてきた〈親子心中〉に関し、韓国におけるその事例を紹介することで、そうした言説に修正をはかるとともに、両者を比較することにより、より深いレベルにおける〈親子心中〉の諸現象、すなわち〈親子心中〉という行為だけでなく、それをめぐる社会や文化のより大きな象徴的システムのうち、何が普遍的であり、あるいは何が日本特有的なのか、そのおおよその見通しを得ることを目的としている。そのため本稿では、これまでほとんど日本には報告されてこなかった韓国における〈親子心中〉を含めた「自殺の全体像」を提示することからはじめるが、資料としては、その代表的な中央紙である朝鮮日報と東亜日報における自殺記事を、一年分収集し、これを分析した。新聞を資料として用いることに関し、方法的な視角を述べるならば、新聞記事というニュースの性質を、単なる情報の〈伝達〉という機能から捉えるのではなく、むしろ、より読み手(decoder)の役

割を重視した、神話的な〈物語〉を創出していくものとして、繰り返し語られるニュースのなかの、隠れたメッセージや象徴的コードを読み解いていく。その物語性は、読み手に文化的諸価値の定義を提供しているが、こうした視角で分析してみると、日韓の自殺と親子心中「事件」のコードは類似したものが多く、一方、大きく異なる点も存在する。最も相違するのは日本の自殺・親子心中の〈物語〉が「他人に迷惑を掛けること」の忌避を訴えているのに対し、韓国のそれは「抗議性(憤り)」を媒介とした「他者との心情の交流」が主要な価値コードとなっている。正反対の日本の価値コードからすれば、韓国の自殺・同伴自殺は「いさぎよし」とは見做されず、また逆に日本のそれも韓国的コードでは負に位置付けられようが、それは両国の感情表現の方法をはじめ「死の美学」や死生観・靈魂観の相違に起因するものであり、表面的形態的には類似している日韓の〈親子心中〉も、その意味するところは大きく異なっている。

## はじめに

本稿の目的は、これまで概して「日本独特の現象」ともされてきた〈親子心中〉に関し、韓国におけるその事例を紹介することによって、そうした言説に修正をはかるとともに、両者を比較することで、より深いレベルにおける〈親子心中〉の諸現象、すなわち〈親子心中〉という行為だけでなく、それをめぐる社会や文化の（事件に対する世間の反応や相互作用、また死生観や世界観なども含めた）、より大きな象徴的システムのうち、何が普遍的であり、あるいは何が日本的であるのか、そのおおよその見通しを得ることにある（なお韓国では、日本の親子心中に相当する行為や形態を、「父母子息同伴自殺（부모자식 동반자살）」、「家族同伴自殺（가족 동반자살）」あるいは「一家族集団自殺（일가족 동반자살）」などと呼ぶ。固定的な用語は決めたいが、この行為や形態の汎世界的な普遍的概念を示す場合、以下ではとりあえず日本語の〈親子心中〉を採用し、へん付きで表わすことにする）。

そのため本稿では、これまでほとんど日本には報告されてこなかった、韓国における〈親子心中〉を含めた「自殺の全体像」を、提示することからまず始めたい。資料としては、その代表的な一般紙である朝鮮日報と東亜日報における自殺記事を、一年分収集し、これを分析したが、ここで新聞を資料として用いることに関し、あらかじめ方法的な視角を述べておくならば（詳しくは後述する）、新聞記事というニュースの性

質を、単なる情報の〈伝達〉という機能から捉えるのではなく、むしろ、より読み手 (decoder) の役割を重視した、神話的な〈物語〉を創出していくものとして捉えていく。

近年、マスコミ論 (メディア研究) においても、ニュースというものが、単に「事実」を告げるのではなく「意味」を告げるものといった、「伝達モデル (道具論的伝達論)」から「儀礼モデル (受容理論)」への移行が見られるが、その提唱者である J・W・ケアリーによれば、「ニュースは情報ではなく、ドラマであり、物語である」とされる。コミュニケーションとは「情報を共有する行為ではなく、共有する信念の提示」に向けられており、ニュースを書くこと読むことは、一種の儀礼的行為であって、また読者の前に配列されたものは、純粹な情報ではなく、世界のなかで相争っている諸勢力の描写であるとす。ニュースという神話的〈語り〉 (mythological narrative) は、繰り返し語られることによつて、神話やフォークロアのように、読み手 (民衆) に、文化的価値のモデル、善悪・美醜などの定義を提供しているのである。

本稿はこうした視角から、両国の自殺と〈親子心中〉そのものの直接的分析というよりは、日韓の新聞記事がそれぞれ伝える、自殺や〈親子心中〉をめぐる象徴的コード、「読み手」に認識される文化的な特定の「物語のコード」の解説を目指したものと見える。ただその解釈は重層的に深まっていくものであろうから、本稿ではもっぱら韓国の事例の系統的な紹介を、第一の目的にすることにし、象徴的コードの解説は、日本と比較した場合に見えてくる表層的な部分の相違、これまでの段階で

筆者が把握し得た相違について、若干指摘するにとどめたい。その自殺を生み出していく、より深い韓国文化の文化的背景や象徴的システムについては、今後本稿を基礎に継続して発表していきたい。

なお本稿では、韓国人研究者の自殺に関する研究論文は、ほとんど取り上げていない。もちろんそれらは正当な手続きを踏んだ研究ではあるが、それらも一つの韓国的な言説のなかに成立しているものであって、本稿ではあえて取り扱わず、それ自体を一つの研究対象として、改めて論じたい。もちろん本稿も、科学的客観的な分析を装いながらも、極めて日本的な言説のなかで成立していることは言うまでもない。

## 一 問題の所在

自殺はどの時代、どの文化にも見られる現象であるが、一般に〈親子心中〉と呼ばれる、自殺する際に我が子を道連れにする行為や形態(拡大自殺の一種)は、必ずしも世界的に見られる現象ではないとされている。欧米の場合、たとえ見られたとしても、それはかなり例外的な存在であり、少なくとも日本のように頻発しておらず、そしてそれは量的な違いだけでなく、質的にもまた大きく異なっている。

こうは述べたものの、ただしそれは見解の大きい別れるところであって、〈親子心中〉が普遍的な現象であるか否かについては、さまざまな見方や立場のあるのが実状である。例えば比較自殺学から、布施豊正が「欧米では一家合意心中、または母子無理心中などは殆ど見られず、日

本独自の他殺、自殺の複合型と断言できる<sup>(3)</sup>とすのに対し、小田晋は犯罪学(精神医学)の立場から、欧米でも鬱病の場合、家族や最愛の者を道連れにする「拡大自殺」があるとす。さらに小田は、同情から家族の最も抵抗しない者を殺す「慈悲殺人」や、死後家族が苦しみと貧困の中に残されないよう配偶者などを殺す「死恐怖症殺人」の、汎世界的な現象性も指摘するが、〈親子心中〉を非日本の現象と見る立場には、ほかに「(東)アジア的風土の所産<sup>(5)</sup>」とする中間的・限定的な見解もあって、これもまた一つの有力な説となっている。

このように多様な解釈の存在する〈親子心中〉に対し、本稿を進めていくに当たって、筆者の立場から、議論を多少整理しておけば、確かに小田の指摘するように、行為の現象レヴェルを考えた場合、そう見るのが妥当であると、筆者も考える。が、問題は次元の相違であって、モリス・パンゲもいうように、欧米の場合、それが「突発的な精神抑鬱の兆候とされ、野蛮な行為の範疇に入れられてしまう」のに対し、日本の〈伝統〉は「そこに自分自身の姿」を見て「親子心中にある合理性を与えてきた<sup>(6)</sup>」のも確かであって、本稿では個別な行為次元の問題としてではなく、こうした文化論レヴェルの問題として、これを扱っていきたい。

またこれまで日本の親子心中研究は、精神医学をはじめとして、心理学・社会学・社会病理学・犯罪学・刑法学等、各分野で盛んになされてきたが、ただその研究の多くは、メタな部分で「親子心中は日本独特の現象」という視点が潜在していたことも確かであり、それゆえ、その国際比較は行われず、むしろこれを日本独自の社会病理とみなし、社会福

社政策の不毛や家族制度の崩壊など、社会批判や現状批判あるいは自文化批判の格好の材料とされる嫌いがあった。その傾向はどうやら韓国でも同様であったが、本稿ではそうした立場とはひとまず距離を置きたい（ただしそれは事実上不可能なものとも考えるが、とりあえず意識の上だけでも、一線を画しておく）。なぜなら、あくまでその事実の究明には当然のことながら、たとえ社会批判を行う上でも、果たしてそれが自文化独自のものなのか、実態の把握は立論の根底でもあって、異文化比較は最も欠くべからざる作業に属すると考えるからである。

さて、以上のような基本的前提に関して、あらかじめ了解を得た上で、さらに問題を絞っておくなら、〈親子心中〉と称される、こうした我が子を道連れに自殺する行為は、考えてみれば、子どもには「合意」のない場合がほとんどであって、実質的には「親の自殺」プラス「子殺し」にほかならない。極めて明白な殺人行為を含んでおり、「子殺しを伴う自殺」と称するのが最も適切な表現といえようが、しかし日本では、また韓国でも同様であるが、いかにも「合意」があったかの如く、「親子心中」とか「同伴自殺」といった表現を用い、その「子殺し」という行為を隠蔽しているばかりか、そこには「孝」を重視してきた儒教倫理的な「家族愛」の残り香が嗅ぎ取れなくもない。解くべき問題の一つはここに潜んでいると考えるが、特に日本語の親子心中の「心中」という語は、改めて述べるまでもなく、畠山箕山『色道大鏡』に「心中とは、男女の中懇切入魂の昵び二つなき処をあらはすしるしをいふ也」(巻六、延宝六年序)とあるように、原義は「心のなかを示す」ことにある。それが

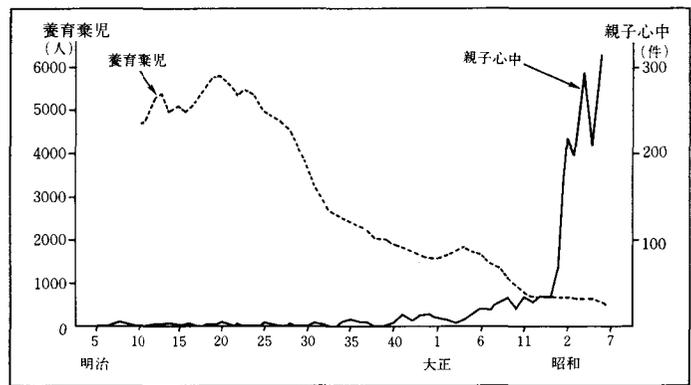


図1 日本の親子心中と捨子の相関  
親子心中数：小峰茂之『小峰研究所紀要』5, 1937  
養育棄児数：『日本帝国統計年鑑』1～53回

元禄の近松門左衛門の心中文学の成立以降、相愛の男女が愛情の変わらぬことを示すため、一緒に死ぬことが、すなわち「誠意の証」とされ、美化されていくが、さらに大正一二、三年頃から、子殺しにまで拡大転用されて用いられていったのが、「親子心中」という言葉である。韓国の場合、こうした美化の〈伝統〉はないにしても、「同伴自殺」という言葉には、

やはり子殺しに対する批判的な意味は一切認められず、そこには子ども的人格・人権を認定していないこと、また世間一般もこれを許容する心情(精神風土)が潜んでいることは明らかであって、ここに文化論的な問題として、ひとり精神医学の領域に限定されない、民俗学・文化人類学の介入すべき余地が残されているよう。

単に自殺する際に我が子を殺害する行為だけならば、前述したように、それは汎世界的に見られる現象である。殺人犯が犯行直後自殺するよう

な殺人と自殺の複合型としての〈親子心中〉なら、欧米でもかなりの割合で見られるとされている。例えば北米の場合、それは「自分を離れた、また離れようとしている妻や愛人を殺し、その後男性が銃やピストルを自分に向けて自殺する例がほとんど」であり、また実行者は圧倒的に男性が多いとされる。<sup>(10)</sup>これに対し日本で見られる形態は母子の場合が多く、それよりも問題はその質的な違いであって、日本や韓国でよく聞かれる「残される子どもが可哀相だから」といった動機や心情でなされる〈親子心中〉は、これまでの研究によれば(ただしそれは厳密な国際比較といったものではなく、存在の有無の指摘に過ぎないが)、日本・韓国・香港・タイといった(東)アジアの仏教圏にみられるとする見解もあり、その背景には文化的土壌の存在が指摘されている。<sup>(13)</sup>

このような意味で〈親子心中〉は、一種の民俗文化的な現象であると規定されるが、第二の問題は、日本においては図1でも見るように、大正末期以降、突如激増した現象であって、近代化の進行とともに発生し問題化した、極めて歴史的な社会現象でもある点である。<sup>(14)</sup>韓国の「同伴自殺」に関する経年的変化に関しては、未だ詳らかにされた研究はないが、韓国の識者の見解によれば、「家族同伴自殺(の多発化)はそう古い現象ではない」というのが一般的な認識であって、おそらく日本の場合と同様、伝統的な価値観を背景としながらも、近代化や都市化に伴う社会構造・産業構造・生活文化体系の構造的転換によってもたらされた、近代の生み出した社会現象であると予想される。

韓国における発生状況の経年的推移に関しても、今後追究されねばな

らない不可欠な課題であるが、未だ両国に相互の実態が全く知られていない現状においては、その前段階として、まずは両国にはそれぞれの異なる〈親子心中〉が存在するのか、本稿では新聞報道を資料として、今日みられる〈親子心中〉の日韓の相違を中心に、分析考察していきたい。

## 一 課題と方法——〈物語〉としての新聞記事——

### (一) 資料の限界と方法の特性

本稿では、そうした実態と傾向性の把握のため、日本の朝日新聞(朝夕刊)と韓国の朝鮮日報(朝刊)・東亜日報(夕刊)に報じられた自殺記事を一年分収集し、それを民俗学的立場から分析・比較する。分析したのは、朝日が一九八九年一月から一二月まで、朝鮮・東亜が八九年九月から九〇年八月までの各一年分であるが、ここで対象を〈親子心中〉に限らず自殺全般に拡大するのは、心中(複数自殺)も自殺の一形態であり、その全体の括がりのなかで捉える必要があるからである。一つには自殺全般の傾向性ばかりか、何を自殺と見做すか、自殺の観念自体、日韓の間には大きな違いがあり、また「親子心中」あるいは「同伴自殺」といった観念も、両者には自殺全体の中の区分、分類の上でかなりの相違が認められるからである。

次に研究方法および資料の限界と特性を述べるならば、資料はあくまで新聞記事という点である。新聞記事はある程度、社会の現実を映して

はいるが、あくまでそこには「記者の目」が介在していることは言うまでもない。取材の選定から、記事の内容・表記、その「事件」に対する評価まで、また掲載するか否かに関しても「国民(読者)の知る権利」とはいいながら、その一切が新聞社側の判断・決定に任せられており、必ずしも正しい「現実」やそのままの「事実」を伝えているとは限らない。むしろ「現実」とは違うのが当然であるといえよう。まずはこうした資料的限界のあることを充分認識しておく必要がある。

例えば資料を収集したこの年一年間に載せられた韓国の自殺記事は、朝鮮日報・東亜日報を合わせてちょうど二〇〇件、治安本部の発表によれば、九〇年度一年間の自殺者は七四八六名であって、新聞に登場する自殺は、その内の四〇分の一にも満たないほんの一部であるということだ。一日平均二〇・五名にも上る自殺が発生しているわけであるから、新聞はいかようにも「事件」を作ることができる。もちろん、それは捏ち上げるといふ意味ではないが、「子どもの自殺が増えた」とか「家貫(ケツク)自殺が引き続き(家貫については後述する)」「退廃自殺がめだつ」と、キャンペーンを張ろうとすれば、かなり恣意的・作作的に事例を取捨選択して、「事件」や「ブーム」を構成することができる。事実この期間、朝鮮日報と東亜日報では、同じ自殺を記事に掲載したのはわずか五二件、二六・〇％に過ぎず(また紙面構成上、他の記事との関連もあってかなり恣意的に掲載される)、また同じ自殺「事件」でも、記事の取り扱い、記述の仕方(評価も含む)は、新聞によってかなり異なっている。

特にこの年朝鮮日報は、九〇年一月一九日付の第八面全面を使って、

「深層取材」というコーナーに「韓国自殺率、世界最高――一〇万名に四八・七名の割合に増え――」と題する記事を書き、キャンペーンを張ろうとした嫌いがあり、読者や世論にかなりの衝撃を与えた。これは統計ごとばらばらな公式統計の数値を紹介しながらも、延世大学研究チームの新研究として、精神科学教室が実施した警察捜査記録を基にした京畿道江華郡での疫学調査の結果を重視したものであるが、その記事に関し、近年急増したように読める紛らわしい表現や、江華郡の四八・七名という自殺率(一〇万名当たりの数値)が全国を代表できる数値か否か、朝鮮日報の記事の「虚構性」を批判する指摘もある。<sup>(17)</sup> 事実誤認もあって、筆者も明らかに「虚構」であると考え、<sup>(18)</sup> しかしいづれにせよ、この一月一九日付の記事が一つの契機となつて、この年、それまでほとんどなかった自殺に関する書籍が、いづれもアンソロジーではあるが、三冊<sup>(19)</sup>も緊急出版されたことは、その衝撃の大きさを物語っている。

結局、自殺そのものを、新聞資料から捉えようとすることは、かなりの制約と限界があるが、日本に限らず世界的に自殺に関する基礎データは、人口統計や警察白書等に、統計的に集約された形で示され、詳しくは公表されないのが普通である。死体検案調査を活用できる監察医や、自殺企図者を患者として扱える精神科臨床医等の特定の者以外、これまで自殺研究の多くは、専ら新聞資料を利用し依存してきたのが実情であつて、筆者の場合もそうせざるを得ない。しかし韓国の自殺がどのようなものであるか、日本においては全く知られていない現状では、どういった形態・種類の自殺が両国には見られるか、新聞からでもおおよその

傾向性を把握することは可能であり、研究の第一段階としては、それを行う必要性も意義もあるものと思われる。

これに対して第二段階では、というよりこれが筆者の目的であるが、ここではむしろ新聞という資料の特性を生かした分析を、民俗学ならではの観点からは行うことが可能である。すなわち前述した「記者の目(作為行為)」を、表現主体(報道側)と受容主体(一般読者)との社会的コミュニケーション過程として捉え、その「交換」の性質を、民俗学的に分析することである。「記者の目」といっても、それは常に「読者の目(民衆の感性・心情・価値観等)」を意識し反映したものであり、何を「事件」として選択し、それをどのように記述・表現・評価するかは、相互のコミュニケーション過程として、捉えることができる。さらにいえば、新聞記事はある対象を説明する行為であって、例えば自殺なら自殺という語られる対象に、意味を与える行為であるともいえる。

「ニュースは情報ではなく、ドラマであり、物語である」とし、儀礼としてのコミュニケーション・モデルを提起したケアリーらによれば、「コミュニケーションは、リアリティーが生み出され、維持され、修復され、そして変容する象徴的過程である」とし、また次のように述べる。<sup>(20)</sup>

語りとしてニュースを考察することは、ニュースを外側の現実に対応するものとして、社会によって影響を受けたものの影響するものとして、ジャーナリストまたは官僚機構の所産であるとして、考察する価値がないということではなく、それはニュースを別な次元に導くが、それは知らせる、説明するという伝統的機能を超えるニュースの

物語性という次元におけるものである。語りとしてのニュースというアプローチは、ニュースが知らせるということ、すなわちもちろん読者がニュースから学ぶということを否定はしない。しかしながら、読者が学ぶものの多くは、ジャーナリストが正確に提示しようとする「事実」・「名前」・「人物」とはあまり関係ないだろう。それらの詳細は「有意義、無意味の両者とも」すべてニュースのより大きな象徴的システムに貢献している。事実、名前、その詳細はほとんど毎日変わるが、それらが適合する枠組―象徴的システム―はより永続的である。そして永続的な象徴システムとしてのニュースの全体性は、受け手にその構成諸部分以上のものを―それらの諸部分が知らせ、怒らせ、あるいは楽しませようと意図していることに関わりなく―教えている<sup>(21)</sup>と論ずることができよう。

我々もたまに経験することであるが、ここにも指摘されているように、たとえば友人の交通事故などのような自身のよく知っている事柄の場合、ジャーナリストが正確に提示しようとするのは、事実、名前、前人物、年齢といった「情報」に、間違いのあることがしばしばである。本稿で行った朝鮮日報と東亜日報の分析でも、同一事件を扱っていても、そうした「情報」のずれが散見したが、すなわちそれはニュースというものが、彼らのいうように、その本質的機能が神話的入り〈(mythological narrative)〉にあるからである。まさに提示されるのは、その社会や時代の世界観なのであって、「情報」の誤謬はここでは問題視されない。本稿では資料の扱いをこのように認識する。

新聞はこうした観点から見れば、単に事実の羅列的〈説明〉や出来事の〈伝達〉にその意図があるだけではなく、読み手に対し、語られる内容の〈意味〉を与えたり、逆に〈解釈〉を惹起させるような作用をもたらしている。新聞記事は「事件」の背景となるテキスト世界を解釈し、意味あるものとして構築し変換するという点で、一種の言説(ディスクール)なのであって、その言説、ディスクールの分析が本稿の主要な課題となる。換言すれば、どんな自殺が「話題」として取り上げられ、どのように「出来事化」していくか、その「語られ方」が問題となる。また新聞をこのように捉えることは、ニュースをコミュニケーション過程として、神話やフォークロアのように作用するものと見做すことであるといってもよい。つまり一定の文化共同体の成員は、神話やフォークロアを通して、代理的スリルを経験しながら、その文化が有する善悪・美醜などの文化的諸価値を学び、リアリティーを修復していくように、新聞のニュースにもまた同じ機能が認められるのである。

特に自殺というものは、いわゆる異常行動の一つとされるが、異常行動は文化に準じた正常行動の一面を、特に強化表現したものにほかならない。そればかりか、自殺にはそうした文化が規定する行動規範や価値基準等が、とりわけ明確に浮彫りにされ表出している。その民族・文化の心情や感情、価値観や美意識までが、自殺には集約的に表現されており、また自殺という一種の危機状況において最優先される論理や規範こそが、その民族・文化の最も本質的な部分(民族的特性)を表わしているといつてよい、と筆者は考えている。

「天国に結ばれる恋(坂田山心中・天城山心中)」の例を挙げるまでもなく、自殺は「神話化」されやすいのだ。<sup>(23)</sup> どんな死を美しいと感じるのか、自殺は「死の美学」の一つの結晶でもあって、それはまたどんな生を正しく美しいと考えるのか、各民族の理想とする生き方や人生観を教えてくれている。さらにまた今日の多様な「自殺事件」を読み解くことによって、その民族がおかれた現在、過去や伝統を引き摺りながらも変化し揺らいでいる現代の、多様な価値観の混在・交錯した姿を、掬い込むことが可能であると確信している。

話を方法に戻すならば、それゆえ、ここでは相互のコミュニケーション過程として、いわゆる「読者の声」といった欄等を、積極的に注視する。受容側の一般読者や世間の反応、それに対するマスコミ側の再応答といった、「交換」の過程を、特に注目していきたい。そこで、特に世情を賑わせた大きな「事件」に関しては、「出来事」のフォークロアとして、より詳細なコミュニケーション過程(神話化)を析出することにしたい(本稿では紙余の関係上かなり省略したが、週刊誌や月刊誌等今まで範囲を拡げて資料を収集したので、個々の「事件」ごとに、また別な機会に論じていきたい)。

## (二) 日本の自殺報道の傾向性と親子心中の実態

それではまず、日本における自殺・親子心中がどういうものであるか、またその新聞報道が全般的にどのような印象を与えているか、改めて紹介するまでもないが、確認のため、具体的に一九八九年一月一日から



一五日までの半月間の自殺記事すべてを、図2に示した。この図は後述するように、韓国の大学生二〇名のアンケート調査に際して用いたものでもあって、日韓の比較考察の際には、このなかの事例を日本の事例として用いることにする。

他の事例は具体的に一つ一つあげるのは煩雑になるので、一年分を分析して、後に表にまとめて示したが、この年、八九年の朝日新聞に掲載された自殺・心中に関する記事は一一九件、同じ事件が統報という形で複数掲載されたものを除くと、未遂を含め九五件の自殺が取り上げられている。このうち外国における外国人の自殺事件は一〇件、新聞報道の国際化を示しているが、ここでは考察の対象から除き、国内外で起こった日本人の自殺八五件を分析する。

前述したように朝鮮・東亜の一年間の掲載数は二〇〇件、それに比べて日本の自殺報道はかなり少ない印象を与えるが、朝日新聞の一〇年前、二〇年前の報道数を調べてみると、七九年二五五件、六九年二〇三件であり、自殺報道が極端に減ったのはここ一〇年来の傾向である。自殺に関する日本の公式統計数値となる厚生省人口動態統計によれば、この年八九年の自殺者数は二万三七四二名、一日平均六五名となるが、自殺率(一〇万名比)は一〇年前二〇年前とも同じ一七〜一八名前後であって、ほとんど変化していない。すなわち、新聞が自殺を取り上げなくなっただけで、私流にいえば自殺が「事件」にならなくなったのである。この経年的変化とその意味は、別稿で詳しく論じたが、それなりの理由がある。一言でいえば、日本社会が全般的に「死」を忌避し「死を語るこ

と」を隠蔽する傾向があることを映している。<sup>(24)</sup>

さて八九年の自殺報道八五件を、単独自殺、複数自殺に分けると、前者が四〇件、後者が三四件、このほかに日本独特な表現である後追い自殺が六件となる。後追い自殺は、時間的にずれた一種の「心中」とも解されるから、自殺に関する日本の報道は、約半数が複数自殺を伝えており、明らかに新聞の与える全体的印象は韓国のものとは大きく異なっている。そのほか場所や手段等によって分析したが(五四頁の表4)、その解釈は韓国との比較で後述したい。

ここで日本の親子心中を全般的に紹介しておけば、一九七五〜八〇年の少し古い資料であるが、表1で見えるように毎年、年間四〇〇件前後の親子心中が発生している<sup>(25)</sup>(この数値は未遂を含まない)。毎日必ずどこかで一件以上の計算になるが、この表でも母子心中が六三・一%を占めており、他の統計結果でも母子心中が圧倒的に多いことから、一般に日本の研究者の間では、親子心中の研究はイコール母子心中の研究として扱われる傾向があった。これに対して別な視角を示したのが、台湾の精神医学者林憲の比較研究であった。<sup>(26)</sup>

彼は日台の自殺全般の新聞報道を比較し、表2で見えるように、台湾には父子心中や一家心中が皆無であり、また複数自殺のうち夫婦心中が皆無である点、ここに両国間の特徴を見出した。本稿もこの林の研究方法に準拠しているが、彼によれば日中の自殺者や精神患者の示す精神徴候は全く逆で、台湾の母子心中は六例と絶対数も少ないが、そのすべてが、夫との不和や激しい口論、離婚や夫の女性関係等を原因とし、自殺

表1 日本の親子心中の類型別件数(1975~80年)

年次	父	子	母	子	一 家	そ の 他	計
昭和50(1975)年		70		335	60	21	486(件)
51(1976)		62		295	70	27	454
52(1977)		65		252	66	19	402
53(1978)		75		256	80	13	424
54(1979)		56		241	71	19	387
55(1980)		72		235	61	34	402
合 計		400		1,614	408	133	2,555
割 合(%)		15.7		63.1	16.0	5.2	100.0

(飯塚進 1982)

表2 日台自殺形態の差異

	日 本 (A新聞 1975年10月から1年間)				中 華 民 国 (L新聞 1969年1月から3年間)			
	男	女	人数計	件数	男	女	人数計	件数
単 数 自 殺	100	44	144	144	146	144	290	290
複 数 自 殺(心中) (内) 夫 婦 心 中	34 (23)	38 (23)	72 (46)	36 (23)	17 (0)	24 (0)	41 (0)	20 (0)
他殺・自殺(無理心中) (内) 親 子 心 中	27 (13)	48 (45)	75 (58)	75 (58)	23 (0)	10 (6)	33 (6)	33 (6)
自 殺 総 数	161	130	291	255	186	178	364	343

(林 憲 1982)

や子どもの道連れには、明らかに怒りが発露され、夫や夫の家族への復讐として行われるという。

中国人は不満と攻撃を自己以外の者に向け、〈無理心中〉も恋仲や家族以外の者とするのに対し、日本人は内罰的で、かつまた家庭内に起こった問題を強烈に自己の責任と感じ、それを家庭外に持ち出してはならないといった、日本人の家族区分意識や社会規範との関連も指摘される。すなわち日本の親子心中における子どもの道連れには、「(家族以外の)他人に迷惑を掛けたくない」というメッセージが隠されているといえるのであり、図2の事例3のデイズニールランドの一家心中事件においても、祖父に対して遺書が書かれるように、たとえ親族であっても、同じ家に居住する家族以外には頼ることのできない、現代日本の親子(核家族)の孤立化している状況が窺える。

### 三 韓国における自殺と〈親子心中〉の具体相

#### (一) 一九八九年九月から一年間の全自殺報道

さて本章では、主題である韓国の自殺記事に関し、具体的に紹介していく。表3は、調査を行った一九八九年九月からの一年間の朝鮮日報・東亜日報に掲載された「自殺事件」を、その後の続報や関連記事、また社説やいわゆる「読者の声」の欄も含めて、そのすべてをまとめたものである。ここでは「見出し」を中心に、記事名を副題も含めてまとめたが、それに若干の補足を行った「内容」「場所・手段」「摘要(形態・関連記事)」の項目を加えたので、個々の「事件」のおおよその概要に関しては、これである程度窺えるよう配慮した。

表3 韓国の自殺記事一覧(1989年9月から1年間)

No.	日付・新聞名	記事名(～副題)	内 容	場 所(下～手段)	摘 要
1	89. 9. 1・朝	教練服姿の3名, 首吊り屍体で発見～五台山で…自殺推定	男子高校生3名(2人の教練服には群山中央高のマーク, 近くにテント, 遺書はなし)	江原道・五台山中 ナイロンの紐で首吊り	3人同性心中
2	9. 1・東	[ごみ箱] (拘束中の結婚詐欺師, 警察署内で自殺劇)	前科6犯の33歳運転手(20代の職業女性2名に結婚に託けて1千余万Wを脅し取った詐欺及び婚姻憑藉姦淫罪の容疑者)	ソウル市江南区・江南警察署 調査係事務室で種類不明の薬を飲む	
3	9. 3・朝	[色鉛筆] 悲恋男女, 一か月間隔, 一つのところで自殺	29歳女性(女性は7年前に離婚. 35歳の男性と結婚の約束をしたが, 男性の両親に離婚女性ということで反対され7月28日に悲観自殺した男性の後を追う)	ソウル市東大門区・路上 男性と同じ電信柱に首を括る	(後追い自殺)
4	9. 5・朝*	勤労者5名集団焚身～仁川キョンドン産業, 懲戒方針撤回要求…2名は腹を刺して自害…面談した理事も禍…3名重態(東; 勤労者7名焚身割腹～仁川キョンドン産業, 懲戒要求…4名重態～理事1名も重態)	27歳ほか勤労者5名シンナー焚身, 26歳ほか勤労者2名割腹	仁川市・会社理事室 労組事務局前の運動場で焚身	7名集団自殺
*	9. 6・東	“集団焚身事前計画”警察発表～仁川キョンドン事件			(No. 4 関連)
5	9. 9・朝*	ソウル大生, 飲毒自殺, 大学生活適応できず	20歳ソウル大化学科2年(某大学教授の2男2女の長男)	ソウル市冠岳区・下宿の門間房 劇薬飲毒	
*	9. 9・東	焚身勤労者死亡, 火傷負った理事も～仁川キョンドン産業			(No. 4 関連)
6	9.10・朝*	50代警察官, 首吊り自殺～“少ない俸給で病気の妻治療できず”悲観～“貧乏に遭遇した父を許してくれ”遺書(東; “薄俸に家長の本分できず”と遺書, 28年警官首吊り自殺[顔写真])	50歳派出所勤務の警長(61年8月より勤務, 月47万3千Wで4食口を養うが, 10年前より妻が神経衰弱過消化症?)	ソウル市龍山区・公務員アパート (自宅)・首吊り	
*	9.11・東	[窓] 警官の哀切な遺書～「他人ごとではない」同僚たち溜息			
7	9.11・東	武装脱営兵自殺	22歳1兵(一家族3名を人質に1時間軍警察と対峙した後, 裏山で銃で自害)	全南道務安郡・集落の裏山 銃	
*	9.11・東	[横説堅説] (世界保健機構によれば, 全世界の自殺者は一日平均千名, 文教部資料によれば昨年自殺した中高生は126名に上った)			
8	9.12・朝	夫婦喧嘩で一家族飲毒, 妻・5歳の娘死亡	中古車販売業34歳, 妻29歳, 娘5歳. 夫は重態(妻の妹の話では, 平素より性格の違いで喧嘩多く, 家庭不和で)	ソウル市江東区・自宅 劇薬飲毒	一家心中
*	9.19・朝	中一高校生の自殺126名, 昨1年間～昼食欠かず高校生(小学生)8千2百名	文教部国会提出資料(原因は家庭不和39, 父母失踪20, 身体欠陥病気15, 貧困15, 厭世		

9	9.19・朝	試験成績不振悲観，女高1年生自殺	悲観12，欠損家族9，成績不良7の順) 16歳女子高1年自殺（今後3年も自信ないというテープ）	ソウル市陽川区・自宅向部屋 首吊り	
*	9.20・朝	労使紛糾焚身19名，88年以後…14名死亡	19日労働部が国会提出した資料		
10	9.20・朝*	“社会的な能力発揮できず” 悲観，大卒30代主婦自殺	C産業常務理事43歳の妻39歳（E女大図書館学科卒業，15年前結婚。2児を残し。平素から社会的に何か働かねばと）	ソウル市江南区・自宅アパート 首吊り	
11	9.22・東	[ごみ箱]（首吊りの真似をしていた中学1年生，紐解けず死）	12歳中1男子（最近友達と悪戯で首を吊る遊びをしていたら，気分が朦朧としてきて幻覚症状になったと家族に話していた）	江原道春城郡・自宅 縁側で首吊り	
*	9.26・朝	[朝鮮日報を読んで] 大卒主婦の自殺に衝撃，「小さな幸福」に満足していれば（読者女性・韓国鮮明会広報部長）			(No.10関連)
12	10.2・東	10代漢江で自殺騒動	25歳無職男性（高さ20cmのアーチに登り自殺騒動，1時間後，警察連行；見出しは10代）	ソウル市龍山区・漢江大橋 未遂	
13	10.6・東	借間生活苦悲観，4母女同伴自殺	27歳の母，5歳・4歳・1歳の娘と	ソウル市麻浦区・借間 練炭4個の火で	母子心中
14	10.12・東	[ごみ箱]（夫婦喧嘩で夫人自殺）	会社員30歳の妻26歳（先月中旬，中媒結婚したが，礼綴と函（婚資）の額の問題で夫婦喧嘩絶えず，この日も。しかし妻も夫に「若いのにもう禿げ頭になったのか」と）	ソウル市瑞草区・地下借間 首吊り	
15	10.15・朝	入試恐怖自殺続く～高3生漢江投身	17歳高3男子（一流大学へ進学する成績にならず悲観，父親を失望させるので，死を選んだという遺書，学級で3番から7～8番に落ちた）	ソウル市城東区・蚕室大橋 漢江投身	
16		…高入学院生は首吊り	17歳高入予備校生（父と3歳で死別しおじの家で育つ。高校入学連合考査に自信なし）	ソウル市道峰区・他人の住宅前 木に首を吊り	
17	10.28・朝	ブラック（フラク）に追われた大学生，飲毒自殺企図	26歳釜山外大4年在籍の運動家（釜山蔚山大学総連合会宣伝局長で，ブラックに追われる生活を悲観）	釜山市・自宅 劇薬服毒上自宅の2階から投身	
18	11.4・朝	飲酒事故の病院運転士，失職恐れて漢江投身	25歳運転手	ソウル市麻浦区・麻浦大橋 漢江投身	
19	11.4・東	労働活動の処女（未婚の若い女性）自殺～“利己心との喧嘩放棄” 遺書	電気会社の労組員女性20歳（「心のなかに存在もしない愛の火花を咲かせる自信がない」という遺書）	ソウル市城東区・借間 首吊り	
20	11.5・朝	高校休学生2名投身	17歳高校2年休学中の女子高生	ソウル市・ウンマアパート3棟 自宅4階から飛び降り	
21		（～高校中退の男性投身）	19歳高校3年中退の男性（No.20とNo.21は同じアパートであるが，心中ではない）	ソウル市・ウンマアパート21棟 30余cm下に飛び降り	

No.	日付・新聞名	記事名(～副題)	内 容	場 所(下～手段)	摘 要
22	89.11.7・朝*	旅館火災50人死亡、警察焚身自殺推定	50代男性(旅館の主人によれば、友人と争ってシンナーをかけられたので、入浴したいと言って旅館へ来た)	ソウル市鍾路区・旅館 シンナーで焼身	
23	11.8・朝*	婿が丈母(妻の母)殺害～同伴飲毒息子死ぬ	40歳男性(84年家出した妻の実家で、義母60歳を鈍器で殴殺、妻36歳は凶器で胸を刺して殺害、息子6歳と自身は農薬服毒)	江原道原州郡 農薬服用	一家無理心中
24	11.8・朝*	男女中3生同伴自殺～「勉強が人生のすべてか」遺書～2人は同じ班(クラス)の学生	15歳男子は自宅果樹園の梨の木で首吊り、14歳女子は管理房で農薬飲毒(同じ所に埋めて下さいと遺書)	京畿道烏山市・果樹園と自宅 男(首吊り)、女子(農薬)	男女合意心中
25	11.8・東	中3同じ班の男女2名、成績悲観で同伴自殺～進学悩みアパート投身自殺も	(No.24と同一) 仁川市南区の15歳中3女子(抱持のまま投身)	京畿道仁川市・中区のアパート 12階より投身	
*	11.9・朝	[萬物相](幸福は成績順ではない)			
*	11.9・東	[横説堅説](韓国の自殺率はある統計では10万名当たり44.6名、最近中学生の自殺問題が深刻、先々日も1日に中3生5名が)			
26	11.10・東	“農村へ嫁いだこと後悔する”20代主婦悲観自殺	営農後継者31歳、妻21歳、夫の母71歳(新婚9ヶ月目、農家に嫁いだ妻が飲毒自殺。それをみた夫とその母も農薬を飲み、母子は重態、妻は死亡)	江原道麟蹄郡・自宅内室 飲毒	成人親子心中
27	11.11・東	成績悲観女高生、電動車投身自殺	18歳高3生(E女子大進学希望であったが、クラスが下位へ落ちたまま上がらず悲観、最近精神錯乱症状さえ見えた。教会へ行くと言って家を出る)	ソウル市九老区・電鉄駅構内 線路へ飛び込み	
28	11.12・朝*	不具の体語(身体・言葉)を授かり民和委[5・18]証言、金来香嫌自殺企図[顔写真]	13歳恩恵学校5年女子(88年11月の民主和合推進委員会での80年の光州抗争の証言をした)	光州市・自宅 睡眠薬自殺(治療中)	
*	11.14・朝	[時論] 受験生たちよ、言う言葉がない金東吉(延世大教授)			
29	11.14・朝*	2億横領銀行支店長、北漢江で変屍体で	朝興銀行支店長48歳	京畿道加平郡・北漢江辺 漢江投身	
30	11.14・朝	弘益大学生会幹部、首吊り屍体で発見	20歳弘益大英文科2年(手帳に「死に対する考え」という文章とソウル大の受験票。警察はソウル大に2回落ち、大学生活にも不適應のための悲観自殺と分析)	ソウル市冠岳区・冠岳山遊園地 野営場の林で首吊り	
*	11.14・東	[読者の手紙] 中高生の相次ぐ自殺大きな悲劇～父母一流病反省する時(大邱市・読者)			
*	11.14・東	銀行支店長他殺嫌疑なし～警察溺死結論、顧客貸出事故に悩んでの自殺推定			(No.29関連)

* 11.15・朝	自殺企図したらしい、手首にナイフの跡～変死の銀行支店長			(No.29関連)
* 11.16・朝	[朝鮮日報を読んで] 自殺咎めた事例、受験生を説得にはならず(釜山市・読者)	(11月9日付の萬物相を読んで、当事者たちには「幸福は成績順ではない」という言葉も虚言に過ぎない)		
31 11.16・東	在美(在米)僑胞一家4名拳銃で同伴自殺	商店経営者33歳、妻34歳、子女2名(知人・近隣らによれば、夫婦仲も良く特別な問題はなかったが、文化の差異からくる衝撃を克服できなかったのではと見ている)	米国ユタ州オークデン市・自宅銃	一家無理心中
32 11.18・東	再修生焚身自殺～一流大に行く成績にならず平素から悩む	19歳浪人	ソウル市龍山区・漢江鉄橋で石油で焼身	
33 11.20・東	女子中2年生二人同伴自殺～顔の火傷悲観一緒に農薬飲み	14歳女子2名(「私たちの死をあまりなじらないで下さい。私たちは死んで一緒に平和に過ごします」という遺書。小学生時代火傷を負った一人が中学進学後、これを悲観していた)	全北道完州郡・自宅向部屋 農薬飲毒	2人同性心中
34 11.21・東	病院患者投身自殺	22歳女性入院患者(3年前から精神疾患を患い、3日前にも左手首を切り自殺未遂)	ソウル市西大門区・病院 5階化粧室の窓から投身	
35 11.24・朝*	内縁女性殺害後火をつけて自殺した模様～乗用車男女焼死、男性麻薬服用の可能性も[顔写真] (東;内縁男女車に閉じ込められ火で焼けた屍体で[現場写真])	ソウル市九老区のテニスラケット外販員41歳が27歳女性と	京畿道始興市・乗用車内 放火	男女無理心中
* 11.24・東	女子殺害後、男が放火自殺～乗用車内焼死			(No.35関連)
36 11.25・朝	ソウル大総学生会で、30代男性飲毒自殺	35歳(昨年8月馬山でオートバイに足を轢かれたが、保証が受けられずという遺書)	ソウル市冠岳区・ソウル大 総学生会事務室で劇薬	
37 11.25・朝	生活苦悲観の教師夫人、息子と同伴自殺	教師35歳の妻27歳が3歳の息子を道連れ(平素、近隣に生活苦を訴えていた)	京畿道富川市・自宅浴室 浴槽で?	母子心中
38 11.26・朝	大入の夢7年…結局果たせず、会社員練炭ガス自殺	26歳男性(82年高校卒業時、家庭事情で進学できず、幼い頃からの夢は教師になること)	ソウル市鍾路区・自宅向部屋 練炭ガス	
* 11.29・東	[医窓] 自殺は最大の敗北 洪剛義(ソウル大医学部教授・小児精神科)			
39 11.30・朝	「ずっと1番」だった高1学生自殺～重圧感・生活苦悲観	16歳高1男子(父親は85年より教会管理人として、月給32万Wで夫人と3男1女と一緒に教会地下室で生活してきた)	ソウル市江西区・教会横の空地 劇薬	
* 11.30・朝	高校試験年4回…月例考試廃止～市教委指示、成績強迫感を解いて続く非行を減らそうと			
* 12.1・朝	「高校4回試験」抗議の雨脚(抗議の嵐)～“考查減らせば勉強いつするのか”～“意欲減ってより脱線の可能性、自殺学生は年1回だけ試験受けても自殺”	(11月30日付の記事に対して)		

No.	日付・新聞名	記事名(～副題)	内 容	場 所(下～手段)	摘 要
40	89.12.1・東	大卒失業悲観自殺	28歳失業男性(2年前K大電子工学科を卒業後、就職試験を続けて落ち、これを悲観し)	ソウル市東大門区・自宅 部屋の壁で首吊り	
41	12.2・朝*	一般米取引量争った後、農民死ぬ…自殺推定	44歳農業(取引量少ないと里長と口論の後、焼酎2瓶飲み)	慶北道義城郡・河川 水深7㍎の川に投身	
42	12.3・朝	結婚持参金等に苦悶、20代主婦自殺	会社員32歳の妻25歳(持参金1千万W・屏風・ピアノを持ってきたのに、離婚話がしばしば持ち上がる)	ソウル市道峰区・婚室内室 練炭の火を吸ったまま	
*	12.3・朝	[一事一言] 期待水準と自殺 李有我(韓国教育研究院長)	(11月30日付の高校年4回試験の記事にも関連して)		
43	12.5・朝	“冷遇私の人生” 犬の首輪で首吊り自殺～40代家長、内室で	48歳設備業(父親がいなくなれば父親の必要性が分かるだろう、という遺書)	ソウル市城北区・自宅 首吊り	
44	12.5・朝	防衛兵M16乱射…同僚2人死亡	21歳の上兵同年歳の同僚2名殺害後	全南道莞島郡・陸軍部隊 手留弾で自爆	拡大自殺
45	12.6・東	農協の借金悲観、農民自殺	36歳農業(農協に借金800万W、飲毒自殺で入院で治療中であつた)	忠北道清原郡・自宅内室 飲毒	
*	12.6・東	深刻中高生自殺～「煩悶の泥沼」救出の道はないのか～“入試重圧感力持て余す”21%が1回くらい衝動～父母度を越した期待禁物、対話度々しなければ			
46	12.7・朝	失恋20代焚身重態	26歳運転手(もう一度会わせてくれと、元恋人22歳の母親に頼んだが断られ、シンナーを浴び)	ソウル市九老区・食堂(元恋人の母の経営店)シンナー焼身	
47	12.8・朝	夫婦喧嘩4名死ぬ～20代が妻・妻の姉殺害、30代息子と焼死	29歳無職、4歳の息子と石油を被り焼死(2つの事件、副題の前者は夫が妻と義姉を殺害し逃走;後者の見出しは30代)	ソウル市麻浦区・自宅 焼身放火	父子心中(夫婦喧嘩放火)
48	12.10・朝	老人亭で管理人焼死、生活苦放火自殺推定	53歳管理人(11年前妻と死別後、12歳と10歳の息子を孤児院へ送り、平素より罪多い人生だと言っていた)	ソウル市城東区・老人亭(自宅) 焼身放火	
49	12.10・朝	不具悲観20代飲毒	20歳無職の末っ子の男性	ソウル市城東区・自宅 劇薬服毒	
*	12.19・東	娯楽室3母女焼死、家長放火明らかになる(自殺ではないが参考事例として)	夫32歳が夫婦喧嘩の後、自分の店に石油を撒き放火、妻30歳と2人の娘を死なす	ソウル市道峰区・自営の店内)	夫婦喧嘩放火
50	12.20・東	退職60代、相次ぐ「虚脱感自殺」～“能力あるのになすべき仕事がない”前銀行支店長漢江投身	60歳前国民銀行道峰支店長(85年定年退職、平素、嫁の厄介になるのが嫌だと言っていた)	ソウル市城東区・遊園地から 漢江投身	
51		～退任経理職員、野山で首吊り	66歳元注油所経理員(85年20余年間勤務のガソリンスタンド退職。「何も役に立たない人間は早く死んだ方が良いと思う」)	ソウル市道峰区・自宅近く裏山 首吊り	

*	89. 12. 22・朝	[道] 自殺学生追慕祭	21日午後、ソウル市永登浦区城門外教会で追慕祭、全国教職員労組主催で2百余名が集まる		
52	12. 26・東	“農協の借金返済できず、田を奪われた”農民飲毒自殺	52歳農業（3年前農協から240万W、昨春息子の結婚のため600坪を抵当にさらに460万W借りる。1,800坪の田で8食口が生活していた。病院で25日午後5時死亡）	京畿道南楊州郡・自宅内室 飲毒	
53	12. 26・東	息子放り投げて息引き取るや、母悲観自殺	公務員32歳の妻29歳（1歳の息子を風呂に入れている最中ひどく泣きむずかり、腹立ち紛れにソファに投げつけた。角に頭をぶつけ9カ月間入院治療中であったが先月19日に死亡。自身も3カ月間精神疾患で入院治療を受けたが息子の死で責任感に苛まれ夫が連休で故郷へ行っている間に投身した模様）	ソウル市道峰区・自宅アパート 投身	(罪償感か)
54	12. 27・朝*	大入成績悲観母子自殺～母が農薬飲むや否や再修生（浪人生）息子後に従う	母42歳農業・長男19歳（入隊より三修した方がいい）	慶南道金海郡・自宅 農薬服毒	母子重複自殺
55	12. 29・東	夫婦喧嘩で火災、内縁の妻焼死～男は重火傷	42歳男の賃貸バラックに入居の内縁の妻38歳（腹立ち紛れで火を付けたのか、夫婦喧嘩中に暖炉が倒れたのか調査中）	ソウル市銅雀区・内縁の妻の家 放火	夫婦喧嘩放火
56	90. 1. 4・朝	大田一大家族5名焼死、妻が家出、妹の夫が放火	34歳義弟が派出所防犯員48歳一家宅に放火、自身も自殺、遺書で明らかとなる	忠南道大田市・妻の実家を放火後、川辺で首吊り	拡大家族心中
57	1. 4・朝	父子、漢江投身自殺～「家出した妻が帰らない」遺書	34歳商業が妻の家出を悲観し6歳の息子を道連れ（9月に妻家出、遺書と家族写真）	ソウル市城東区・蚕室大橋 漢江投身	父子心中
58	1. 6・東	悲観自殺増え ～開業できなかった医者、麻酔注射刺して死ぬ	45歳の産婦人科専門医（温陽市の病院から月250万Wでソウルの病院へ移る。帰宅後「人のもてなしを受けられず死にたい」）	ソウル市江南区・自宅アパート 治療用麻酔薬を左手に射ち	
59		～養母拘束、衝撃を受けた20代石油焚身	23歳無職男（カフェ経営の養母48歳が未成年者雇用・偷落行為強要・花代ピンハネ容疑で4日警察に拘束されたのに衝撃）	ソウル市西大門区・自営カフェ 店頭で石油を被る	
60		～“弟に劣等感”高校生首吊り	18歳高校2年男子（双子の弟と些細なことで争い家出。2年前神経衰弱症状で1年休学、弟より1学年遅れた上に、成績も落ちたことに悲観した模様）	ソウル市蘆原区・自宅近くのビル 地下ボイラー室で首吊り	
61	1. 7・朝*	情夫の息子を毒殺企図、40代男性飲毒自殺	46歳容疑者（昨年8月より妻と交際してきた情夫39歳の2人の息子を毒殺しようとし、警察の指名手配を受け）	京畿道江華郡・妻の父の家の前 大門前で服毒	
62	1. 9・朝	“不具の母かわいそう”20代の息子一緒に自殺	28歳の会社員が48歳の母と（3年前の列車事故で両足が使えなくなった母を見かねて）	京畿道烏山市・自宅内室 マッコリに薬を入れ	成人親子心中
63	1. 10・東	息子の大入落榜（落第）悲観、母首吊り自殺	文房具店店主妻44歳、長男の入試失敗に悲観	ソウル市瑞草区・自営の店内 首吊り	

No.	日付・新聞名	記事名(～副題)	内 容	場 所(下～手段)	摘 要
64	90. 1. 11・東	破婚衝撃の農村チョンガー, 旅館で投身自殺	京畿道驪州郡の28歳農業男性(婚約したソウルの女性から婚約破棄を言い渡されて悲観)	江原道江陵市・旅館 5階から投身	
65	1. 11・東	家の準備に借りた金詐欺に遭い, 一家5名同伴自殺	全州製紙雇用員39歳, 妻34歳, 10歳・8歳・6歳の娘と(アパート購入資金, 妻の兄からの1千万W, 姉からの百万Wを)	全北道全州市・借家 練炭ガスで	一家心中
66	1. 12・東	釜山の尹女人殺害容疑者, 旅人宿で飲毒自殺	釜山市釜山鎮区の29歳容疑者男性	釜山市北区・旅館 農薬飲毒	
67	1. 18・朝*	深夜営業団束(取締り)悲観自殺～スタンドバー楽士“収入3分の1に減った”	41歳楽士(一日3万Wが1万Wに, 借金多く中高に通う3子女の養育費問題)	ソウル市陽川区・下宿先 窓枠で首吊り	
68	1. 19・朝	成績悲観女高生自殺	16歳女子高1年(ノートに「勉強をよくして両親に孝行しなければならないのに私は何故こうなのか」とあり)	ソウル市麻浦区・城南大橋 漢江投身?(釣りで発見)	
*	1. 19・朝	[深層取材] 韓国自殺率“世界最高”10万名で48.7名に増え～男子・農村が女子・都市の2倍, 15～24歳死亡者中10%を占め～84年から癌等に続き「10大死因」に～生活苦8%だけ…ほとんど精神的挫折～平素“死にたい”行動突変するとき注意			
69	1. 22・東	姦淫嫌疑で被訴された30代, 警察出動に投身自殺	中浪区の無職31歳(婚姻に託け銀行員27歳を姦淫した男を女性の家族が申告し, 警察が出動したところ)	ソウル市鍾路区・棋院ビル 3階から投身	
*	1. 23・朝	[朝鮮日報を読んで]「自殺率世界最高」衝撃, 「自身の問題」認識対策至急(大邱市・読者)			
70	1. 23・東	誕生日に叱られて, 国校生(小学生)首吊り自殺	11歳小4男子(誕生パーティの真似してマッチの火で遊んでいたのを母に叱られて)	大邱市壽城区・自宅内室 首吊り	
*	1. 24・東	「自殺具体的に考えてみた」12%～青少年相談事例, 勉強一家庭一異性問題等のため			
71	1. 25・東	母子首を絞めたまま息絶え	無職31歳の妻29歳と息子4歳(ネクタイで首を絞めたまま, 部屋の練炭ガスで死んでいるのを発見)	ソウル市龍山区・借間 練炭ガスか	母子心中
72	1. 30・朝*	大学生が愛心した恋人を抱き抱えて焚身～2名とも焼死家全焼	27歳K大3年が女21歳S専門大2年と	ソウル市城東区・女性の家 揮発油で焚身	男女無理心中
73	1. 30・朝*	一家3名同伴自殺～30代女人の身病を悲観	運転手38歳の妻34歳が7歳の娘と5歳の息子を(87年3月から出産後遺症で肩と腰の痛症で苦しみ, 「私が死んだら子供たちだけでかわいそう」と平素から言っていた)	ソウル市麻浦区・自宅 練炭の火を吸って	母子心中
74	1. 30・朝*	中高生6名集団飲毒, 落榜一家庭不和等を悲観	16歳中3男子ほか同級生4名と17歳高1男子(高入総合考査に落ちて)	慶北郡清道郡・旅人宿 猫いらず(治療中)	

75	1.30・東	相次いだ集団自殺, 大きな衝撃 ～結婚拒絶の恋人抱き込み焚身 ～身の病悲観の主婦, 男妹と炭ガス吸って ～高入落第等, 中高生6名飲毒も (～高3生2名, 就職がために飲毒)	(No.72と同一) (No.73と同一) (No.74と同一) 18歳高3 男子同級生2名	ソウル市道峰区・自宅向部屋 酒を飲んだあと劇薬を飲み	2人同性心中
76		(～20代青年3名, 自分たちの境遇を悲観)	22歳空軍上兵ほか20代青年2名	ソウル市西大門区・旅館 飲毒(治療中)	3人同性心中
77	1.31・東	息子の脳性麻痺悲観, 夫婦喧嘩妻自殺	無職26歳の妻26歳(2歳の息子が生まれたときから病気をめぐって口喧嘩が絶えず, 夫婦喧嘩のあと投身)	ソウル市城東区・自宅アパート 自室から投身	
78	2.2・朝*	80代姑と分家できず悲観, 20代主婦飲毒自殺 ～二人の子女にも薬飲ませ重態	24歳農家の主婦が7歳の娘と5歳の息子を	忠北道堤原郡・自宅内室 劇薬	母子心中
	* 2.2・東	[医窓] 自殺の社会学 孟光鎬(カトリック 医大教授・子防医学)			
79	2.3・朝	大入落榜再修生自殺	19歳男子浪人	ソウル市銅雀区・近くの山裾 劇薬	
	* 2.7・朝	中高生60%自殺衝動経験～高校生36%飲酒… 麻薬服用も1%～保健社会研調査	自殺衝動経験者は中学生54%, 高校生72%		
80	2.13・東	“成績に左右されない世はないか” 高校生首 吊り自殺	17歳高2男子(母親から勉強をもっとしなさい という叱責を受け, 「この社会が成績で幸 福を見積もるので, 幸福を捜せない。成績に 左右されない世を望む」という遺書残し)	全北道南原市・自宅近くの山林 松で首吊り	
81	2.14・東	夫婦喧嘩放火で一緒に焼死～子女脱出, 隣の 店舗も焼く	鶏カルビ店主人の妻43歳が夫45歳と(夫が 「なぜ営業中に客席に座るのか」と詰め寄っ たところ, 妻が石油を撒き放火, 店舗3軒類 焼し, 被害推定額690万W)	江原道春川市・自営店舗 放火焼身	夫婦喧嘩放火
82	2.15・朝	騰った伝賃金準備できず, 50代首吊り自殺	54歳男性(2年前より伝賃で入居, 昨年から 医療生活で商売うまく行かず, 伝賃が350万 から450万に高騰し悲観)	京畿道城南市・伝賃房内室 冷蔵庫で首吊り	
	* 2.15・朝	[萬物相](最近の自殺について)			
83	2.16・朝*	就職できなかった大卒者, 借りた部屋で首吊 り自殺 (東; 蒙州留学帰国, 就職がために自殺)	30歳無職男性(86年ソウルの某大学経営学科 卒業し, 蒙洲の修士課程に進むが家庭事情で 昨年5月帰国。が就職ができず)	ソウル市中浪区・借間 壁にナイロンの紐をかけ首吊り	
	* 2.20・朝	[朝鮮日報を読んで][中高生60%自殺衝動] 成績が主教育変えねば(全北道・読者)			
84	2.22・朝*	家長が家族4名殺害～無職40代自分も屋上か ら投身自殺 (東; 家族4人殺害後自殺～釜山40代家長ア パート屋上から投身)	49歳無職の家長が43歳妻・20歳と14歳の娘・12 歳の息子を凶器等で殺害(警備員と次女の級 友が訪ねると, 屋上へ行き「私の家族だ。そ ばへ来たら落ちて死ぬ」といって飛び降りる)	釜山市東萊区・自宅アパート 投身	一家無理心中

No.	日付・新聞名	記事名(～副題)	内 容	場 所(下～手段)	摘 要
85	90. 2. 23・東	大入試落榜悲観, 再修行首吊り自殺	農家の長男20歳(昨年の入試に続き, 今年の入試も失敗したという消息を聞いて家族が心配していたところ)	京畿道華城郡・自宅裏 柿の木で首吊り	
*	2. 23・東	[読者の手紙] 貰入者の自殺他人事のようにではない～大家の「もっと出せ」「出る」に心揺れ, 安い家を探し, 町外れを彷徨う自身に遣る瀬なさ(京畿道議政府市・読者)			
86	2. 24・朝	漁夫の息子失踪衝撃, 7旬(70代)老母自殺	77歳老母(16日43歳の息子が金海で操業中, 船が転覆, 行方不明という消息を聞いて)	全南道莞島郡・自宅前の菜園 劇薬	
87	2. 27・東	「煙草吸う」面責聞き, 高校1年生首吊り自殺	清掃代行業の長男16歳	ソウル市城東区・自宅向部屋 首吊り	
*	2. 28・東	徐勝氏今日放免か～拷問受けて自殺企図～ 3・1節仮釈放措置			
*	3. 1・東	[読者の手紙] 相次ぐ自殺に予防策はないか～庶民とともに息する政治が物足りない(ソウル市・読者)			
88	3. 2・朝	AIDS恐怖等神経衰弱症勢, 主婦二人の娘連れて自殺	教師35歳の妻29歳が3歳と1歳の娘を(子供たちをあなたに任せないで私が連れて行くという遺書。86年より神経痛と神経衰弱で通院。テレビを見て症状が似ていると思ひ込み, 26日保健所に検査を受けに)	京畿道水原市・自宅アパート 練炭	母子心中
89	3. 2・朝	生活苦悲観自殺企図, 息子死んで母女重態	無職36歳妻43歳が, 10歳の息子と8歳の娘を	ソウル市龍山区・自宅内室 練炭	母子心中
90	3. 7・朝	一家族3名同伴自殺	30歳労働者, 妻29歳, 娘2歳(3日に妻が兄へ電話, 家族が和睦できず, 毒薬を皆で飲んで死んでしまいたい)	大邱市・借間の地下室 飲毒か	一家心中
*	3. 7・朝	中高生性犯罪37%急増～1年間, 自殺原因家庭不和が第一	文教部の7日国会提出資料, 88年の小中高生の自殺126名(うち高80名, 中38名, 小8名)		
91	3. 7・東	“勉強自信ない”悩む, 高1年生自殺	会社員の息子16歳	ソウル市九老区・自宅向部屋 首吊り	
92	3. 8・東	暴騰した伝賃金工面できず苦悶, 20代女性社員自殺	21歳会社員(大家から伝賃期間の終わる3月末までに部屋の明け渡しを。伝賃金350万Wでは到底部屋を求められず悩む)	ソウル市九老区・借間 睡眠薬と練炭ガスで	
93	3. 10・朝*	婚需の借金に追われた夫婦連鎖自殺～二日間に飲毒・首吊り…「雪山」の利子に苦悶	個人タクシー運転手55歳の妻53歳が飲毒, 翌日夫も松の木で首を吊り(3年前長女29歳の嫁ぐ際に借りた1千余万Wが)	釜山市・自宅と近くの裏山 妻(自宅飲毒), 夫(裏山で首吊り)	(後追い心中)
*	3. 11・朝	[社説] 父母まで奪い取った婚需の借金			(No.93関連)

94	3.13・朝	再修生漢江へ投身～「役に立たない人間」遺書	京畿道安養市の19歳男子浪人（もう私がすることに嫌気がさした、私は取り柄のない人間だ）	ソウル市永登浦区・市民公園堤漢江投身	
95	3.13・朝	満酔行悖（浪藉）の息子を押し失神するや、父飲毒自殺～息子も病院で死ぬ	65歳父、26歳息子（酔った息子が嫁に離婚したか不埒な行い、父親が止めに入るが）	慶南道蔚州郡・自宅農薬	成人父子心中（罪償感）
96	3.15・朝	息子の婚需準備に苦悶、50代家長自殺	55歳不動産紹介業（4年前事業に失敗、ひどい憂鬱症勢。来る30日末の息子の結婚式であったが、婚需費用の用意に悩む）	ソウル市永登浦区・自宅階段で首吊り	
97	3.15・東	父母離婚生活苦悲観、姉妹勤労者自殺	21歳工員、17歳工員の姉妹（離婚後の父母が自分たちを顧みないことと生活苦に悲観、姉に「世渡りに疲れて先に行く。子供にどういふ訳か神経を使わない父母が憎い」という遺書）	ソウル市中浪区・借間劇薬服毒	姉妹心中
98	3.17・朝	伝貰房（部屋）捜せなかった60代、練炭ガス自殺	67歳労働者（引っ越しをしようとしたが、伝貰暴騰で悲観）	ソウル市道峰区・借間地下練炭ガス	
99	3.17・朝*	鄭鎬溶氏夫人自殺企図～アパートで睡眠剤服用…手首刺傷～鄭氏“候補辞退しない”[写真]／盧大統領・二人の娘宛に哀絶な手紙～鄭鎬溶氏夫人浴槽に水を張って動脈を切り～病室門の中へ移動担架～夫は夫人の横で徹夜の看病～鄭氏“傷中まで深く…今日全貌公開”[写真]／選挙戦略か神経の弱体化～鄭鎬溶氏夫人はなぜ自殺企図したか～“辞退圧力に対し示威”の分析も“名誉回復”鄭氏より執念募り～夫は候補登録病院で知り…選挙影響莫大な模様[写真]	国会議員補欠選挙立候補者夫人45歳（2人の娘と盧大統領宛に夫を許してくれという遺書、鄭氏は第5共和国時代に活躍した政治家。1面トップのほか18～19面の3面にわたる記事）	大邱市・自宅アパート手首刺傷の上睡眠剤服用	
*	3.18・朝*	“切迫状況”“選挙戦略”依然疑問点～鄭氏夫人自殺企図と大邱の表情～退院後自宅で外部接触断って療養～“親知税務査察等に悩み”…市民たち同情論優勢、選挙影響憂慮…警察市区庁気づかい無関心[写真]			(No.99関連)
100	3.19・朝*	武装脱営、戦警自殺死体で発見	21歳戦警（戦闘警察、機動隊）隊員	済州道・月邱峰頂上銃	
*	3.20・朝*	“辞退懲憑・税務査察に悩まされた”自殺企図鄭鎬溶氏夫人インタビュー～“夫の出馬は固執のため”と周囲で誤解多い～手首の傷口見せられない…“選挙より懸念にやるつもり”～睡眠剤量等を措いて“真意だ”“故意だ”各々解釈[写真]／鉛筆削りのナイフで手首を切った”鄭鎬溶氏夫人会見			(No.99関連)
101	3.23・東	生活苦で女国校生4名、集団自殺企図…済州	11歳の女子小学生4名（猫いらずを飲んだが分量少なく助かる）	済州市・慈悲書院の庵付近猫いらず（未遂）	

No.	日付・新聞名	記事名(～副題)	内 容	場 所(下～手段)	摘 要
102	90. 3. 24・朝	家族の治療費作れず、50代家長首吊り自殺	57歳無職(3年前に警備員を辞めたが、妻が奇病に見舞われた上3子女も皆病気、貧困と疾病に悲観)	ソウル市銅雀区・自宅 床天井の垂木にネクタイをかけ	
103	3. 24・東	6万Wの部屋を明渡すことになった家長、伝賃金なくて自殺	西大門区の33歳溶接工(1日当り7,500Wの収入で5大家族を養う。21日に5歳の息子を連れて家を出てから消息不明、息子の横に「生きるのがしんどい」という遺書を残す)	ソウル市龍山区・漢江大橋 漢江投身	
*	3. 26・東	[焦点]「盧面談」二つの事例…終わった揺れる「決意」～鄭鎬溶氏出馬宣言から辞退し咬まで～「夫人自殺企図」で心境どきまぎ～與園(与党)説得一圧力説…23日だけで「辞退」 [写真]			
104	3. 29・朝*	貰房得られず、また自殺～20代主婦首吊り	運転手29歳の妻29歳(昨年10月から1部屋月賃2万Wずつで2部屋借りていたが、値上げのため引っ越ししようとした)	大邱市・借間 ストックキングで首を吊る	
*	3. 31・朝	「貰房得られず自殺」関連、匿名の読者が誠金	(現金30万W)		(No.104関連)
105	3. 31・東	子女問題で夫婦喧嘩、妻殺害し夫自殺	44歳運転手が子女の養育問題で夫婦喧嘩、36歳の妻を首を絞め殺害後首を吊る	ソウル市松坡区の賃貸地下房 首吊り	夫婦無理心中
106	4. 1・朝	7旬夫婦同伴自殺～独身の嫁に濟まない	79歳の夫と77歳の妻(難しい家庭事情の中で、6年前夫と死別した後も、鮮魚の行商で世話を続ける嫁50歳に申し訳ない)	全南道宝城郡・自宅内室 劇薬	夫婦合意心中
*	4. 2・朝	[朝鮮日報を読んで] 苦しい庶民の生活、6共に失望大きい(ソウル市・読者)			
107	4. 2・東	暴騰した伝賃金工面できず、主婦練炭の火を吸って自殺	労働者48歳の妻36歳(「家もなく希望もない」という遺書)	ソウル市松坡区・賃貸地下房 練炭	
108	4. 4・朝*	家庭不和悲観の30代主婦、二人の娘と投身自殺	合職職員38歳の妻33歳が11歳と8歳の娘を(1月にこのアパートに引っ越してきたが、夫婦喧嘩絶えず)	慶南道馬山市・自宅アパート 屋上5階から投身	母子心中
109	4. 4・朝	成績不振中学生自殺、「お母さんの過剰自信ない」	14歳中3男子(お母さんの期待は1～2番を要求するが…、妹にも母の所願を叶えてやってという遺書)	大邱市・ゴルフ練習場裏の野山 松の木にナイロン紐で首吊り	
*	4. 7・朝	鄭鎬溶氏出国～昨日L Aへ…旅行期間等不明 [写真]			
110	4. 9・朝*	集団暴行逃れ、女工が川に投身～10代8人組犯行、4名検挙4人追跡～友人1名は醜行のあと川の中に突き落とされ (東；女勤労者醜行逃れ江に投身失踪～10代9名が洛東江堤防に2名を誘引～1名は集団	19歳女工(友人19歳は失踪)	釜山市江西区・洛東江堤防 洛東江投身	

		醜行後「証人を無くす」と水葬企図…5名検挙)			
*	4. 9・朝	[月曜企画韓国病(4)] 破鏡・自殺まで…狂った誇示欲, 過多婚需だんだんと「雪だるま」～物量・額数が「情誠の尺度」に適甲(化ける), 「禮綴」にミンクのコート・コンドミニアム会員券まで			
*	4. 10・東	[横説堅説](4月9日付の集団暴行事件はじめ, 最近の未成年者の行動に関して)			
111	4. 11・朝*	家貰苦悶一家3名自殺～家長は重態“貧困代々伝わり”悲観遺書 (東; 伝貰金工面できず悲観, 一家族4名集団自殺～“経済政策失敗, 庶民の首を絞める”と遺書 [一家の写真])	40歳不動産仲介業・妻38歳, 息子9歳・娘7歳(親の代からの貧しさ子息の代まで伝わるだろう, 暴騰する不動産価格に私の家の準備の夢も消え庶民の悲哀を子息には感じさせたくない。4年前保証金50万W月貰9万Wで借りていたが, 再契約したいなら4月までに100万W用意するよう大家に言われて)	ソウル市江東区・借間 練炭	一家心中
*	4. 11・東	[窓] 失政者に知恵を与え給え～自殺した家長, 葬礼費として100万W残し			(No.111関連)
*	4. 12・朝	[社説] ある家長の遺書			(No.111関連)
*	4. 12・朝	[道] 「家貰自殺」家長が残した文章			(No.111関連)
*	4. 12・東	[社説] 住宅と自殺			(No.111関連)
*	4. 13・朝	成績悲観投身・家貰苦悶自殺・借金返せず飲毒「ひとつだけの生命」あまりにたやすく捨てる～死ぬ勇気で生きる努力を～「子女同伴」は殺人…現実逃避はだめ [No. 111の子女の写真]			(No.111関連)
*	4. 13・東	自殺, 社会・経済不安時に急増～最近の伝貰金暴騰, 入試関連犠牲増え～春季に強い衝動, 多く発生～延大辛承哲教授分析			(No.111関連)
*	4. 14・朝	“自殺は最も大きな罪悪だ”人の生命は創造主の物～相次ぐ同伴自殺…宗教啓導慨嘆～「疎外された近隣」愛ある社会作らねば～父母が行う同伴自殺は神への挑戦			(No.111関連)
112	4. 14・朝*	農村に嫁いだ20代主婦, 劇薬飲んで自殺	24歳主婦(ソウルで職場生活後3月中旬労働者39歳と結婚。しかし農村の生活に適応できず口喧嘩絶えず, 自身の身の上を悲観)	忠北道中原郡・自宅向部屋 劇薬	
113	4. 14・東	娘殺害し自殺企図, 職場求められなかった30代	35歳無職が2歳の娘を凶器で殺害, 自身も凶器で(身体が衰弱し職求められず)	大邱市・借家向部屋 凶器	父子心中
114	4. 16・東	農村の老チョンガーまた自殺	37歳独身男性(8日に中媒で見合いをしたが結婚まで至らず)	忠南道青陽郡・自宅 農薬を飲む	

No.	日付・新聞名	記事名(～副題)	内 容	場 所(下～手段)	摘 要
115	90. 4. 17・朝	[色鉛筆] 吸煙主婦、夫にやり込められ自殺	公務員30歳の妻28歳(2人の娘を亡くした昨年 から夫婦喧嘩が絶えず)	ソウル市江西区・自宅 腰紐で首吊り	
*	4. 18・東	[時事漫画] 経済現実～伝貰金悲観自殺、黒 い金、猝富(成金)どこに使おうか?(読者)			
116	4. 20・朝	高麗大宿直職員変死、遺書残し…自殺した模 様	38歳電子計算センター職員(銀行から金を下 ろして借金を返してくれという遺書)	ソウル市城北区・高麗大職場 不明	
*	4. 21・朝	[朝鮮日報を読んで] 衝撃的な同伴自殺、子 息に何の罪が(釜山市・読者)			(No.111関連)
*	4. 21・朝	[朝鮮日報を読んで] 伝貰金自殺頻発、為政 者は責任を(ソウル市・読者)			(No.111関連)
117	4. 24・朝	別居共働き主婦、二人の子女同伴自殺	33歳主婦が12歳の息子と9歳の娘を(20日京 畿道安城市で労働する夫と別れ、仕事を求め 引越してきたばかり)	全南道和順郡・借間 練炭	母子心中
118	4. 25・朝*	所持品検査で煙草見つかった女高生、4階か ら投身重態	17歳女子高2年	ソウル市・S女子高 4階会議室から投身	
119	4. 25・朝*	精神疾患10年…ホテルで飲毒～鄭夢禹氏自 殺、23日投宿劇薬飲み～憂鬱症悪化入院中外 出～江南南ソウルホテル、農薬瓶一錠剤の猫 いらず発見～下着姿で椅子に座ったまま息絶 え～鄭氏前の晩日式店(日本式食堂)で洋酒 飲み、“酒過ぎないか”と問うと“気分悪くて も一杯”と～霊安室出入統制、鄭周永氏立ち 寄る[写真2葉]／長男に続き鄭氏家門二度目 の悲運～自殺で生を終えた鄭夢禹氏の周辺～ 夢弼氏82年交通事故死～夢禹氏高校のとき頭 打って発病…長期間治療、父鄭会長に胸痛む 軀に～現代アルミニウム、本社に一度も立ち 寄ったことなし、職員たち“外国に出たと思 っていていた”と[写真]	45歳現代アルミニウム会長(現代グループ鄭 周永名誉会長の4男)	ソウル市江南・南ソウルホテル 服毒	
120	4. 26・東	借金苦悶一家5名旅館で自殺企図～2名死に 3名重態	33歳夫婦が死亡、父母と弟26歳は重態(天安 から上京し24日に1カ月2部屋36万Wで投宿 した一家)	ソウル市九老区・旅館 飲毒	一家心中
*	4. 27・東	“胃腸薬だと偽り、家族に劇薬飲ませた”～ 「一家集団自殺企図」50代主婦が陳述	合意による集団自殺と見るよりは、予備役陸 軍中領(中佐)62歳の妻53歳に、建設事業失 敗で精神分裂症状まで見えるので、陳述の通 りの可能性があると警察は推定)		(No.120関連)
*	4. 28・東	自殺貰入者の合同追悼式～経実連「伝貰者の 相次いだ犠牲は私たちの痛み」	経済正義実践市民連合は28日午後3時、大学 路マロニエ公園で、最近の暴騰する伝貰金に よる自殺者14名の合同追悼式を持ち「貰入者 の相次いだ自殺は他人事ではなく私たちすべ		

121	5. 3・東	警官が家族3名拳銃殺害～「姉妹葛藤苦悶」 自身は自殺企図重態…扶余 [顔写真]	ての痛みであり、私たち社会の恥ずかしい断面である」とし、すべての国民が不動産投機を抑制しなければならないと促した。	全北海道扶安郡・自宅 拳銃	一家無理心中
122	5. 4・朝*	「統一社」労組幹部焚身自殺、馬昌工団16社 操業拒否～勤労者千名焚香し給え、籠城	交通係所属の警長31歳が、妻30歳と長男6歳、末の息子1歳を殺害、本人と娘2歳は重態（母58歳と妻の争いに母に「分家して住むので許して欲しい」と懇請したが拒絶された。3年前自身の乗用車で長男を轢き、脳性麻痺症を患っていた上に嫁姑の葛藤でひどく悩んでいた。3男2女の長男で、妻子父母に末の妹と住んでいたが、同僚の話によれば、内省的な性格で口数も少なく、母が行商等で子供たちに教育をうけさせたので、親思いはこの上なかったという）	昌原市・社内食堂2階屋上から シンナーで焚身し6階下に投身	
*	5. 5・朝*	焚身勤労者の屍、警察が家族へ引き渡すよう ～霊安室進入連行	慶南道警は病院霊安室へ兵略を投入、屍身を守り籠城していた勤労者ら149名を連行、屍を家族に引き渡した。		(No.122関連)
123	5. 7・東	夫婦喧嘩後に家に放火、一家2名死亡3名火傷	56歳家長と3女16歳が死亡、妻50歳・長女25歳・次女19歳は中火傷で重態（酒に酔ったまま妻と口喧嘩、台所にあった石油を撒き放火）	大田市・自宅 放火焚身	夫婦喧嘩放火
124	5. 9・東	恋人殺害後投身自殺、“父母が結婚 反対” 遺書	九老区の写真館従業員25歳が恋人24歳と（城東区の喫茶店入口の階段で、1年間つきあってきた不動産仲介業職員の恋人の腹と脇腹を凶器で刺殺、自身は中区のアパートの非常階段から投身。「母の反対で私たちの仲が遠くなった」という遺書）	ソウル市中区・アパート 17階から投身	男女無理心中
125	5. 9・東	別れた父に会えなくて悲観、女中生飲毒自殺	14歳中2女子（夫婦は10年前家庭不和で別れ義父に入籍して暮らして来たが、平素別れた生父に会いたいと言っていた）	京畿道水原市・自宅向部屋 種類不明の薬	
126	5. 10・朝*	成大で靴を漁って捕まった20代、「ブラクチ」 調査中に投身	29歳男	ソウル市鍾路区・成均館大 4階から投身	
*	5. 11・東	[生活通信] 自殺心理と予防講座	ソウル市仁寺洞対話基督教社会福祉館で		
127	5. 12・朝	女中生成績悲観自殺	14歳中3女子（中間試験で前に座った親友に答案を見せてと頼む、成績が悪かったら一緒に死のうとも誘う）	ソウル市江東区・近所の高層アパ ート10階屋上から投身	
128	5. 12・東	“父母の過剰保護嫌だ” 高3年生首吊り自殺	16歳男子（8日に遅く帰宅し叱責を受け「過ぎた干渉が嫌だ」と家出していた）	ソウル市冠岳区・裏山 中腹の松に首吊り	

No.	日付・新聞名	記事名(～副題)	内 容	場 所(下～手段)	摘 要
* 129	90. 5. 15・朝 5. 17・朝*	自殺・薬物・性暴行威脅急増, 青少年保護要領3巻出刊～事前予防・父母等の役割紹介 師匠の日に女教師の恋人同士刀三昧, 男教師死亡加害者自殺 (東; 三角関係殺人～女教師とつきあっていった20代が男教師を殺害後自殺)	27歳無職(大学以来交際してきた25歳の女教師の部屋で口論, 台所にあった包丁で33歳の教師を刺殺した後, 手首を切る)	慶北道蔚珍郡・女教師の部屋 包丁で手首を切る	殺害後自殺
* 130	5. 18・東 5. 19・東	青少年自殺の誘惑に弱い, 勉強圧迫・家庭不和・異性問題～“具体的に考えてみた”12%～父母度を越した期待禁物「一人で立つこと」教えねば～平素と違う態度が見えたとき暖かい関心が必要 家撤去の戒告を受けた生保者(無住宅生活保護者)自殺	労働者41歳(14日区庁から17日までに家屋を撤去しなければ, 18日強制撤去するという戒告, 夜の眠りも損なう等悩む)	京畿道城南市・近所の松林 首を吊る	
131		～農協の借金2千万Wで苦悶, 20代夫婦も	3月に結婚した28歳と24歳の夫婦(昨年と今年4月の2回農協から借金。コンバインとトラクターを購入し賃労働。農機械が普及し働こうとも仕事がない上に機械が故障し悩んでいた)	京畿道江華郡・向部屋 劇薬飲毒	夫婦合意心中
132	5. 21・朝	身病悲観30代主婦, 二人の子女と自殺企図	33歳主婦が7歳の息子と5歳の娘を(母は出動した警察に救助されたが子女は死亡)	京畿道儀旺市・貯水池 入水	母子心中
133	5. 21・東	成績悲観, 女高生自殺	18歳高2女子	釜山市・自宅アパート 15階から投身	
134	5. 24・朝*	独立闘士の息子割腹重傷～日大使館前で「日王(天皇)謝過」の口号(スローガン)を叫んだ後に刺す[写真]	34歳ビデオ撮影技師	ソウル市鍾路区・日本大使館前 割腹	
* 135	5. 25・朝 5. 25・朝	独立闘士の後孫には入院費もなかった～日大使館前割腹金國賓氏生活苦呻吟～祖父は臨政議政府議長金朋濬先生～高母ら家族6名が独立運動, 金氏貧困のために大学も行けず[写真] [色鉛筆] 結婚した恋人輪禍死悲観自殺	32歳無職(大学時代から8年間交際した恋人が今月初め他の男性と結婚したが, 交通事故死。遺書には彼女を他の男に嫁がせたからこうした死を迎えた, あの世で幸福に暮らそうと)	ソウル市道峰区・旅館 劇薬服用	(No.134関連) 後追い自殺
* 135	5. 26・朝	割腹「独立闘士後孫」に誠金上げ潮～独立運動史専攻教授は月給抜き取り50万W“気軽”に, 議員・会社員ら切り詰め…賛助額は治療費全額			(No.134関連)

136	5.26・東	伝貰の引上げ金2百万W工面できず、60代家長投身自殺	建材商66歳(昨年保証金950万W月貰4万Wで入居。20日家主が伝貰200万Wへの値上げを通告、工面できず毎日酒飲み悩む)	釜山市・借家 3階屋上から投身	
137	5.26・東	練炭の火を焚いたまま、3名の母子変死	女子中学教師34歳の妻31歳と息子7歳・5歳(外傷も遺書もなく、平素家庭不和もなかったという夫の言葉に従い、警察は自殺か否か調査を進め、死体を剖検に)	大邱市壽城区・自宅 練炭	母子心中
138	5.26・東	警官貧しき悲観自殺…城南	城南警察署民願室巡警31歳(妻26歳に「済まない」という内容の遺書から、生活苦と借金に悩んだ末)	京畿道城南市・自宅内室 首吊り	
139	5.27・朝	子供の時育った孤児院の裏山で自殺～工場失職20代	25歳失業男性(3歳の時から救世軍運営の孤児院に、81年洋靴店に就職し離れるが、3か月前失業し孤児院周辺を訪れる)	ソウル市麻浦区・孤児院裏山 松に首吊り	
140	5.29・東	労組設立瓦解抗議、焚身勤労者死ぬ	41歳木材工場勤労者(昨年10月第1工場勤労者と一帯に労組を作ろうとしていたが、会社が瓦解を進め、第2第3工場勤労者の設立した労組と団体協約を締結するや否や、これに抗議、シンナーで焚身、病院に運ばれたが28日死亡)	仁川市・木材工場野積場(貯材) 焚身	
*	5.31・朝	「割腹」金國賓氏に光友会員たち誠金	(光反会員10万W)		(No.134関係)
141	6.2・朝*	病院逃走の義警(義務警察)殺害犯、検問でじず自害死亡～昨晚新村で	前科3犯の29歳脱走犯	ソウル市新村・路上 ナイフで首を	
142	6.2・東	アパート一家3名被殺～主婦男妹(兄妹)凶器で刺され～40代家長「皆自殺した」と申告	貿易業40歳の妻36歳、娘11歳、息子9歳(夫が泥酔して帰宅、朝目を覚ますと家族の被殺死体を発見、警察に申告、熟睡し何も物音は聞こえなかったと述べたが、知人に「家族が皆自殺した」といったり、外部からの侵入の痕跡がなく夜明けに夫婦喧嘩の声を近所住民が聞いたことなどから、警察は夫が殺害したのか、妻が子供たちを殺害後自殺したのか捜査中)	ソウル市松坡区・自宅アパート 食物ナイフで	母子心中
*	6.3・朝	金國賓氏に誠金	(匿名読者10万W)		(No.134関連)
*	6.5・朝	金國賓氏に誠金引き続き	(10万W3名ほか3万W1名)		(No.134関連)
143	6.5・東	大入落榜悲観自殺	商人の長男24歳無職(85年に高校卒業後、続けて入試に失敗、就職もできず悲観、ひどい憂鬱症に悩まされていた)	ソウル市麻浦区・自宅 自宅別棟化粧室で石油で焼身	
144	6.5・東	離婚家庭の国校生、軒に首を吊って自殺	11歳小学5年男子(鉄工所勤務の父親によれば、4年前離婚、平素「他の子供たちのようにお母さんと一緒に住みたい」と言っており、欠損家族の生活苦を悲観した父の言葉を聞いて)	済州道西帰浦市・自宅 家の軒で首吊り	

No.	日付・新聞名	記事名(～副題)	内 容	場 所(下～手段)	摘 要
*	90. 6. 6・朝	「割腹」金國賓氏退院, 誠金750万W殺到	4日午後退院し, 当分の間妹の家で静養するが, 誠金はこれまでに総計750万Wに至った。		(No.134関連)
145	6. 6・東	“入試地獄のない国…” 遺書, 高校生飲 毒 自殺	16歳高2男子(「学校教育の方法が変わればいい。私人死んで国の文教政策に変化が起き, 再び生まれたら入試地獄がない国で教会活動をしたい」という内容の遺書5通)	忠南道公州郡・高校寄宿舎 劇薬服用	
146	6. 7・朝*	“息子の家で冷待(冷遇)” 悲観, 8旬おばあさん自殺 (東; 84歳老母子息薄待自殺～3人の息子の家を転々…互いに顔背ける)	84歳老女(5月初め水原市の長男60歳の家から, 自身の問題で家庭不和を起し, 次男の会社員54歳の家に移ったが…)	仁川市・息子の家の大門 大門に補聴器で首を絞める	
147	6. 7・朝	解職担任の復職運動をしたが睨まれ, 女高校生投身自殺	18歳大邱慶華女高3年(また生まれたら誇らしい娘になるでしょう。運動圏の学生と一度烙印を押されたらずっと除け者扱い, その疎外感を感じと遺書)	慶北道慶山市・嶺南大 人文館4階から投身	
*	6. 7・朝	病院で夫婦喧嘩放火, 6名火傷…待避騒動 (犯人に自殺企図の様子は記事には見えないが, 参考事例として)	麻浦区の35歳製菓会社配達員が妻32歳らを(協議離婚のため家裁に行く途中夫が暴行, 全治3週間で入院中の妻を訪ねて来た夫が再度離婚撤回を迫ったが, 妻が拒絶するヤンナーを振り撒き放火。次男8歳が仲裁に入ったが院務部長46歳ら6名が中火傷を負う。妻は平素から夫の賭博癖に悩んで来た)	ソウル市麻浦区・病院 放火	
*	6. 8・東	自殺企図80%が憂鬱症患者～軫林大医大石在鎬教授調査～治療うけても回復期より危険～14～24歳自殺率全体の3分の1占める			
148	6. 10・朝	縫製工の処女家長, 生活苦悲観自殺	20歳縫製女工(稼いでも稼いでも光がなく, 社会を経験しながら世間が険難であることが分っていたが, こんなに大変とは知らず, 妹に勉強を続けさせようと思ったのに本当に疲れた)	ソウル市恩平区・借間 練炭	
149	6. 11・東	「真の教育実践要求」遺書, 女高校生自殺企図…大邱	16歳大邱園華女高1年(No.147の追慕祭に参席後悩み, 「真の教育実践のためにこの世をまず去る」という遺書残す)	慶北道慶山市・嶺南大 総合講義室4階から投身(未遂)	連鎖自殺
150	6. 12・朝*	警察学校乱入に抗議, 女大生1名焚身	20歳江原大師範2年女子(総学生会人権福祉委員会広報部長, 8日の警察の校内押収捜索に抗議, 顔等に重火傷)	江原道春川市・江原大 シンナーで焚身(治療中)	
151	6. 12・朝*	原爆被害者飲毒重態～6旬老女, 日大使館前で賠償要求[写真]	65歳女性	ソウル市鍾路区・日本大使館前 農薬服用(治療中)	
*	6. 12・朝*	「老母虐待」息子夫婦に令状～悲観自殺させた	7日付報道の84歳老母の自殺に関し, 長男59歳とその妻53歳に尊属虐待容疑で令状		(No.146関連)

*	6.12・朝	[道]「順玉や、ごめんね…」	生活苦で自殺した処女家長20歳の生いたちと遺書を紹介(忠南道で5人兄妹の3番目で育つが10歳の時、相次ぎ父母が死去、82年上京、14歳から家政婦として働きはじめ、苦勞を重ねる)	(No.148関連)
*	6.12・朝	韓淑子嬢にも10万W	10日付の生活苦で悲観自殺した韓淑子嬢の妹、順玉嬢16歳に	(No.148関連)
152	6.12・東	怪漢3名に拉致された20代酒類販売員、農業無理やり飲んで息絶え	29歳酒類販売員の男性(10日晚11時頃、怪漢3名に車で拉致、山の中で暴行され、無理やり農業を飲まされたと言った)	慶南道感安郡・路上 農業服用
153	6.12・東	運動継続強要受け苦悶、女高ホッケー選手自殺	17歳高1女子(身体が衰弱選手を辞めようとしたが、体育教師殴打までして運動を強要、学校側も運動せずなら学校を辞めるよう脅迫、去る5月20日自主退学届を出した後も悩む)	江原道東海市・自宅 飲毒
*	6.12・東	[窓]「死より劣る生」45年～飲毒原爆被害者「無関心が悲しかった」		(No.151関係)
*	6.13・朝	韓順玉嬢に誠金	(20万7百W, 20万W, 10万W)	(No.148関連)
154	6.13・朝*	無許板子村(バラックのスラム)撤去抗議、50代住民焚身企図	57歳男性(市長面談を拒絶され石油で焚身、腹と胸に火傷)	京畿道軍浦市・市庁本館前 焚身(治療中)
*	6.13・東	[横説縦説] 原爆被害者と日本の被害賠償について		(No.151関連)
*	6.14・朝	被爆関連自殺企図、李孟姫氏日本で治療～日本人周旋し無料で		(No.151関連)
*	6.14・朝	[道]「(金のない)人たちの誠金	(幕勞働で働く56歳男性が、朝鮮日報社を直接訪れ、順玉嬢へ少ないながらも20万5千W義援していった話)	(No.148関連)
*	6.14・東	江原大生示威激化～5千余名が非常集会…街頭進出も、焚身関連の油印物(印刷物)配布		(No.150関連)
155	6.15・朝	身病悲観してきた主婦、二人の娘と一緒に投身自殺	京畿道美金市の主婦28歳が5歳と4歳の娘を連れ	京畿道南楊州郡・河川 入水
*	6.15・朝	[朝鮮日報を読んで] 8旬老母の自殺、世間にこんなことが(ソウル市・読者)		(No.146関連)
*	6.15・東	江原大等2千名、深夜中心街で示威～焚身関連事態拡大		(No.150関連)
*	6.16・朝	韓順玉嬢に相次ぎ誠金	(ソウル某中学1クラス52名120Wずつ1万2千Wほか、10万4500百W, 5万W)	(No.148関連)
156	6.16・東	解雇勤労者首吊り自殺	昌寧郡の20歳男子勤労者(去る5月16日コリアタコマを解雇され、失職を悲観)	慶南道馬山市・銀行ビル 首吊り

No.	日付・新聞名	記事名(～副題)	内 容	場 所(下～手段)	摘 要
*	90. 6. 16・東	江原大事態妥結の糸口～教授・学生代表, 知事仲裁の4カ項受容	教授代表は学生側に, ①警察署長の人事措置 ②破損器物は調査の上全額補償③拘束学生釈放は検察と協議④道警局長が総長に謝罪の4条件と, 従身学生の治療費は総長が全額負担と提示		(No.150関連)
*	6. 17・朝	韓順玉嬢に誠金, 田雲氏就業約束も	タレントの田雲(韓国放送文化院長)が30万Wと卒業までの援助, 希望すれば放送文化院の職員に採用することも(ほかに読者4万Wに匿名で10万Wの誠金)		(No.148関連)
*	6. 17・東	江原大事態道知事取捨案, 学生非常総会拒否			(No.150関連)
*	6. 18・朝	[朝鮮日報を読んで] 全教組関連の投身, 生命重要なこと知らず(大邱市・読者)	(女高生の連続自殺に対して)		(No.147関連)
157	6. 18・東	「保健治療院学術大会」阻止抗議, 30代幹部自殺企図	保健治療院会副会長36歳女性(確固たる身分保証もなく低賃金に悩む農漁村勤務の保健診療員の地位定立等のため学術大会を準備していたが, 籠城糾弾大会に変質することを憂慮した保健社会部が大会を中止, これに抗議。遺書を保社部・内務部・経済企画院長官・言論者に送る)	京畿道始興市・保健診療所事務室で鎮静剤40錠服用	
*	6. 19・東	[横説堅説](最近の青少年, 農民, 貴金高騰自殺等について)			
*	6. 20・朝*	「血液型誤判」が三人の家族の死を呼んだ～主婦・息子・娘の変死事件, 同伴自殺と判明～夫30年前のO型判定を盲信, 息子A型に疑妻…不和に拡がって (東;間違っていた血液型が悲劇呼ぶ～松坡洞アパート3母子変死自殺断定～A型40代夫O型と思い, 息子A型に疑妻症で家庭不和)	6月2日付の松坡アパート母子変死事件		(No.142関連)
*	6. 22・朝	“もしかして私の血液型間違っていないか”～「3母子惨変」衝撃 病院ごとに再確認の“人波”～国校時の検査20%が誤判, 保社長官も最近「間違い」発見～市教委, 中学校時に再検査の方針			(No.142関連)
158	6. 22・東	家庭不和悲観の主婦, 2子女を殺害	37歳主婦が息子7歳と娘4歳を(ストックキングで)子女殺害, 自身もそれで木に首を吊ろうとしたが切れ, 続いて湖に投身自殺を図るがこれも未遂に終り, 脱力状態で発見される)	京畿道春川市 首吊り失敗後, 湖に入水	母子心中
159	6. 22・東	[ごみ箱](漢江に投身した故郷の先輩を救おうとした男性, 急流に吞まれ失踪)	江原道旌善郡出身の23歳建築現場人夫(失踪したのは同僚の同郷先輩22歳, 生活苦で死のうとしたが, 後輩失踪で余計辛いと)	ソウル市江東区・江東大橋 江東大橋建設現場から投身	

*	6. 23・朝	金國賓氏にまた誠金	(江南親睦会員30万W)		(No.134関連)
*	6. 24・朝	“倥傯な世の中に必ず勝ちます” 韓順玉 嬢 悲しみ踏み越え再び立ち～各界激励一誠金大きな力 “姉の分まで熱心に生きなければ”～“困難でも他人を救ける隣人たちの澄んだ社会を学び” [写真]			(No.148関連)
*	6. 26・朝	韓順玉嬢にまた誠金	(読者がそれぞれ10万W, 5万W, 13万W)		(No.148関連)
160	6. 26・朝 <sup>4</sup>	美海軍捜査官内室で変死体で (東; 美海軍捜査要員自殺)	35歳米海軍文官	ソウル市銅雀区・自宅アパート首吊り	
161	6. 29・東	生活苦悲観, 警官自殺	51歳大田西部警察署情報1係長警衛 (娘を怒り「皆見るのも嫌だ, 出ていってしまえ」と娘を殴った後ネクタイで首吊る。平素から子女3名の大学高校に通学資金による生活苦を悲観)	忠南道大田市・自宅玄関首吊り	
162	6. 29・東	70代老人自殺相次ぐ～安城・釜山で3名飲毒 (~70代ぐらいの老人2名が農薬を飲み)	70代の老人2名	京畿道安城郡・野山の芝生農薬服用	2人同性心中
163		(～息子があまり訪ねに来てくれないのを悲観して, 劇薬飲む)	70歳男性 (船員の27歳次男が今月初めに帰国したが, あまり来ないと不平。27日に次男の来た際, 争いとなった後「息子が無視した」と悲観していた)	釜山市・自宅内室劇薬服用	
*	6. 30・朝	韓順玉嬢に誠金	(匿名読者3万W)		(No.148関連)
*	6. 30・朝 <sup>4</sup>	自殺発表の義警死因疑惑～鶯梁津警察署, 事件5日過ぎて古参が殴打事実は認	19歳義警 (事件当日面会した母ら家族の死因究明要求で自殺か過失致死か再調査)	ソウル市銅雀区・鶯梁津警察署内務班建物から投身	
164	7. 1・朝 <sup>4</sup>	女大生成り済ました20代処女, 6歳女兒誘拐殺害～幼稚園に“母だ”と電話, 淑大水道タンク室で首を絞め～犯行4日後銀行で身代金引出し捕まる, 連行中地下鉄投身負傷…5日にも誘拐未遂～“変心恋人の歡心買おうと犯行” 拾った学生証偽造…4年間家族欺く [写真3葉]	23歳誘拐犯の偽女子大生 (地下鉄乙支路入口駅プラットフォームから入線してきた車両に飛込む)	ソウル市中区・地下鉄駅ホーム飛込み	
165	7. 2・東	高校生登録金払えなくて自殺	18歳高3男子 (五月中に納付しなければならなかった高校の授業料2・4分期の12万7千8百Wが払えないことに悩む)	京畿道南楊州郡・自宅前工場正門で首吊り	
*	7. 4・朝	韓順玉嬢の後援人に前恩平区庁長が結縁	(区庁会議室で結縁式)		(No.148関連)
166	7. 5・東	母の家出を悲観, 自殺	15歳中3男子 (父親が事業に失敗し, 母と争いが絶えなかったが, 1か月前に母が家出, 学校にも行かなかった)	釜山市・自宅巨室首吊り	
*	7. 6・朝	韓順玉嬢に誠金引き続く	(教会信徒8万W, 市庁職員ら20万W, フィリピン在住の韓国人労働者ら135人)		(No.148関連)

No.	日付・新聞名	記事名(～副題)	内 容	場 所(下～手段)	摘 要
167	90. 7. 6・東	成績悲観の高校生相次ぎ自殺 (～光州で高校生, 統一号に飛び込む)	18歳光州市の高3男子(「父母の心を楽にさせてあげられず担任の先生を困らせてきた私。こんな私が存在すること自体が矛盾」という内容の遺書)	光州市・慶全線鉄道 飛込み(4日夜)	
168		(～木浦でも女高生, 統一号に飛び込む)	18歳木浦の女子校3年(大学進学に負担を感じると内容の遺書)	全南道木浦市・湖南線鉄道 飛込み(先月25日)	
169		(～「勉強だけ求める先生と社会が恨めしく呪わしい」と女高生)	18歳光州の女子校3年	光州市・第4水源地の裏山 松の木に首を吊る(先月14日)	
170	7. 7・朝*	賃金協商に不満, 農薬飲んで自殺～三星重工勤労者	36歳三星重工組立1課外厨房班長	慶南道巨濟郡・三星重工 所長室で農薬服用	
*	7. 7・朝	[道] 血液型誤判自殺ではない	(夫の疑妻症による家庭不和が原因とした松坡アパート母子変死事件の警察の結論に対し, 納得できないとする夫の反論)		(No.142関連)
171	7. 7・東	アパートで投身, 79歳老人自殺～息子の事業不振を悲観	会社員45歳の母79歳(最近次男40歳の事業が振るわず, 普段「私が早く死ねば子供たちが楽になるはずだ」と言っており, 息子に負担を与えないために)	ソウル市江南区・自宅アパート 投身	
172	7. 10・東	解雇労組委員長, 焚身自殺企図	22歳全労組委員長(去る5月30日組合員13名とともに集団解雇を受けたことに悲観)	慶北道清道郡・カトリック教会 教会内広場でシンナーで焚身	
*	7. 11・朝	韓順玉嬢に誠金	(熱管理施工協会, 全国体育大会でのアイスクリーム販売代金41万3千W)		(No.148関連)
173	7. 11・東	“友達を嘲弄が堪えられない”と遺書, 輪禍で脳を痛めた高校生自殺	理容師の次男高2男子(85年交通事故で脳を痛め通院治療中だったが, 平素級友らが「サイコ」とからかうのを悩んでいた)	ソウル市城北区・自宅 劇薬飲毒	
*	7. 13・東	“自殺麻薬の誘惑から逃れよう”～説明挿画を添えた本「新生活予防相談」出刊で話題			
*	7. 14・東	焚身自殺企図の労組委員長息絶える	(14日夜明け前に死亡。解雇理由は労組の結成)		(No.172関連)
174	7. 22・朝*	内縁男女焚身自殺～病院で男が火を付けて, 患者5名も火傷 (東; 変心愛人の病室放火一緒に焼死～40代男性揮発油振り撒き患者5名火傷…3名は重態)	42歳中華料理店店主が入院中の内縁の妻35歳と(夫と死別した女性と12月から同居したが, 酒癖が悪く女性が家出, それを悲観)	ソウル市九老区・病院 シンナーで放火	男女無理心中 (夫婦喧嘩放火)
175	7. 23・朝	借間で一家4名死体で発見～バス運転士家族, ガス・水道開け放しのまま, 自殺推定, 他殺可能性も捜査	運転手38歳, 妻33歳, 娘16歳, 息子12歳(保証金250万Wの部屋から20日前, 保証金900万W月貰6万Wの地下室に移転してきた)	ソウル市中浪区・借間 ガス	一家心中

176	7. 24・朝	姦通した妻、飲毒強要で自殺～30代の夫拘束、人々の前で農薬を飲ませ	商業38歳の妻38歳（88年2月に隣村男性を姦通罪で訴えたが、この日酒に酔って妻を30センチ離れた市場の前に連れて行き「他の男と姦通した女だ」と喚きながら10余名の面前で死を強要）	慶南道宜寧郡・市場入口 農薬服用	
*	7. 24・朝	あっけない2つの死～内縁男女の焚身自殺で、病室火災“とんだ災難”ギブス国校生・70代老女火傷…ついに息絶え			(No.174関連)
177	7. 25・東	恋人の結婚反対を快心(恨み)、抱きかかえて漢江に投身～30代運転士だけ死ぬ	安養市の30歳タクシー運転手が喫茶店従業員30歳の恋人と	ソウル市江西区・オリンピック大路横、川岸から漢江投身	男女無理心中
178	7. 27・朝	金銭問題悲観60代夫婦、睡眠剤飲んで同伴自殺	66歳不動産業が妻60歳と	ソウル市中浪区・自宅内室 睡眠薬服用	夫婦合意心中
179	7. 27・東	学科首席卒業女大生、“就職うまくいかない”と悲観自殺	大邱市の24歳無職女性（88年慶北大地質学科を首席で卒業、慶州で学習塾講師をした後、相応しい職業を求められず悲観）	忠北道俗離山・法住寺 劇薬飲毒	
180	7. 28・朝*	農薬振り撒いて息子・孫致死～70代、息子の酒酔に激憤、自身も飲毒…3代死ぬ	72歳老人が息子の労働者35歳を、孫8歳は過って農薬のかかった匙を使って	慶北道清道郡・自宅 農薬	拡大家族心中
181	8. 1・東	大卒生就職できず自殺	松坡区の29歳無職男性	ソウル市松坡区・蚕室体育館前 漢江投身	
182	8. 5・朝*	男性社員に性暴行されて、女性職員投身自殺	同僚の会社員26歳に暴行された22歳経理女社員（翌日出社後、「悔しく恥ずかしくて生きていけない」という遺書残し）	ソウル市城東区・龍星遊園地 漢江投身	
183	8. 5・東	“家出した妻を捜し出せ”と妻の妹を殺害後30代自殺	水原市の35歳無職が妻の妹26歳を（6月末経営の麵工場が借金で他人の手に渡った後、夫婦喧嘩が絶えず、妻が家出。毎日妹の家を訪れ、この日も口喧嘩の後、刺身包丁で妹の胸と脇腹を4カ所刺し殺害。避暑に来ていた妻の甥ら二人は助かる）	ソウル市銅雀区・妻妹の家 刺身包丁で胸を4～5回刺し	拡大家族心中
	8. 7・東	釜山名勝太宗台「神仙岩」が「自殺岩」の悪名～今年に入って9名、昨年8名が命断つ～自殺者ほとんど外地から来た20代前半の女性；“秀でた景観に投身衝動…出入り阻まねば”			
184		(～ソウルから友人2名と一緒に来た女性)	22歳会社員女性（「こんなところで死ねば恨も恨もなくなる」と友人に言って、一度失敗し2度飛び込む。数日前に帰宅時間に遅れて父母に叱られ一度家出して戻ったが）	釜山市・太宗台 投身（5日午後12時20分）	
185		(～父母や妹、会社の友人の前で投身した天安の女性)	21歳会社員女性（靴とハンドバッグを揃え「この世が嫌、良いところに先に行く、御免なさい」という遺書）	釜山市・太宗台 投身（6月27日午後6時）	

No.	日付・新聞名	記事名(～副題)	内 容	場 所(下～手段)	摘 要
186	90. 8. 8・朝*	“苛酷な行為、後遺症悲観” 30代除籍生が焚身自殺…漢陽大講義室で (東; “拷問がもたらした人間破壊” 衝撃～焚身自殺した崔東氏～反独裁労働運動で投獄2回, 被害妄想ひどく自殺企図数回 [写真])	成均館大4年中退の30歳男性(83年集会及び示威に関する法律違反容疑で9カ月拘束, 昨年4月にも国家保安法違反の容疑で拘束され9日に釈放される。自宅の机の引き出しから発見されたノートには「措置所で受けたむごい行為により無気力で無能な人間になって何か自分ですることがない」というメモが)	ソウル市城東区・漢陽大講義室でシンナー焚身	
187	8. 9・朝*	脱営戦警(機動隊員), 調査中投身自殺	脱営容疑で調査中の21歳戦警	ソウル市鍾路区・ソウル市警7階から投身	
188	8. 9・東	家出母女溺死体で, 夫婦喧嘩…自殺推定	江東区の24歳主婦が娘と(1日昼発見され, 娘の溺死体も引き続き発見される)	ソウル市江東区千戸大橋(発見)入水	母子心中
189	8. 10・東	高大生サークルルームから投身重傷～平素学生運動で悩み	20歳高麗大機械工学科2年(去る6日故郷の大邱から父母の反対を押し切って上京したが, 「ドイツ哲学講座会」のサークル活動に没頭することに対し悩んでいた)	ソウル市城北区・高麗大学生会館3階から投身	
*	8. 10・東	焚身自殺した崔東氏, 葬地が5・18墓域に～あす対共分室の前で路祭(遺奠祭)			
190	8. 11・東	放学課外(夏休みの課外授業)に圧迫感, 高校1年生自殺	17歳高1男子(虚弱体質で, 学校の補習授業以外にも予備校2カ所も通う等, 過重な学業の負担感に克つことができず)	ソウル市冠岳区・自宅向部屋首吊り	
191	8. 12・朝	二人の息子の首を絞め殺した後, 30代離婚男飲毒自殺	38歳(職業不載)が7歳と5歳の息子を(75歳の母宛遺書に「全てのことは私の目が暗くてこうなりました。他人に累を及ぼすのは嫌なので, 子供たちを連れて行きます」と)	全南郡木浦市・共同墓地農薬服用	父子心中
192	8. 14・東	失郷老婆が飲毒自殺	寺庵に寄居の86歳老女(前日姪に会いたいという電話。この日姪が来て一緒に寝ていたところ, 台所で氷酢酸を飲む)	大田市・竜花寺氷酢酸服用	
193	8. 15・朝	女大生, 校庭で変死体で～光州ソンウォン専門大, 角材持った男子学生らに引張られ～性暴行避け投身・殺害の可能性	19歳食品学科1年女子大生	光州市・ソンウォン専門大投身	
194	8. 15・東	アレルギー皮膚病を悲観, 女大生自殺	22歳ソウルS女大仏文科4年(ノートに「季節の変わり目毎に皮膚病に悩んできたが, 今年の夏は日光を浴びたら赤い斑点が生じる等余計悪化し生きていく勇気が失われた」と遺書)	ソウル市江南区・自宅睡眠剤30余錠服用	
195	8. 15・東	夜明け漢江に投身, 8旬失郷民が失踪	松坡区の83歳失郷民(前日散策中に妻81歳に同伴自殺を要求, 拒絶されたが, 最近体の衰えを悲観していた。夫婦は1・8後退時に故郷平原道から越南, 末の息子39歳と暮らしてきた)	ソウル市城東区・蚕室大橋大橋南端50mから投身	

	*	8.21・朝	夜明けに校庭で変死の女大生，性暴行受けるや投身～専門大生ら3名拘束	(再修生3名も手配中)		(No.193関連)
196		8.28・東	産業災害処理遅れ…3カ月自費治療，生活苦悲観の鉱員自殺	31歳中央開発鉱員(去る5月8日採炭作業中腰を強く打つが，目撃者もなくその後も働いたことから公傷の認定が遅れた)	江原道旌善郡・自邑の寺入口の松の木で首吊り	
197		8.29・朝	妻の家だけ大事にすると不満，60代，息子の前で自殺	64歳無職(酒に酔って息子29歳の妻23歳に「実家が粗忽だ」となじったが「なぜ年の若い妻をなじるのか」と息子に言われ)	ソウル市銅雀区・自宅息子の前で劇薬飲毒	
198		8.30・朝	旅館投宿の男女，同伴焚身自殺	40代ぐらいの男性と20代女性(石油の臭い，片手を繋ぎ合ったまま，温突の床に横たわっていた)	ソウル市中区・旅館焼身	男女心中
199		8.30・朝*	性暴行受けた女高生，農薬飲んで死ぬ	18歳女子高2年(高校生4名から集団暴行を受けこれを悲観，病院で7日間の治療の甲斐なく，27日晩死亡)	慶北道星州郡・自宅裏庭農薬飲毒	
	*	8.30・朝	[萬物相](女子大生の集団性暴行による投身自殺事件と現代の教育・犯罪に関して)			
	*	8.30・東	[窓] 焚身女大生と母親～涙ぐむ看護3カ月…生の意志を取り戻してきた	(6月の江原大で焚身企図した女子大生の病状と母親の話)		(No.150関連)
200		8.31・朝*	労組幹部二人が焚身…4名重態～安山金剛工業，2名は脇にいて一緒に逢変～休業抗議籠城中シンナー振り撒き (東；労組幹部焚身8名重火傷～協商決裂抗議で正門籠城，戦警接近するや自殺企図…安山金剛工業～同僚たちに火の道拡がり…1名は危篤[写真])	29歳労組副委員長，38歳福祉厚生部長(労組員80余名と籠城中副委員長が自身の体にシンナーを振り撒くが，傍にいた労組員29歳と労組委員長28歳も重態，ほか4名も足などに火傷)	京畿道安山市・会社正門前焚身	

[凡例]

- (ア) 「No.」欄は事例番号であり，記事名ではなく「自殺事件」に対応している。一つの記事に2つ以上の事件が記載されている場合もあり，例えばNo.16は「入試恐怖自殺続く」という見出しで，No.15と一つの記事を構成している。また\*は続報あるいは関連記事である。
- (イ) 「日付・新聞名」欄の「朝」は朝鮮日報，「東」は東亜日報を示す。事例に関しては朝鮮日報を優先し，東亜日報の見出し等は省略したが，東亜日報にも掲載されたものは，\*印で示した。
- (ウ) 「記事名」は記事の見出しを直訳した。韓国語特有の表現を生かし，不明な部分は( )内に日本語を註記した。また見出しのない記事に関しては，筆者が記事名を補い全体を( )で括った。～副題は活字ポイントの小さな見出しを当て，また最初の[ ]は新聞のコラム名，最後の[ ]は写真の掲載を示す。
- (エ) 「内容」欄は自殺遂行者の年齢・性別・職業を中心に記し，また「記事名」だけで内容の判断のつかない場合，詳細を補った。
- (オ) 「摘要」欄は注意事項として自殺形態(単独自殺以外のもの)と記事の関連を中心に記した。



(年貰)に月貰(월세)を組み合わせるが、月貰は返却されない。

「事件」はこうした韓国特有の住宅の賃貸慣行と、ソウルオリンピック以降に急騰した物価と地価の暴騰という社会背景によって生み出されたものといえるが、ここでは一家の写真も掲載された東亜の記事(図3)で紹介したい(朝鮮日報の場合も社会面のトップで大きく掲載されたが、第一報であり、死亡した長男の名前、年齢等にミスが多く、内容的にも東亜の記事とかなり重なるため、煩雑さを避けるため省略する)。

「事例 a-1」 伝賃金工面できず悲観し家族四名集団自殺「経済政策失敗、

庶民の首を絞める」遺書 (No. 111, 東亜日報, 九〇年四月一日)

賃貸料暴騰で、借問を探すことができなくなった家長が、夫人と二人の兄と妹等、一家族四名が練炭ガスで同伴自殺を企図し、四人皆息を引き取った。

一〇日午前九時一〇分頃、ソウル江東区千戸一洞三三の黄某氏(五〇)宅の半地下単間房(一間の部屋)に賃貸で入居していた嚴承郁氏(四〇・不動産仲介業)一家族が、部屋の中に練炭火鉢を置いたまま、息子の洪誥君(八・小学三年)、娘の志英嬢(七・小学一年)は事切れており、嚴氏と夫人金順和氏(三八)が苦しげに呻いているところを、近所の住民が発見した。

近所の朴英淑氏(四〇・女)によれば、この日嚴氏の夫人金氏と洞内の教会で会うことになっていたが、約束の時間から一時間過ぎても現われないので、家に探しに行ってみると、幼い兄妹は息絶えており、嚴氏夫婦は呻き苦しんでいたということだ。

嚴氏夫婦は出動した警察によって付近の江東聖心(病院)へ移されたが、酸素タンクの酸素が尽きヨナム病院へ再び移され、治療を受けていた最中、金氏はこの日午後二時半頃、嚴氏は一日深夜一時頃、順次、息を引き取った。

亡くなった嚴氏は「暴騰する不動産価格に自分の家の夢はさておき、毎年上がる家の貸借料も充当できない庶民の悲哀を、家族たちには感じさせたくない」という内容の遺書を残した。

嚴氏の遺書にはまた「経済担当者たちが卓上空論で実施する経済政策の度に外れて失敗し、貧しい庶民の首を絞める」という言葉も入っていた。

嚴氏は自殺を企図しながら「葬式費用」と書いた封筒に、一〇万ウォン相当の自分名義の延小切手九枚と一万ウォン紙幣一〇枚等、一〇〇万ウォンを入れて、室内の机の上に置いておいた。

伝賃金が準備できず自殺した「事件」は、何もこの事例が初めてではない。表3でもみても明らかのように、No. 82の「騰った伝賃金準備できず、五〇代首吊り自殺(朝鮮, 九〇・二・一五)」、No. 92の「暴騰した伝賃金工面できず苦悶、二〇代女性社員自殺(東亜, 九〇・三・七)」、No. 98の「伝賃房捜せなかった六〇代、練炭ガス自殺(朝鮮, 九〇・三・一七)」、No. 103の「六万Wの部屋を明渡すことになった家長、伝賃金なくて自殺(東亜, 九〇・三・二四)」、No. 107の「暴騰した伝賃金工面できず、主婦練炭の火を吸って自殺(東亜, 九〇・四・二)」と続いてきたが、広く耳目を集めたのは、このNo. 111の「事件」からであった。

なぜこの「事件」だけが、韓国社会に後に述べるような大きな衝撃を与えたのであろうか。事前に類似の「事件」が連続していたこともある。また他とは違って、これが子どもも巻き込んだ一家同伴自殺であったこともあろうが、もう一つの要因として、詳しくは後述するような、その「遺書」の抗議性が、世論を激しく喚起したといえる。続いて、こ

れに対する社会の反応も、詳しくフォローしておきたい。

「事例 a-2」 「窓」 失政者に知恵を与え給えく自殺した家長、葬儀代に

一〇〇万ウォン残し (東亜日報、九〇年四月一日)

「主よ、政治する者たちが卓上空論で実施する経済政策の度に外れて失敗し、庶民の首をこれ以上絞めることのないよう知恵を与え、(金の)ない者たちの絶望と挫折が継続されないようにして下さいませよう」。

伝賃金を用意できず悩んだあげく一〇日、家族と一緒に命を絶った嚴承郁氏(四〇)は、遺書に自身を死に至らせた誤った政治政策を、このように批判した。

四年前ソウル江東区千戸一洞の三坪の大きさの半地下単間房に、保証金五〇万ウォン月賃八万ウォンで借りて入った嚴氏は、昨年一月家主の要求で月賃を九万ウォンに引き上げられた。嚴氏はたとえ単間房ではあっても、自身が遺書に「天使」と表現した夫人および二人の子女と一緒に、別に心配もなく暮らしてきた。

彼の悩みが始まったのは、先日中旬家主の黄某氏が建築許可を受け、家を改築するといつて部屋を明渡すことを要求されてから。

彼は「部屋を明渡してくれという言葉を聞いたあと、一日も心が安らぐ日があった」と遺書に書いた。

嚴氏は高等学校を卒業したあと軍に入隊、運転兵として勤務した。彼は除隊後去る七五年から弟(三二)と一緒に用達車(メーター付きの小口運送トラック)を運転したり熱心に働いたが、貧しさから脱することはできなかった。彼は八八年当時、民政党の金某議員の車を運転する随行秘書として月六〇万ウォンずつ貰い、就職して多少生活の安定を得るようになった。

しかしこんな生活もそれほど続けられなかった。昨年一〇月自身がちょっと席を空けたあいだに、誰かが車を打ち壊したことに對する責任を負って、彼は辞

表を出した。昨年末から友人と一緒に不動産仲介業をはじめた彼は「父の代から始まった貧しさが私に譲られ、奇跡がないかぎり子息たちにも譲らないことではできないだろう」と、自身の希望のない生を反芻することもした。

嚴氏の死は近くの住民たちにも大きな衝撃を与えた。彼は貧しさのなかでも笑いを失わない楽天的な性格であり、夫婦間の仲もたいへん睦まじく周囲の羨みを買っていた。

彼は人に面倒を掛けるのを嫌って、葬儀費用として一〇〇万ウォンを残した。

この金は去る二日、夫人の金氏が伝賃金を補うためミシンを売って用意したものの日、嚴氏の息子洪詰君(八)は「お母さんがミシンを売ってTVの音がよく聞こえてよい。お父さんが国会事務所で試験を受けた。お父さんは試験がよくできたので月給が上がるだろう」と日記に書いた。この日は金氏がミシンを売ったお金からわざわざ肉を買って、洪詰君に最後に牛肉を食べさせた日でもあった。

〈河俊宇記者〉

「事例 a-3」 「社説」 ある家長の遺書 (朝鮮日報、九〇年四月二二日)

この地の「政治をする者たち」と政府は、伝賃金がなく一大家族と一緒に命を絶つたひとりの家長の遺書に、今、返事を書かねばならないときだ。彼は自らの表現どおり「金を稼ぐ才能のない」甲斐性のない者かもしれない。または一部の世評のように生命の尊貴さを軽く見做した産業社会の失敗者であるともいえる。しかしそのようにいっても、彼ら一家の死を偶然性や特殊性の次元にとどめたり、国の責任が免除されることは決してない。彼ら一家の死はそれ自体が、今日私たちの生の厳然たる現実でもあり、ひとつの断面であるためだ。苦悩に充ちた彼の遺書は、同じ時代を生きる私たちすべてに存在の様式と生の本質について深刻な疑問を提起している。国民所得五〇〇〇ドルの上位中進国が、東欧とアフリカへ経済援助している国が、一年に地価上昇だけで三〇兆ウォンずつ稼げる社会で、

伝賃の値段のためぞろぞろと生存を放棄する世態（世相）に、どうして束手無策（お手上げ）なのか。

先代から受け継いだ貧しさを「奇跡がないかぎり再び子息に伝えてゆくしかない」という、この絶望感は、果たして全的に（全く）個人の能力のためなのか。

彼が「可哀相な両親と一緒に神様の意のままに生きてゆ」ける「一坪の空間」は、この社会でそれほどに用意することが難しいのか。

横も後も振り返らず成長して、輸出だけすれば万事が解決できるだろうという虚しい壮談（大言壮語）と根拠のない楽観はどこに行き、単間房のために命を捨てるのが日常のようになってしまったのか。

彼は死に（向い）ながら「政治をする者たちの卓上の空論」と「知恵の不足」を恨み歎いた。今日の進展した問題は知恵の不足ではなく、意志の不足であり共同体意識の欠乏だ。

二百余年に亙る産業資本主義の最も重要な経験則は、物的成長がすなわち社会発展の十分条件ではないという事実と、その高い効率にも拘らず制度としての資本制は、多くの弱点を自ずから持っており、絶え間ない自己修正と補完を必要とするという事実だ。理想的価値と発展に接近するための不断の自己省察がないのは、そのような制度も永続しえないというのが歴史の教訓でもあり、東欧変化の核心だ。

私たちの政治と社会がそれを読めないで、傲慢と既得権から抜け出すことができないならば、私たちは決して発展した社会に至ることはできないであろう。

国民住居の安定は再論の余地なく近代国家の一次的な公共目標だ。それなのにも拘らず、これをひたすら私的市場経済にだけ継続委任することは、国家責任の回避であるだけだ。政府が土地・住宅問題と投機に対し、継続して「卓上空論」だけ重ねることは、方法と手段の問題ではなく、結局は「認識の誤謬」と改革しようという意志の欠乏から来ることだ。問題の深刻性と緊切性をありのまま認識

して、解決しようという意志だけ立てたならば、手段を探す知恵は容易に集めることができるだろう。

【事例 a-4】 【道】 「家賃自殺」家長が残した文章（朝鮮日報、九〇年四月

二二日）

「伝賃金を用意する方法がもうこれ以上なくなった。私一人この世を立とうとした。家族を同伴し生命を絶つことがどんなに大きな罪悪なのか。しかしこの険しく世知辛い世間に妻子の将来はどれほど苦勞することであろうか。」

去る一〇日、単間房に賃貸で入居していた嚴承郁氏（四〇・不動産仲介業）は遺書を残して一家族三名と一緒に、結局この世を捨てた。嚴氏は何を言いたかったのか。彼は五通の遺書と自身の全財産であった一〇〇万ウォンを、空いた部屋に残しておいた。これは葬式費用、嚴氏家族がこの土地を旅立つのに用いた最後の「旅費」だった。

「私たちを火葬にし、新婚旅行をした釜山太宗台の海岸に振り撒いてくれ。」保証金五〇万ウォンと月賃九万ウォンの四坪相当の単間房。嚴氏は今月初め主人からこの部屋を明け渡して欲しいという言葉聞いて沈鬱になったという。ひょっとしたら友人が行う不動産紹介の仕事を手伝いながら「時勢」に明るかったという点が、彼を前以て臆させたのかもしれない。

副業で刺繍の針仕事をしてきた妻は、去る二日「纏った金」を作るため裁縫台まで売った。しかしこのとき得た七六万ウォンは、移っていく部屋を求めののにあまり助けにならなかったようだ。代わりに息子（九）はこの日、日記帳へ次のように書いた。

「お母さんがミシンを売った。だから気分がいい。今日はTVの音がよく聞けるからだ。部屋のなかも本当に奇麗になった。」

高校を卒業した嚴氏が最初に選んだ職業は軍で習った運転であった。彼は結婚

後、三、四の軍隊の職場で車を動かした。しかし昨年末、車を壊してしまいう失敗のため仕事を手放すほかなかった。不動産紹介の仕事に足を踏み入れたのは、このときからだ。

嚴氏は二男一女の一番目だった。それゆえソウルの場末で弟妹たちと一緒に暮らす父母を、呼べない一間の部屋が辛いと常にいついていたという。息子一家の死を前に嚴氏の老母は「ちょうど何日前かに生活費として一五万ウォンを送ってくれた」と啜り泣いた。「毎年上がる家の貸借料も充当できない庶民の悲哀を、子どもたちには感じさせたくなかった」。遺書にこのように書いた四〇代家長は、このため家族たちを皆連れて天の国に引越したのである。〈崔普植・社会部記者〉

【事例 a-15】 「社説」 住宅と自殺（東亜日報、九〇年四月一二日）

一家族を私たち社会はまた死に追い立てた。家賃を用意できず集団自殺した嚴承郁氏とその家族三名は、私たち社会が殺したのではないと、誰が気軽に主張することができようか。

人は食べねば生きられない。そして着なければならぬ。しかし一家族が一緒に集まるころ、夜露と雨風と寒さを凌げるところ、そして心地よい眠りを果たせるところとしての家は、食べることに劣らず必須のものだ。人にとって家というのは、たとえ月極の家の単間房であっても、朝に散らばった家族がおぼろに再び集まるころであり、社会の基礎単位である家庭の根拠である。

だからそれがたとえ地下室の湿気で湿った単間房であっても、そこから追い出されるといふことは、次はどこにも家族が集まって暮らせるところがなくなるということの意味する。そのようになったとき人が行くところはどこであろうか。

しかしそうした悲劇は嚴氏家の場合だけで終わらない状況であり、より大きな問題がある。無住宅勤労者家族が一二三万、首都圏地域だけで六五万であるが、家賃の上昇率は所得の上昇率より高い。彼らがすべての家賃を差し出せなくなる

袋小路の境遇を想像してみると、家賃の問題、住宅不足の問題は生存の問題であり、人権の問題であり、この社会の存立の問題であり、国家の基盤の問題だ。

家賃のために自殺するという国民が引き続いては、国と社会の正当性が認定されるはずがない。国民経済の活力と基盤を維持できるはずもなく、経済成長の意義が真ではなく、自由民主資本主義の体制自体が正当性を認定されない。このようなすべてのことが否定されたとき、金持ちである者が持っているものを無事に保つことができないなどと、とやかく言う余裕がない。

だから住宅の供給と住宅価格、居住費用の安定は、至急を要する課題だ。日本、台湾、シンガポール等、経済が揺らぎもなく成長して発展する国で、住宅問題を私たちのように解決していない国はない。住居の安定こそそれらの国の国民が将来に希望を持って一所懸命働くことになる鍵だ。

しかし住宅問題で自殺する国民が生じている局面であっても、勤労者福祉アパートと社員用賃貸住宅の建設財源を残して、政府と企業間に負担を持ち越そうというニュースがある。無住宅勤労者たちのため計画だけは御大層に作っておくが、今年政府予算ではその財源が十分に計算されてはおらず、企業は企業で政府の責任を表面に立て参与を忌避しているという報道だ。

国家の安危が懸かっているという考えで、政府と企業すべてが住宅問題解決に、より積極的に前に乗り出すべき時機である。

【事例 a-16】 成績悲観し投身・家賃に苦悶し自殺・借金返済できず飲毒

「ひとつだけの生命」とも容易く捨てるゝ死ぬ勇氣で生きる努力をゝ子女同伴」は殺人：現実逃避はだめ（朝鮮日報、九〇年四月一三日）

ひとりの女子高生が勉強ができず河に投身した。大学入試落第生は自身の住むアパート一〇階から飛び降りたと思えば、伝賃金を用意できなかった二〇代の家庭主婦は「部屋もなくお金もなく…」という遺書を残して首を吊った。借金催促

に追われた夫婦が順次に劇薬を飲んだ。

私たちの社会の至る所で自殺が引き続いている。治安本部の統計資料にしたがえば、去る八九年一年の間の自殺者数は七六七四名。毎日二一名以上が自身の命を放棄している訳である。実際に最近延世大医大の精神科学教授チームが京畿道江華郡住民をモデルに調査した結果、自殺率が人口一〇万名当たり四八・七名と表われ、世界最高水準であることが立証された。名分(理由)がどうであろうと、とにかくひどく「容易く」命を捨てているのだ。

さらに伝賃価格の暴騰が問題になった最近数か月の間には、自殺の「ドミノ現象」まで現われた。家賃を用意する方法がないという理由で、二カ月の間に引き続き一五名が命を絶ったのである。

去る一〇日の嚴承郁氏(四〇・ソウル江東区千戸一洞)の場合、賃貸で入居し住んでいる単間房に練炭の火を起こしておき、妻および二人の子女と一緒に自殺することになった。

このような連続的な自殺に対し「さぞかしせば詰まって、そうしたのだからか」という反応もないことはない。一個人を自殺に至るまで追いやる「社会構造」が責任を追わねばならないという指摘だ。特に天井知らずで跳ね上がった伝賃金を解決できず、生きる場を失った庶民の自殺は、充分に同情を買うに値するといふものだ。

しかし大多数の人々は否定的見解だ。自殺は厳然たる罪悪であって、死ぬことのできる勇気で、なぜ生きようとしないうのかというものだ。また自殺が残した家族たちに何を解決してやれるのかという点でも、人々は自殺を「無気力な現実逃避」だと強調している。

去る一日嚴氏一家の集団自殺事件が報道されたとき、国民学校を卒業したことが唯一の学歴という大邱の四〇代の男性が、自身が三〇歳になるまで、靴磨き、食堂従業員、タクシー運転手等、やれる苦勞はすべてしてきたとし、「高等

学校まで終えた嚴氏が自殺しなければならなかったなら、私はどうして生きて来たのか。ともすれば自殺を美化しようとする風潮は、一所懸命生きていく人には侮辱的に感じた」と、朝鮮日報社に電話を掛けてきた。

翰林大の石在鎬教授(五四・精神科)は「自殺の原因には社会的側面がなくはないが、何よりも重要なことは個人の心の持ち方」とし、「全く同じ境遇の人々のなかから唯一人自殺に固執する人が生ずることは、こうした理由のため」と話した。石教授は自殺者を同情と憐憫で眺める風土が自殺を蔓延させるひとつの原因になっているという指摘も。

特に自殺が自身のひとつの命を終えるのではなく、自分の幼い子女まで自殺に加担させたならば、非難を受けるにふさわしい犯罪だと指摘する人が多い。

ソウル大の趙斗英教授(五三・精神科)は「明白な殺人行為」とし「自身が生んだといって子女が自身の所有物になるということではない」と念を押した。

〈崔普植記者〉

このように嚴氏の遺言を承けて政府の住宅政策を批判する記事がしばらく続くした後、今度は自殺自体を戒める記事がふえていく。東亜日報では四月一三日付の記事で、「自殺、社会・経済不安時に急増く最近の伝賃暴騰、入試関連犠牲増えく春季に強い衝動多く発生」と題して、延世大の辛承哲医学部教授の談話から、自殺に関する精神医学的な一般論を、特集として紹介し、また朝鮮日報では四月一四日付で、「自殺は最も大きな罪だく人の生命は創造主の物：宗教啓導慨嘆く『疎外された近隣』愛ある社会作らねばく父母が行う同伴自殺は神への挑戦」と題した、キリスト教牧師・カトリックの神父・仏教界の高僧ら、宗教界の談話で構成した特集を組んでいる。ここでは前述した見地から、識者の

意見は省略することにし、一般読者の反応のみ見ておこう。

【事例 a-7】「朝鮮日報を読んで」 衝撃的な同伴自殺、子息にどんな罪が

(朝鮮日報、九〇年四月二一日)

最近新聞を見ていると世間が恐ろしく身の毛がよだつほどだ。

一日も漏れることなく窃盗、暴力、強盗、殺人、自殺等、犯罪記事と自殺事件が限りなく続いている。一〇代の自殺事件が少し途絶えてきたのかと思っていたら、今は家庭不和や伝賃金の工面ができず自殺する悲劇が起きはじめています。

心をより悲しくすることは、幼い子息たちを父母の所有物として錯覚し、同伴自殺する点だ。

ソウルでは一家族四名が暴騰する伝賃金を準備できずに死を選択し、忠南チヨンヤンでは舅姑に仕えるのが嫌だと、二人の娘に劇薬を飲ませて一緒に息を絶えた母情もあった。

一つしかない生命をととも軽視する風潮が切ないほどだ。のみならず幼い命が無責任な大人たちの犠牲物になっているが、痛々しいほどだ。天賦の子息まで死に追いたてる非情な父母たちがいてはならない。独り死ぬことも大きい罪であるが、幼い命まで奪うことはより大きな罪悪となる。

〈コン・サンキュ・釜山市南区門峴三洞〉

【事例 a-8】「朝鮮日報を読んで」 伝賃金自殺頻発、為政者は責任を(朝鮮

日報、九〇年四月二一日)

伝賃金がなく家族と同伴自殺という罪悪を犯した家長の痛みはどうであつたらうか？

貧しさを伝えたくないという遺言が胸を刺す。果たしてこうした責任は誰が負

うべきなのか？ 政策を立案し施行する関係者たちは大多数の家なき人たちの苦衷を知っているのか？

自宅に不足なく余裕があつて生を楽しむ為政者たちは、心深く反省しなければならぬ。

〈ヤン・サンテ・ソウル市蘆原区月溪洞〉

この「事件」は、このように社会に大きな波紋を投げ掛けた。新聞・週刊誌に限らず、テレビでも討論番組などで盛んに報道されたほか、東亜の四月二八日付記事にも見るように、「自殺貫入者の合同追悼式」がソウル中心部の大学路マロニエ公園で催されたり、市民運動もかなりの盛り上がりを見せた。しかし新聞紙上では、一時「自殺のドミノ現象」とも記述された「伝賃暴騰自殺」は、表3でも見るように、その後はNo.136 ぐらいのものとなり、この事件をピークにほとんど報道されなくなる。伝賃暴騰が急速に止んだわけでもなく、おそらく伝賃暴騰による自殺は、引き続き起こっていたものと思われるが、この盛り上がり最後、新聞の「関心」はほかに移っていったものといつてよい。

なお、この「事件」の前に載った読者の投書であるが、一般庶民の暮らし向きや心情をよく描写しているので、それも紹介しておこう。

【事例 a-9】「読者の手紙」貫入者の自殺他人事のようにではない、大家の「も

っと出せ」「(家)出る」に心揺れ、安い家を探し、町外れを彷徨う自身に

遺る瀬なさ(東亜日報、九〇年二月二三日)

何日か前から大家が貫入者たちに、伝賃の保証金を三〇〇〇四〇〇万ウォンずつ上げて貰いたい旨、そのように理解してくれという。数年間決心して金を集め

ても、そんな金額にならないだろうに、一度にそんなに大幅に引き上げをするなんて、大事である。事情をいってみても、大家は他の人たちも皆、そうするので仕方がないという。貰入者の恵沢といえはやと賃貸契約が期間が一年から二年に変わったという程度で、それよりは足下の火の回りの方が早い。もっと出す金がないので仕方なく借金を金に合わせて移すほかない。

しかし道端で一〜二軒回って不動産仲介所を訪ねてみても手ごろな家はない。(市内の)内側から場末に、部屋三つから二つに、地上から地下へ、このように下向きの貸家代の移動が始まって、死ぬほどであるのに、仲介人たちは調子に乗って忙しい。

夜間勤務をしてから帰って妻と一緒に仲介人にしたがって、この家あの家と終日探し歩いてみたら、心身とも疲れた。しばし不動産屋のソファーに休んでみると自身がひどくみすぼらしくなって遣る瀬なかつた。私の前では何億何千万ウォン相当の家が、ある人々の間で瞬く間に契約される様子が見える。

「その家、一億六〇〇〇は取れるが、一億五〇〇〇万なら買えるでしょう、アジュモニ(奥さん)。ほんの少し遅くても(他の人に)奪われるところだったよ」といいながら、一方では大きな仁心も使うようだ。千万ウォン単位が最低の単位であるように、躊躇もせずに吐き出す言葉を聞くと、心底から鬱憤のようなものが突き上がる。何かがとても間違っているようなのに、その間違っていることが果たして何なのか、誰の間違いであるのかが雲のなかに包まれてゆくようで、さらに遣る瀬なさだけが残る。そうだとしてみると、その雲のなかを抜けることのできない、弱い私自身がより物悲しく哀れである。城南市のある貰入者の死が他人事のようにではないと考える人々が多くないはずはないだろうと思った。

事実、貰入者たちは毎年繰り返される大家の「伝賃金をもっと出してくれ、でなければ出てってくれ」の要求に、何の対策もなく受けるだけなのが実情だ。当局は伝賃金の暴騰の手綱を捌くことができなかったら、経済成長にも決して助けに

ならないということを銘記、貰入者のための対策を一日も早く樹立しなければならないだろう。伝賃金の暴騰は勤労者の働く意欲を奪い取っていき、これは経済成長にマイナスの役割しか持たない。

〈イ・ユンゴン・京畿議政府市佳陵洞一一の二七〉

### (三) 同伴自殺の諸形態

続いて、筆者の目(日本人の目)から見た場合、いわゆる心中(無理心中を含む)に相当すると考えられる「同伴自殺」について、さまざまに形態の諸事例を紹介するが、特に後に検討する「記述」のあり方に注意されて読まれたい。

「事例b」生活苦悲観、教師夫人、息子と同伴自殺(No. 37、朝鮮日報、八九年

一月二十五日)

「富川」李孝宰記者「二三日午後五時五〇分頃、京畿道富川市中央区チュヌイ洞一三三の六〇金基烈氏(三五・教師)宅の浴室で、金氏の夫人、韓英美氏(二七)と息子の俊泳君(三)が、息絶えているのを金氏が発見、警察に申告した。警察は韓氏が平素、生活苦で悲観しており、憂鬱症でしばしば死にたいと述べてきた点などを推し量り、息子と一緒に同伴自殺したと見ている。

「事例c」七〇代夫婦、同伴自殺、独身の嫁に済まない(No. 106、朝鮮日報、

九〇年四月一日)

「光州」曹光欽「七〇代の夫婦が、独りで暮らす嫁に頼って生きることが済まないという内容の遺書を残し飲毒、息絶えた。去る三〇日午後全南宝城郡ボルキョ

邑ボルキョ里八九四、梁水ト氏(七九)宅の内室で、梁氏と夫人の金美任氏(七七)夫婦が飲毒、息絶えているのを隣家に住むチョソレ氏(八四・女)が発見した。

この夫婦が死んでいた部屋には「難儀な家庭の暮らし向きに独り暮らし嫁に世話になることが申し訳ない」という内容の便箋二通に書かれた遺書と劇薬を入った袋の袋などがあつた。

梁氏夫婦は六年前夫と死別して、鮮魚行商で店を切り回している、長男の嫁金某氏(五〇)と一緒に暮らしてきた。

〔事例d〕夫婦喧嘩後に家に放火、一家二名死亡三名火傷(No.123、東亜日報、九〇年五月七日)

〔大田聯合〕六日明け方三時三十分頃、大田市東区城南二洞、金東旭氏(五六)宅の内室で、家の主人である金氏が酒に酔ったまま、夫人郭海子(五〇)と口喧嘩をはじめたが、台所にあつた石油缶を持って戻り、内室に振り撒いた後に火を付け、金氏と三女の宝海嬢(一六・東大田高一年)等二名が火に焼かれて息絶え、郭氏と長女の宝恩(二五)、次女宝英(一八・東大田高二年)等三名が重火傷を負った。

この日、火は金氏の内室にあつた家財道具と平屋の韓屋の内部七〇余平方メートルをすべて焼き、一〇〇余万ウォン相当(警察推算)の財産被害を出した後、一時間余ほどで鎮火した。

この火で重火傷を負った三名中、娘二名はいずれも重態だ。

〔事例e〕家族四名殺害後自殺(釜山、四〇代家長アパート屋上から投身(No.84、東亜日報、九〇年二月二日))

〔釜山II趙成振記者〕四〇代家長が夫人と三人の子女を凶器で刺して皆殺害し、自身はアパートから投身自殺した。

二日午前八時半頃、釜山市東萊区蓮山二洞現代アパート二〇六号金勝カク氏(四九)宅で、金氏が夫人イム敬淑氏(四三)と長女恩庭嬢(一九)、次女月華(二三)、息子炯培君(一一)等四名を凶器で刺し死なせた後、自身はアパート五階屋上から投身、近隣の東萊神経外科に移されたが息絶えた。

このアパートの住民によれば、金氏が屋上で「私が人を殺した」という声を上げ、投身し病院に移された後、家のなかに入ってみると一家族四名が全員凶器で刺されて死んでいたということだ。警察は詳しい事件の動機等を調査している。

〔事例f〕勤労者五名集団焚身(仁川キョンドン産業、懲戒方針撤回要求…二年九月五日)

〔仁川II崔壯源・李孝宰記者〕四日午後三時四十分頃、仁川市西区佳佐洞五七〇の一厨房機器製造業体キョンドン産業(代表崔慶煥)本館三階の姜義信労務管理理事(五〇)室の入口で、この会社の勤労者姜中氏(二七)ら五名が、全身にシンナーを振り撒いたまま、姜理事に自身らに対する懲戒方針撤回を要求したが、拒絶されるや否や身体に火を付け、彼ら五名と姜理事等、六名が重火傷を負って病院に移された。

彼らのなかで姜理事と勤労者姜氏、金チョンファ氏(二七)ら三名は生命が危い状態だ。

また勤労者姜氏らが焚身するのを見て興奮した、同僚の勤労者崔ウンキョ氏(二六)ら二名が、労組事務室の前の運動場で果刀で自身の腹を刺し重傷を負って、東仁川キル病院等で治療を受けている。

この会社の勤労者朴善泰氏(二五・C工場庄延)によれば、勤労者姜氏らは去る五月結成された勤労者たちの親睦団体「踏み石の会」会員三〇余名が先月二七日一日茶会を開いたことと関連し、会社側が会長姜氏ら三名を懲戒委員会に回付

するやこれに反発、先月三一日から同僚二〇余名と一緒に会社内の福祉会館四階屋上で鉄パイプとシンナー、果刃等を持ち込み、徹夜籠城を行ってきたという。

籠城勤労者たちは、会社側および仲介に立った労組幹部たちとの対話が決裂するや、この日午後三時三〇分頃「今日は談判に破れてしまった」といしながら、

姜氏ら一〇名が首に太極旗を巻いて全身にシンナーを振り撒いたまま、二〇〇余メートルほど離れた姜理事の事務室に押し掛けて行った。姜理事を引き摺り出すなど擦った揉んだしたが、焚身を企図、姜氏らが全身から火を噴いたまま外に駆け出て来るや、ちょうど休憩時間を利用し、外に出ていた一〇〇余名の同僚勤労者たちが、消火器と消防ホース等で火を消した後、彼らを病院へ移した。問題になった「踏み石の会」は去る五月、姜氏ら三三名が集まって結成した親睦団体で、会社側はこの団体が八七年の労使紛糾時解雇された勤労者たちの復職闘争のため作られた「不純団体」であり、「一日茶会を開いたことは社規に違反となり懲戒しようとした」と述べた。

〔事例g〕 女子中二年生二名同伴自殺、顔の火傷を悲観、一緒に農薬を飲み

(No.33、東亜日報、八九年一月二〇日)

〔全州〓辛光淵記者〕 二〇日明け方三時頃、全北完州郡雲洲面九梯里の俗称モクバン村の文ソングク氏(五五)宅の向い部屋で、文氏の七女インスク嬢(一四・ウンジュ中二年)とインスク嬢の親友趙クイル嬢(一四)ら二名が飲毒、いずれも息絶えた。

文氏によれば、この日夜更けまで向い部屋に灯が付いていたので、行ってみると、部屋のなかに農薬瓶が置かれていて、文嬢は既に息絶えており、趙嬢は呻吟中であつたので病院へ移したが、間もなく息絶えたということだ。

彼女らが残した遺書には「私たちの死をあまり詰らないで下さい。私たちは死んで一緒に平和に暮らします」と書かれていた。

警察は国民学校(小学校)時代、顔に火傷を負ったインスク嬢が中学校進学後、これを悲観してきたという家族らの言葉にしたがって、大の仲良しである趙嬢と同伴自殺したものと見て、正確な原因を調査中である。

〔事例h〕 大学生が心変わりした恋人を抱きかかえて焚身、二名とも焼死、家

全焼 (No.72、朝鮮日報、九〇年一月三〇日)

二九日午後八時五〇分頃、ソウル市城東区杏堂一洞一二八の七八三の朴モンチヨル氏(四九)宅の向い部屋で、朴氏の長女ミキョン嬢(二一・S専門大二年)の男友達金キマ氏(二七・K大三年)が、朴嬢が自身と結婚してくれないのに恨み(快心)を抱き、全身に揮発油を浴びせて朴嬢を抱いたまま焚身、二人とも息絶えた。火は朴氏の二一坪相当の平屋瓦家を皆焼き一千余万Wの財産被害を出した後、一〇分ほどで消えた。

朴氏は「娘と金氏は一年前からつきあってきたが、最近になって娘が金氏と会うのを避けていた」と語った。

この事例hと類似した、恋人やその親に結婚を拒絶されたことによつて惹き起こされた、いわゆる無理心中事件は、表3でみるように、ほかにもNo.35、No.124、No.174、No.177と起こっている。

#### (四) 社会・文化・世相を映す自殺の諸事例

次に、現在の韓国の世相や社会、あるいは混乱した伝統文化の一端を映し出しているような、いくつか特徴的な「事件」についても、その記事内容と「記述」のあり方に注意しておきたい。まずはこの年、盧泰愚

大統領が「犯罪との戦争」を宣言したことも深く関わった、性暴行犯罪を忌避して自殺に至った事件から紹介していく。

【事例 i】 集団暴行逃れ、女工が川に投身し一〇代八名組犯行、四名検挙四名追跡、友人一名は醜行のあと川の中に突き落とされ (No.110、朝鮮日報、九〇年四月九日)

【釜山聯合】 釜山北部警察署は八日、女工二名を洛東江の畔へ誘引し、一名を辱しめ、残り一名は暴行を避けて逃げたが、川に溺れ失踪させてしまったD工高三年金某君(一七・釜山市江西区テジョ洞)と同洞内徐某(一六)、チュ某君(一八)等四名を検挙、殺人未遂等の容疑で拘束令状を申請して、逃げた金某君(一九)ら四名も同じ容疑で手配した。

警察によれば、金君ら五名は去る七日晚一一時頃、釜山市北区掛法洞ニュータウンナイト酒店で踊りを踊って出てきた李某嬢(一九)と金某嬢(一九)ら某会社女工二名を誘引し、タクシーに乗せテジョ二洞のヨンマク村の洛東江堤防の高水敷地へ連れて来たのに続き、三名が李某嬢を暴行して、二名は金嬢を付近に引き招いて暴行しようとしたが、金嬢が避身しようとして川に飛び込み失踪した。

彼らは金嬢が川に溺れ失踪するや「お前の友達が死んだからお前も殺さねば」といって、電線のコードで李某嬢の手足を縛り、川に蹴落として逃げたが、李某嬢は足首を縛られたコードが解け、辛うじて泳いで堤防に這い上がり、この日明け方警察に申告した。

また徐君と逃げた金某君(一九)等三名は、彼らから金嬢が水に溺れて失踪した事情を聞き現場に行つて李某嬢を再び辱しめたという。

警察は近隣のジャヨン村を対象に聞き込み調査を終え、金君宅を急襲、金君と一緒にいた徐某(一六)、チュ某(一八)君ら四名を捕まえたが、残りの一名であ

る金某君(一九)ら四名は逃げた。

類似の事件は、表3でもみるように、No.184、No.193、No.199と後半になって連続して登場してくる。調査対象期間に外れたのでここでは省略したが、その後も類似の事件が重なったことが、一〇月二十九日の盧大統領の「犯罪との戦争」宣言の最大の契機となった。韓国女性はよく知られているように、貞操に対する観念が文化的に強く規制されており、かつてはチマの間に潜めておいた銀粧刀(懷刀)は、自決用とされたが、暴行忌避の自殺も、こうした伝統的な観念・慣習を引き継いでいよう。

これと関連して、現在の韓国女性の置かれた状況を表していると思われる、象徴的な自殺事件としては、次のものを代表させておきたい。

【事例 j-1】 社会的能力発揮できない悲観、大卒三〇代主婦自殺 (No.10、

朝鮮日報、八九年九月二〇日)

結婚して一五年になる名門大学出身の中産層家庭の婦人が、社会的に自身の能力を発揮できない点を悲観して首を吊って息絶えた。

一九日午後六時頃、ソウル江南区大峙洞ウンマアパート五棟六一三号の千益正氏(四三・C産業常務理事)宅で、千氏の夫人張聖愛氏(三九)が遺書三通を残したまま、首を吊って息を引き取っているのを千氏が発見した。

千氏は警察で「退動してみると妻が多用途室内の都市ガスパイプに縄跳びの縄を連結、首を二巻きにして括ったまま横たわり息を引き取っていた」と述べた。

張氏が夫の千氏に残した遺書には「基準値は高く能力は不足、いつもすべてのことに葛藤を経験してきて病気になる羽目に陥った。…自ら克服してみようと自

願奉仕等、社会生活に飛び込んだが、根本的な問題解決はだめだった」等の内容が書かれてあった。

家族たちによれば、張氏はE女子大図書館学科を卒業したのち千氏と結婚、二人の息子を持ち裕福に暮らしてきたが、平素「社会的に何か働いてみなければならぬ」という言葉を度々言っていたということだ。

「事例j-1-2」 「朝鮮日報を読んで」 大卒主婦自殺に衝撃、「小さな幸福」に満足していれば(朝鮮日報、八九年九月二六日)

「大卒三〇代主婦自殺」という記事を読んで、違和感を衝撃とともに感じた。よく見ることのある「生活苦悲観」「事業失敗」「身の病悲観」等、一般的な自殺の動機と違っていたからだ。彼女は最高学部を出て、夫と二人の子女を持ち、経済的に安定した生活を送ってきた。彼女が社会的能力を発揮できず悲観したこと、遺書の内容が書かれてあったが、普通の人の目には訝しいだけでしかない。小さな成就のなかに幸せを見つける心が惜しまれる。反復される仕事のあいだにも何か新しいことを発見しようとする態度が重要だと思う。

彼女の場合は職業を探すことではなく、自我実現をできる仕事の材料が問題であった。この社会にはしななければならない仕事がとても多く散在している。去る春の初め、朝鮮日報に報道されたインソニム・ハルモニ(おばあさん)のことが思い浮かんだ。彼女は(生活)困難な寡婦として過ごしながら、一生骨を折って稼いだお金三八〇〇万ウォンでソンサン郡の図書館を建立した。この女性はそのハルモニと比較してどんなに裕福であるか?

自己が現在処された環境を克服することが難しい人のために、ライنفォルト・ニボの有名な祈禱文を紹介する。「神様、私が変われないことに対してはそれを受け入れる平静を与え、変化させることができることに対しては果敢に挑戦できる勇氣をお与え下さるとともに、この二つの差異点を分別することのでき

る知恵をお与え下さい。」(ユ・ソソウン・韓国宣明会広報部長)

同じ女性でありながらも、この投書者は「既成世代」と呼ばれる保守的な層に属しているためか、若い女性の社会進出に対して「小さな幸せを求めよ」とかなり批判的なのは、現代の日本人の常識からすれば少々異質に映るかもしれない。韓国の女性を家内労働(집안일)にとどめる(伝統)に強く規制された、現代韓国女性の立場を象徴的に示した事例であると思われるが、同様な(伝統)と(現代)の狭間に置かれた女性の自殺は、ほかにもNo.26やNo.112の「農村に嫁いだことを後悔」しての悲観自殺にも見ることが出来る。また世代間の価値規範・伝統意識の相違を示す事例には、次のような「事件」が典型的なものといえよう。

「事例k-1-1」 「息子の家で冷遇」悲観くハ〇代のおばあさん自殺(No.149、朝鮮日報九〇年六月七日)

「仁川Ⅱ聯合」 六日午前六時頃、仁川市南区朱安二洞趙某氏(五四・会社員)宅の大門に、趙氏の母李今順氏(八四)が補聴器で首を吊って息絶えているのを、新聞を配っていたこの村の金鍾吾氏(二〇)が発見、警察に申告した。

警察によれば、死んだ李氏はこの間水原に住む長男(六〇)の家に逗留していたが、自身の問題で家庭不和が頻繁に起き、去る五月初めから次男の家で生活してきたという。

「事例k-1-2」 「老母虐待」 息子夫婦に令状く悲観自殺させた(朝鮮日報、九〇年六月二一日)

「水原」李孝宰記者」 速報「子息たちの冷遇を悲観、自殺した李今順（八四・女）変死事件（本報七日付一九面報道）を捜査中である仁川東部警察署は、一日李氏の長男趙仁行氏（五九・京畿道水原市クォンソン区梅灘洞）と趙氏の妻尹澄子氏（五三）ら二名に対し、尊属虐待容疑で拘束令状を申請した。

趙氏夫婦は去る八三年から七年間、水原で独り部屋を借りて生活してきた李氏を、去る三月二五日家に招き寄せた後、李氏が関節炎にも拘らず、杖をつきしばしば外出するのを理由に、去る四月から杖を隠して外出できないようにしたり、食事と洗濯も碌々させないなどの虐待をしてきた容疑を受けている。

李氏は先月初め趙氏宅を出て、仁川市南区朱安洞二洞の次男（五四・会社員）宅で暮らしたが、去る五日晚一時五〇分頃、次男と長男が自身の去就問題をめぐって電話でひどい口論するや、家族たちが寝入ったのを利用、大門に補聴器で首を吊り自殺した。

【事例k-3】「朝鮮日報を読んで」 八〇代の老母の自殺、世の中にこんなこ

とが（朝鮮日報、九〇年六月一五日）

子息たちの冷遇を悲観した八四歳高齢の老婆が、家族たちが寝入った隙に大門に補聴器で首を吊って自殺したという衝撃的な事件報道があった。七年間を田舎で独りで暮らしたが、去る三月水原の長男宅に来て、話相手もなく、家のなかに閉じこめられようとすると、禁固刑とも変わらないので、しばしば外出されたという。長男夫婦は全身を頼る杖を隠したり、食事も洗濯も碌々させなかったという。病いを負った老軀を駆って次男宅に居処を移したが、次男と長男が自身の去就問題をめぐって、電話でひどく口論するのを見て、息子に足手纏いな存在となり、自身の一つの身体が死んでなくなれば、すべてのことが解決するだろうと考え、自ら生命を絶ったということだ。捜査当局は尊属虐待容疑で長男を調査したという。昔、孝は百行の根本といった。八〇高齢の老母に碌々仕えなかった子息の不

孝は、また違うとんでもない不孝に終わった。

最近新聞紙上には小遣いを与えなかった等の理由で、父母を殴打して悖倫（破倫）を犯す事件記事がしばしば目に止まり、「無子息が上八字（子のないのが幸運、子を持ってば七十五度泣く）」という言葉が実感されてくる。

家で飼う愛玩用の犬や猫が病気にでもなれば、獣医に見せる、薬を作り飲ませる、夜を更かし家族たちが寝ないで心配するとうのに、自分を産んで湿った寝床を乾いた寝床に取り替えてくれ、手足を磨り減らすほど苦労して育ててくれた父母を、虐待して自ら生命を絶えさせるなんて…人間は禽獣よりましなことがないようだ。ずっと後には自分自らも老いて病を負って子息たちの視線を気にする足手纏いな存在になるはずなのに…。（金ヨンサン・ソウル市松坡区蚕室洞）

こうした〈伝統〉と〈現代〉のタイムラグや矛盾、すなわち文化的な葛藤・相克に起因したような自殺には、ほかに婚需（持参金）の多大な負担に苦しむ事例（No. 42, No. 93, No. 96）や、薄給などの理由で家長がその責任を果せず自責の念に駆られた例（No. 6, No. 43, No. 96, No. 102, No. 138, No. 161）、また嫁姑問題の軋轢にも拘らず別居が許されないのを苦しめてという例（No. 78, No. 121）などがある。こうした「文化葛藤（cultural conflict）」の事例はほかにあげれば切りがなく、またすべてが少なからずそうした要素を含んでいともいえるが、これらに対し、韓国社会の急激な近代化に起因した〈現代〉を、まさに反映したような自殺には、表3をみれば、誰でも強く印象づけられるように、苛酷な受験地獄や就職難に対する悲観自殺をはじめ、韓国でも深刻な農村の嫁不足に悩むチヨンガリの自殺なども目立っている。ここでは社会との相互交渉の見た

れた、そのうちの一例を紹介したい。

〔事例1-1〕 男女中三生が同伴自殺〜「勉強だけが人生のすべてか」と遺書

〜二人はいずれも同じクラスの学生 (No.24、朝鮮日報、八九年一月八日)

〔烏山李孝宰記者〕 去る六日午前六時四〇分頃、京畿道烏山市月洞の俞某氏 (三九) の梨畑の果樹園で、俞氏の息子である龍仁N中学校三年俞某君 (一五・龍仁郡ナムサ面) と同じクラスの韓某嬢 (一四・ク) が、遺書を書き置き、一緒に死んでいるのを、果樹園管理人の尹五根氏 (二八) が発見、警察に申告した。

尹氏によれば、俞君が管理舎前の高さ三メートルの梨の木に電気線で首を吊ったまま息絶えており、また韓嬢は管理舎の内室で農薬を飲んで死んでいたという。

俞君と韓嬢が残した遺書には「勉強がよくできる自信がなく、お父さんお母さんを幸福にしてさしあげることができません。勉強が人生の全部ですか。私たちは後で役に立たない二次方程式の値打ちを求めするために、心から必要な父母と先生、そして友人らとの愛を失いました。私たちの死体と同じところに埋めて下さい」と書かれてあった。また韓嬢は教師に残した遺書に「幸福は成績順になるこの世：勉強だけすれば人間なのか。私たちは鳥籠のなかに囲われている鳥ではない。今は空高く飛びたい」と書いていた。

〔事例1-2〕 「萬物相」 (幸福は成績順ではない) (朝鮮日報の天声人語的な

コラム、八九年一月九日)

米國で財産が一〇億ドルを超える億万長者は六六名にもなる。そのうちの四〇%は財産相続者だ。しかし自守成家した人たちの数もこれに近い。そしてその中の一〇名は高等学校も卒業できなかった。学校の勉強について行けなかったからだ。勉強をよくすれば成功するといふものではない。▼学校の勉強をよくすれば偉大な文学者になれるといふものでもない。エミール・ゾラがソルボンヌ大学の

入学試験を受けるとき科学と数学の試験には辛うじてパスした。しかし語学と文学の口述試験には落ちた。二カ月後二流大学であるマルセーユ大学の入学試験を受けた。筆記試験に合格しなければ口頭試験を受ける資格を持ってない。彼は筆記試験だけを受けて落ちた。▼勉強がよくできれば優れた科学者や発明家になれるというのではない。小学校に通ったときエジソンは何ひとつ碌々理解できなかった。そこで先生は「彼の頭のなかは滅茶滅茶だ」と評価した。父親は「頭が少し足りない」と断定した。校長先生は「彼は何をしても成功しないだろう」と警告した。こんなエジソンに勇気を与えてくれたのは母親の愛だった。▼成績が良くなければ立派な政治家になれないというものではない。幼いときひどく勉強ができないのでチャーチルの父親は「私の子どもは自分の口過ぎの稼ぎもできないだろう」と恨み嘆いた。高等学校もびりり入った。陸軍士官学校は二回も落ちた。全員我が国のような間違いなく人生の落伍者たちだ。彼らが挫折しないで最後に自身の意志を開花させるようにしたのは何だったのか? ▼「幸福は成績順になるこの世：勉強だけすれば人間なのか。私たちは鳥籠のなかに囲われている鳥ではない」。勉強ができないと悲観した、ある女子中学生が残した遺書だ。それはまさに勉強ができないならば可愛くないという父母と教師に対する抗議だ。それは勉強ができないならば人生の落伍者に仕立てる社会の欠けた教育制度に対する死の抗議でもあるに違いない。

〔事例1-3〕 「朝鮮日報を読んで」 自殺咎めた事例、受験生の説得には足ら

ず (朝鮮日報、八九年一月一六日)

大入強迫に勝てない高校生たちの自殺が、今は高入を前にした中学生にまで波及している。しばしば接するようになった事件の類型であるものだから、強度は多少弱くなったといえども衝動的であるのは違いない。

朝鮮日報一一月九日付の萬物相には、入試を前にした学生たちの自殺について

言及しながら、学校の勉強が成功の決定的な要因にならないという事例を列挙している。すべてが事実だ。しかしこの話を当事者に聞かせてやったならば、どんな反応を見せるか? 「幸福は成績順ではない」という百辺至当な言葉も、彼らには単なる虚言に過ぎないだけだ。〈金サンリャン・釜山市金井区久瑞洞〉

(五) 「情」と「誠金」——読者とのコミュニケーション——

最後に読者の同情心を強く刺激したのか、実に韓国的だと思われる相互コミュニケーションの典型的に見られた事例を一つ紹介しておきたい。表3でもみてもわかるように、この事例だけに限らないが、読者からの「誠金(義援金)」が送られてくるのは、「情の深さ」を自認する韓国社会ならではの現象だといえるかもしれないが、以下の事例は、特に韓国的な「情」とは何か、またその「情」の示し方がどういったものであるか、その一端を理解するのに役立つ。

〔事例 m-1〕 縫製工の処女家長、生活苦を悲観し自殺 (No.148、朝鮮日報、九〇年六月一〇日)

八日午後一〇時三〇分頃、ソウル恩平区津寛外洞三二五の八、崔ヒジョン氏(五二)宅の向い部屋を借りて暮らす韓淑子嬢(二〇・女・縫製工)が貧しさを悲観、部屋に練炭の火を炊いたまま息絶えているのを、韓嬢の妹順玉嬢(一六・Y女商夜間部二年)が発見した。死んだ韓嬢は妹順玉嬢に残した遺書に「稼いでも稼いでも光りなく、社会を経験しながら世間が陰険であることが分かっていたが、こんなに大変だとは知らなかった」と、また「妹の勉強を続けさせようと思っていたのに本当に疲れた」と書かれてあった。

韓嬢はまた「食堂の小母さんに五〇〇ウォン、友達のスンスクに借りた二〇〇ウォンを返して」という付託もしていた。

〔事例 m-2〕 「道」「順玉や御免ね…」(朝鮮日報、九〇年六月二二日)

去る八日この世での暮らしを悲観、自殺した韓淑子嬢(二〇・縫製工・ソウル恩平区津寛外洞)はソウルのある病院霊安室に暫く安置されたが、急遽田舎から上京した親戚と兄弟たちに引き渡された後、一握の灰となった。

韓嬢は忠南瑞山郡チゴク面テヨ里で五男女中三番目で育った。しかし韓嬢が一〇歳になった年に父親が胃腸病で、その次の年には母親が毒蛇に噛まれて死んだ後、五男女は不意に孤児となり八二年ソウルへ上京して来た。

兄(二九)は妹たちをほうってどこかに旅立ってしまい、中学校を卒業したばかりの姉(二五)は繊維会社の工員として働きに出た。妹順玉と末の弟完傳は、江西区禾谷区の製菓店を経営する叔父に任せることになった。親戚らの助力で国民学校を卒えた韓嬢は、一四歳になった去る八四年から、他人の家の家政婦として働きはじめた。

「一所懸命お金を稼いで親戚の家に預けた妹と弟を連れてこなければ」という考えからであったという。

韓嬢は四年間、がめついほどお金を集めて、八八年にはソウル恩平区葛岨洞に五〇〇万ウォン相当の伝賃房を求めることができた。離れ離れになっていた妹弟も一緒に住むようになった。韓嬢はこの後一年余の間「最も幸せなソウル生活」をしたという。

韓嬢はこの期間中、Y女商夜間部に通う妹順玉嬢が漢字名もまた習えるように、昼にも工場に通わないで予備校で勉強させた。

妹ぐらいいは思い通りに育ててみたかった。そして去る一月姉が嫁入りしたときは、伝賃房を借りて残った五〇万ウォンを出資した。

このように家庭を導いてきた韓嬢は、八日午後、練炭の火を焚いたまま命を絶ったのである。「借間が嫌だ。稼いでも稼いでも得たものがなく……。社会を経験してから險難だということを知っていたが、こんなに大変だとは思わなかった。妹の勉強だけは卒えさせてやりたかったのに御免なさい。どうか父母がいる人よりも幸せになって。」韓嬢は遺書にこのように書き置いた。〈洪錫俊記者〉

【事例 m-3】 【道】 「金の」ない人たちの誠金（朝鮮日報、九〇年六月一日）

一三日午前、朝鮮日報社には幕労働（雑役夫）で働くという申鎔雨氏（五六・ソウル城東区玉水洞四九八の九）が訪ねてきて、去る八日借間暮らしを悲観、自殺した韓淑子嬢（二〇・縫製師・本紙一二日付「道」に報道）の妹順玉嬢（一六・Y女商夜間部二年）に渡してくれと現金二〇万五〇〇〇ウォンを置いて行った。

申氏はたとえ多くない金でも、生きていくのが難しい市場暮らしの情誠を集めたもので、順玉嬢がどうかその意志を無にしないで勇気を失わなければよいのだと述べた。申氏が募金に立ったのは去る一〇日、新聞で韓嬢の自殺記事を読んだからだ。生活苦にやつれ年若い縫製師家長が、練炭の火を焚いたまま自殺したという話は、申氏に難しく生きてきた自身の過去を振り返らせた。忠南農村で田三反を作っていたが、去る七〇年空手で上京、今まで雑役夫を継続してきた申氏には韓嬢の死が決して他人の話ではなかった。

「ご飯も碌々食べられないときが多かった。死にたいと考えたときが、そう一、二回はあったから。」

申氏は黙ってはいられないと思った。しかしソウル東大門広場市場で、物を包装してやっと月三〇〇〇万ウォンを稼ぐ自身の立場では、韓嬢に大きな助けを与えることができないのが遺る瀬なかった。

申氏は思案の末、自分の働き場所である市場を回って募金活動に着手すること

にした。一六折りの大きさの紙に「最近幼い少年少女家長たちが生活苦に我慢できず生命を失う遺る瀬ないことがしばしばあるが、十匙一飯（一〇人が力を合わせれば一人を救済できる）で少しずつ救けよう」という趣旨を書き付けて、その下に韓嬢の新聞記事を切り抜いて貼った。

市場の商人たちは「どれほど切羽詰まって自殺したのか」という同情論から「そうだが歳幼い妹を残して一人死ぬのはどんなものか」という非難まで、いろいろな反応を見せながらも一〇〇〇ウォン、多ければ二〇〇〇ウォンを気軽に出示してくれた。このようにして広場市場内一四〇余の店を回り集めた金が二〇万五〇〇〇ウォン。申氏は順玉嬢に死なずに生きることになったからには希望を持って欲しいという言葉を必ず伝えてもらいたいと述べた。〈李東翰・社会部記者〉

【事例 m-4】 韓順玉嬢に誠金く田雲氏、就職の約束も（朝鮮日報、九〇年六月一日）

韓国放送文化院長のタレント田雲氏が、貧しさを悲観して自殺した韓淑子嬢（朝鮮日報一二日付二面報道）の妹順玉嬢に送ってくれと三〇万ウォンを朝鮮日報に委ねた。田氏は順玉氏が高等学校を卒業するときまで学費を出すことを約束し、順玉嬢が希望した場合、放送文化院職員として採用する意志も明らかにした。ある匿名の読者も順玉嬢に渡してくれと現金一〇万ウォンを、またソウル江東区吉洞三四二の三、金道順氏も四万ウォンを預けた。

【事例 m-5】 韓順玉嬢の後援者に前恩平区庁長が結縁（朝鮮日報、九〇年七月四日）

ソウル市恩平区は三日、生活苦を悲観、練炭ガスを焚いたまま自殺した韓淑子嬢（朝鮮日報六月一〇日付一九面報道）の妹順玉嬢（一六）の後援者として、李泳和氏（五八・前恩平区庁長）を選定、区庁会議室で結縁式を行った。



ここに来て「神話」は完成されるが、そのドラマ化の過程と韓国社会が何を「共有する信念」としているのか、充分注意しておきたい。

#### 四 自殺記事の日韓比較

##### (一) 韓国の自殺報道の傾向性

前項までで、韓国の自殺や自殺報道の具体的なイメージは、ある程度像を結んできたものと思われるが、続いてその全体的傾向性を、数量的にも押さえておきたい。この韓国の一年間の二〇〇件の自殺について、形態・場所・手段等を分析して数量化したものが表4であるが、自殺に關して韓国の新聞の与える全体的な印象が、日本のものとは大きく異なっていることは、この表4からも指摘できる。まずはこの表から、筆者からみて、すなわち日本人が異質だと違和感を覚える部分を、箇条書き的に列挙しておこう。

(a) 全体の傾向として、複数自殺（集団自殺）の割合が二〇〇件中六三件と、日本に比べればそう多くはない。しかし、表1と比較してみればわかるように、台湾よりはかなりの割合で報道されており、必ずしも韓国の複数自殺が少ないとはいえない。

(b) 複数自殺のうち、家族以外の者との自殺が日本に比べて多く、またその種類、構成も多彩である。日本では心中（複数自殺）といえ、またいてい情死か親子心中を指示するが、両性の合意による結婚が一般化した現在、情死はかなり減少してきているから、今日、複数自殺といえ

ば親子心中を想起するのがほとんどである。しかし韓国の場合、複数自殺は労組の集団焚身をはじめ、必ずしも親子とは限らず、同伴自殺という言葉も親子に限定できない、その実態を反映しているといえよう。

(c) 自殺の発生場所を見てみると、鉄道自殺が日本に比べて極端に少ない。また景勝地や山中・有名寺院なども少なく、日本のように「自殺の名所」というものがあまり明確ではなく、むしろ成立していないといっても過言ではない。ただ東亜日報の九〇年八月七日付記事によれば「釜山名勝太宗台『神仙岩』が『自殺岩』の悪名く今年に入って九名、昨年八名が命絶つ」とある。が、これは韓国においては極めて例外的なものと思われ、また日本の「自殺の名所」と比べた場合、その絶対数などから比較にならない程度のものであるといえる。例えば一九三三年〜三六年の四年間に、三原山には一〇〇〇名以上が火口に飛び込んだとされるが、日本には富士山麓の青木ヶ原や日光の華嚴の滝をはじめ、近年では東京の高島平団地といった新名所も生まれるなど、全国各地に「自殺の名所」と呼ばれる場所が多数散在する。また後述するように日本の場合、「死に場所を選ぶ」といった表現もあり、最後に思い出を作って死ぬというのが、その特徴の一つであって、事例3のディズニールランドの一家心中も、同じ心情によっている。

(d) 手段の相違として、焚身・放火が多いのは、その衝撃度によって記事になる確率が高いからともいえるが、夫婦喧嘩などで激憤し、石油を振りまいて集団焚身という事例が相当数あり、焼身自殺は韓国的な一つの特徴的な自殺手段であるといってもおかしくはない。

表4-a 日韓の自殺形態の差異

国別 形態	日本 (朝日新聞, 1989年1月 より1年間)				大韓民国 (朝鮮・東亞, 1989年 9月より1年間)			
	男	女	人数計	件数	男	女	人数計	件数
単独自殺 (内) 後追い	32 (4)	13 (0)	45 (4)	45 (4)	89 (1)	48 (1)	137 (2)	137 (2)
複数自殺[心中] (内) 夫婦心中	16 (11)	18 (11)	34 (22)	17 (11)	32 (8)	27 (8)	59 (16)	25 (8)
他殺・自殺[無理心中] (内) 親子心中	13 (9)	15 (13)	28 (22)	23 (20)	32 (16)	24 (21)	56 (37)	38 (32)
自殺総数	61	46	107	85	153	99	252	200

表4-b 集団自殺の類型

構成	日本	韓国
父+子(心中)	3件	5件
母+子	10	15
夫+妻子	2	4
妻+夫子	1	1
子+父母	2	0
夫婦+子	2	5
成人親子合意	2	3
拡大家族	1	5
夫婦(含:内縁)	11	8
男+女	2	5
同性(男同士)	1	5*
同性(女同士)	1	2*
他人(含:巻添)	2	5
集団自殺総計	40	63

\*構成の+以下が被害者

表4-c 日韓自殺の場所の差異

国別 場所	日本		韓国		国別 場所	日本		韓国	
	男	女	男	女		男	女	男	女
自宅 (内) 投身 (内) 自宅前 近所(裏山・空地など)	22 (2)	14 (3)	57 (2)	52 (5)	旅館・ホテル・店等 病院	5	1	19	3
乗用車内・路上	5	6	4	0	投身(高層ビル)	1	1	3	2
広場・寺社・墓地等	5	0	4	6	投身(鉄道)	8	5	1	3
職場・学校	1	2	19	4	投身(河川・海崖)	4	3	13	7
親族および相手の家	1	2	9	2	山中	1	0	5	0
示威・抗議対象	1	0	2	2	有名寺院	0	0	0	1
					景勝地	0	0	0	3
					その他・不明	3	2	2	0

表4-d 日韓の自殺手段の差異

国別 手段	日本		韓国		国別 手段	日本		韓国	
	男	女	男	女		男	女	男	女
焚身(焼身) (内) 建物放火	6 (3)	5 (2)	29 (7)	4 (3)	投身 (内) 飛降り	20 (9)	16 (8)	24 (10)	25 (13)
銃・爆弾	4	0	5	0	(内) 飛込み	(7)	(5)	(1)	(3)
刃物 (内) 割腹 (内) 手首	11 (5) (1)	6 (0) (5)	7 (3) (1)	1 (0) (0)	(内) 身投げ・入水	(4)	(3)	(13)	(9)
首吊り(縊絞死)	9	1	35	10	ガス(練炭等)	2	0	5	13
舌咬	1	0	0	0	服毒(薬物)	2	4	45	36
					その他・不明	2	1	1	1

(e) また手段で服毒が多いのも、日本とはかなり違っている。逆に日本では女性の場合、手首を切るというのが一つの特徴的手段となっているが、韓国ではそれがほとんど見られない。日本の切腹の例を挙げるまでもなく、どんな死に方をするか、自殺の手段には死の儀式としての性格を強く帯び、文化的規制を最も強く受けているといっている。ちなみに日本での自殺手段は、一九七〇年の厚生省人口動態統計によれば、縊絞首(首吊り)が四八・一〇%、服毒が一四・一%、入水(水辺への投

身)が一・二%、ガスが一〇・八%、轢圧(鉄道への投身)が七・三%、飛降り(建築物からの投身)が三・六%、切刺死(刃物)が二・三%、火器が〇・四%の順であり、その他が二・五%となっている。

(f) 場所と手段にも、その傾向性が読み取れるが、韓国の場合、抗議の自殺が極めて多い。動機・原因に関しては、あくまで警察推定や記者の推測によるため、また日本の場合未記載も多く、表4にはまとめなかったが、成績悲観や生活苦といった悲観自殺も目立っている。日本の新聞報道では、病気を苦にしてというのが圧倒的に多いが、これは世間がどういふ自殺を同情的に見ているかということを示している。

簡単ではあるが、表面的な形態的差異からは、以上のような違いが指摘できる。ただしこれらは、あくまで新聞が報道する、自殺記事の表現に関する分析であることを再度、注意しておきたい。

## (二) 語彙からみた自殺観の相違

自殺の日韓比較を解釈していく前に、論議しておかねばならない問題は、自殺に関わる基本的な用語・語彙の定義と、それに伴う両国の自殺に対する観念の相違についてであろう。これは自殺の民俗分類といってもよいが、かつて日本と欧米の自殺を比較研究したスチュワート・ピッケンは、日本語の自殺を表現する言葉が実に多彩で、いずれも描写的であると述べている。欧米の自殺に関する語彙が評価的であるのに対し、日本語の場合、自殺を表現する言葉が、手段や動機・目的などによって呼び分けられ、種類別に五八もの呼称があると指摘したが、それは韓国

と比べた場合でも同じことがいえる。

例えば、日本の場合、ビルからの投身については「飛び降り」、河川や海への投身による溺死は「入水」や「身投げ」、鉄道への投身によるのが普通であるが、韓国ではこれらは一括して「投身自殺」と称されるだけである(日本語にも「投身」という表現はあるが)。また韓国には、一方が無理やり相手を殺害して結果的に複数自殺の形態をとるものに対し、日本語の「無理心中」に当たる表現がなく、「親子心中」といった親子に限定した同伴自殺の呼び方もない。また「連鎖自殺」といった表現はあっても、それと形態や意味内容を若干異にする、前述した「後追い自殺」「後追い心中」に相当する言葉も見られない。

両国にはこうした自殺区分に認識上の違いがあるだけでなく、さらに問題なのは同じ漢字語を用いながらも、その意味の受け取り方(ニュアンス)にも認識上の差異があることである。例えば「自殺」という言葉である。事例iのような性暴行を避け漢江に投身した女性の場合、これは自殺ではなく、事故死であると認識している韓国人がかなり多い。本人には死ぬ意志がなく、事故死あるいは殺人事件として判断されるべきだとし、また事例dのような場合も、韓国の人々の説明によれば「腹立ち紛れに(身召例)犯した事故だ」とするのがしばしばで、激憤のため前後分別を失ったための事故死、自制力欠如がもたらした不慮の死であるとされる。しかし自殺学の教えるところによれば、「一般に自殺意図の明確な者は自殺者のうちでも意外に少なく、意志統御の混乱がむしろ彼

らの特徴である<sup>(28)</sup>」というのが定説であり、本稿ではこれらも自殺として扱うが、このように韓国の人々の観念では、自殺とは死ぬ意志の明確なものに限定するニュアンスを持つことを、注意しておきたい。

また前章(二)(三)で示した韓国の事例 a と e は、日本語ならいずれも「親子心中」の記事に当たるが、これらすべてを「同伴自殺」といえば、韓国の人々には多少抵抗感があるようであり、事例 d・e は結果的に一家族同伴自殺になっただけで、同伴自殺ではないという韓国人が相当数いる。事例 d は韓国の人々の解釈では、前述したように激憤のための事故死となるが、また同伴自殺というならば、相互の「合意」がなくてはならないとする。日本語ならこのような合意のないものには「無理心中<sup>(29)</sup>」といった表現を当てるわけだが、韓国では言葉でそれを区別することがないためか、d・e の見出しも同伴自殺という表現が用いられず、こうした表記ならざるを得ないのかもしれない。

そこで類似の事件の表記を分析してみると、事例 d のような夫婦喧嘩の後の放火による「無理心中」は、ほかに六例あった。No.47の「夫婦喧嘩で四名死ぬ」三〇代息子と焼死(朝鮮、八九・一二・八)、No.55の「夫婦喧嘩で火災、内縁の妻焼死(東亜、八九・一二・二九)」、No.81の「夫婦喧嘩で一緒に焼死」子女脱出、隣の店舗も焼く(東亜、九〇・二・一四)」、No.174の「内縁男女焚身自殺」病院で男が火を付け、患者五名も火傷(朝鮮、九〇・七・二二)」と、首謀者に自殺意図の明確でないことから、参考事例としてあげた「娯楽室三母女焼死、家長放火明らか(東亜、八九・一二・一九)」「病院で夫婦喧嘩放火、六名火傷(朝鮮、

九〇・六・七)』であるが、見出しには確かに同伴自殺という表記は見られない。しかし朝鮮日報七月二日付と同一事例である東亜日報の本文を見ると、「この日、朴氏と同伴自殺をするために……」といった表現がある一方、放火ではないが、No.180の「農業振りまいて息子・孫致死」七〇代、息子の酒酌に激憤、自身も飲毒：三代死ぬ(朝鮮、九〇・七・二八)」と、過失致死と見做す表記もあり、韓国人の認識でも自殺と事故死との境界領域に属していることが窺われる。しかし前述した理由で、これらも「親子心中」に含めて扱うことにするが、注意しておきたいのは、ここには「殺害」に当たるような表現が一切見られない点である。

事例 e のように殺害後自殺といった記述がなされるのは、多くの同伴自殺のうちでも e 以外にはわずか六例であった。具体的にはNo.23の「婿が丈母(妻の母)殺害」同伴飲毒息子死ぬ(朝鮮、八九・一一・八)」、No.35の「内縁女性殺害後火を付けて自殺した模様」乗用車男女焼死、男性麻薬服用の可能性も(朝鮮、八九・一一・二四)」、No.105の「子女問題で夫婦喧嘩、妻殺害し夫自殺(東亜、九〇・三・三一)」、No.121の「警官が家族三名拳銃殺害」姑婦葛藤苦悶、自身は自殺企図重態(東亜、九〇・五・三)」、No.124の「恋人殺害後投身自殺、父母が結婚反対と遺書(東亜、九〇・五・九)』であるが、内容を分析してみると、どうやら刃物や拳銃といった凶器、すなわち「残忍」と見做されるような手段を用いたときや、麻薬使用といった犯罪の可能性、また相手が丈母という尊属であった場合のみで、こういう場合に限り、同伴自殺ではなく「殺害」といった記述がなされる傾向にあるといえる。

結局のところ、同伴自殺という観念は、合意であるか否かに関わっているものではない。実際その判定は法医学的にも困難であり、またよく考えてみればわかるように、事例cは別としてaもbも、子どもたちの意思は無視されているのであって、これらも正確に言えば、合意の上での同伴自殺ではない。本来ならaもeのように「子女二人殺害後夫婦自殺」と、またbは「息子を殺して夫人自殺」と書かれる必要がある、合意が同伴自殺の条件ならば、それに相当するのは、前章であげた事例のなかではcのほかgしかなく、日本でも親子心中と称して子殺しを曖昧にぼやかしていくように、これらを自殺の範疇に含めてしまうところに、日韓に共通するある文化的特性が浮かんでくる。

## 五 〈親子心中〉の日韓比較

### (一) 〈親子心中〉にみる論理の類似と相違

さらに韓国の新聞報道において、いわゆる〈親子心中〉に対する記事を見てみれば、「殺害」という表現が用いられるのは、さらに少なく、No.113の「娘殺害し自殺企図、職場求められなかった三〇代(東亜、九〇・四・一四)」と、No.158の「家庭不和悲観の主婦、二子女を殺害(東亜、九〇・六・二二)」<sup>30</sup>、No.191の「二人の息子の首を絞めて殺した後、三〇代離婚男飲毒自殺(朝鮮、八九・八・一二)」のたった三例しかない。前二者はいずれも未遂に終わったため、後二者は手段の残忍性のために、こうした記述になったのであろうが、いずれにせよ親子、特に母子の場合、

同伴自殺と記されるだけ<sup>30</sup>で、子殺しは全く隠蔽される傾向にある。

ではなぜ、こうした表記になってしまうのか。その理由として、日韓ともに、例えば親が子どもを私有財産視しているからだとか、あるいは家族愛が強く、その連帯性が尊重されているからだとか、これまでいろいろな〈解釈〉が施されてきた。それに加えて筆者は、その要因の一つには、善悪という二元的な絶対的規準だけでなされる西欧的な論理構成とは違い、日韓の場合、その論理判断に全く次元の異なる「情」という別な規準が介在してきてしまうところに、こうした表記や、さらにはこのような事件を多発化させる要因が潜んでいると考える。

例えば事例aもbも、仮に母親の気持ちを推し測ってみると、「母親なしで子どもだけ残っても可哀相だ」、もっと具体的にいえば「母親の愛や慈しみを受けて育たねば、親のない子がどう育つか」と不安に駆られ、また「本当の親が自ら育てねば、世間の見る目も厳しいだろう」し、「たとえ夫が再婚したとしても、新しい母親(継母)が子どもを苛めるのではないか」と心も落ち着かず、さらに「継母に自分が産んだ子を任せるのも嫌」で、「それならいっそ、子どもも連れて行ってしまおう」といった、その心理過程をたやすく推察できる。これらは日本でも見られる心情であって、世間一般もそうした母親の心情や立場・事情を容易に推察し、同情し、また許容してしまう風土があるために、殺害とは書かないし、また書けないのである。

もちろん普段は日本でも韓国でも、親はたとえ自分の子であっても、子どもを殺すのは重大な犯罪であり、罪悪であると認識していよう。だ

“슬픔속에서 사느니 먼저간 아내-아들결에…”

# 30대教師의 殉愛譜

## 삼강버스慘變 충격 자살

덕수상고 張在仁씨 遺書 남기고

타고서 울로 옥다 외우실강 을 계속해 왔으며 밤의 긴 무척을 서늘로 올기 위해 부부가 함께 무척 놀기 위해 5일 전 서울의 한 호텔에서 13일 밤 11시 30분경 자살했다. 유가족은 15일 오전 10시 40분경 서울 서대문구 신촌동 덕수상고(가)에서 장례식을 치렀다. 유가족은 15일 오전 10시 40분경 서울 서대문구 신촌동 덕수상고(가)에서 장례식을 치렀다. 유가족은 15일 오전 10시 40분경 서울 서대문구 신촌동 덕수상고(가)에서 장례식을 치렀다.

평소 잉꼬夫婦교사 주위 부러움 아내 洪川서 근무…주말마다 上京 당일 아들구하려 다시 뛰어들었다” 遺書



◇張在仁-崔英愛씨 부부가 崔씨의 공주시대 졸업식때 함께 찍은 기념사진. 부부는 공주시대 선후배사이이다. 사진아래는 숨진 아들 張鎭균.

유가족은 15일 오전 10시 40분경 서울 서대문구 신촌동 덕수상고(가)에서 장례식을 치렀다. 유가족은 15일 오전 10시 40분경 서울 서대문구 신촌동 덕수상고(가)에서 장례식을 치렀다. 유가족은 15일 오전 10시 40분경 서울 서대문구 신촌동 덕수상고(가)에서 장례식을 치렀다.

圖5 美化される自殺 (〔事例n〕 朝鮮日報, 1990年9月16日)

が、切羽詰まって追い詰められた危機的状況においては、子殺しよりも優先される別な判断規準(法律には規定されていない一種の民俗文化的な価値規準)が作用してくるだけでなく、社会もそうした「事情」を察し、可愛い我が子を殺すほど、親には余程の「事情」があったのだろうと、子どもを殺した「事実」や「道義」よりも、親の「事情」や「心情」に対する推察や心的仮託が優先され、一種の共感が注がれていく構造が、日韓には存在していると、いえよう。

これは例えば事例hの「大学生恋りの恋人抱き抱えて焚身」に対しても同じことがいえる。ここにも殺害といった記述や表現は一切なく、大学生の側にもどこか同情しているために、一概に殺害と書いて断罪することが憚られていく。事例aやbまたhにも、子どもや恋人を殺害したことが悪いことだと受け取れる表現が出てこなければ

りか、自殺に対しても、これを罪悪視する記述は全く認められない。それよりも図5にあげた事例Ⅱになると、「殉愛譜」といったように、自殺をむしろ明らかに美化した価値意識も読み取れ、西欧の神の意思への冒瀆とするキリスト教的な罪悪感とは、相当の違いが存している。ちなみにヨーロッパではフランス革命以降徐々に自殺禁止法を撤廃しはじめたが、イギリスが「自殺は宗教的問題ではなく、医学上の問題である」として、正式に自殺禁止法を撤廃したのは一九六一年のことであった。<sup>(31)</sup>

紙余もないので、以下では日韓の類似性よりも質的な相違の方に論点を移していくが、先に示した朝日新聞半月分の自殺記事を、韓国の大学生二〇名に読ませて、日本の自殺・親子心中に対し、韓国人がどのような印象を持つか、自由記述式のアンケート調査を行ってみた。この調査の詳細はまた別な機会に譲るが、簡単に紹介すれば、最も多かったのは、「病気に罹かった人の事件が多い。でも克ち抜く心が弱い」という感想であった。

例えば事例3のディズニールランドの事件は、妻が病気で希死念慮が強く、常々死にたいと口にし、夫もそれに同情し、また妻の痛みや苦しみを見るに見かねて、それならいっそのことといった心理過程が、日本人なら容易に推定されよう。しかし韓国人の感覚ではこの部分の心情・論理に一番の違和感を覚えるという。韓国人ならば、病気なら最後まで打ち克とうとするだろうし、家族も励ましたり、皆で治そうと努力するだろう。そして最後に妻だけ自殺するかもしれないが、夫や子どもがそれに同情し、見かねて死ぬというのは信じられないという。

韓国ならアボジ(父親・家長)が病気ならば、残された家族に生活力もなく、生きていくのも難しいと判断されたときには、同伴自殺する場合もあるだろう。が、妻の病気を家長が見かねて一緒に死ぬなど考えられず、ましてや一歳の子どもが「お父さんお母さんが苦しんでいるのを見てボクも決めました」と遺書を書くなんて、韓国の子どもなら、絶対にこんなことを書くわけないと断言する。とにかく韓国人なら皆で病気を治すよう努力を尽くし、また病気の本人が死ぬのは仕方がないというのが、その典型的な見解であった。

確かにそういわれてみれば、母子同伴自殺を除いた韓国の一家同伴自殺は、アボジ中心的といった傾向が認められなくもない。薄給や伝貫・婚需の準備ができないなど、家長の責任を果たせないといった家長の単独自殺も、日本とは違って相当数見られたが、それはさておき、日本では先の記事をもてわかるように、障害とか病気を苦し、それを家族が「見るに見かねて」というタイプが統計的にも多く、またこうした心情は日本人には極めて理解し同情しやすいものであるといえる。

しかしここで仮に、韓国人の人々がいうように、日本人家族において、病人を家族中で励ましたらどうなるか。おそらく最初は励ますだろうが、そのうちに励ましそれ自体が忌避されていくに違いない。病苦の妻を励まし続けたら、妻はおそらく「あなたは病人でないから、そんなことがいえるのよ。私の苦しみなんてわかるはずない」と僻んだり、たとえ口に出さずとも、そうした被害妄想的な感覚を抱くことは容易に予測される。妻を追込み、妻にそうした孤立感や淋しさを与えないよう、また妻

に自分自身が「冷たい人間と思われたくない」といった心理も働き、それを事前に予測できるから、励ましそのものが慎まれ憚られていく。

すなわち日本人の心情・論理では、励ますこと自体が「冷酷な人間」を意味してしまうのであって、「情のない人間」と妻や世間から見做されるよりはと、やはり一緒に死ぬことしか夫の選択は残されていない。

つまり一緒に死ぬことが、唯一夫に残された妻への励ましの方法なのであって、これがまた典型的な日本人の「情」の示し方なのだといえよう。

一一歳の子どもの遺書も、日本の子どもなら、こうした自己犠牲的な言動が美しいこと善いことだと、無意識に教え込まれているため、こう書く子どもがいても、そう不思議ではない。相手の立場に立って考えること、特に母親の気持ちを観察することが、日本の躰の一番の基調<sup>(32)</sup>であり、それが美德として無意識のうちに内在化され、価値体系としても機能しているから、子どもの遺書も、自発的にそう書くよう仕向けられていたといっても過言ではない。

### (一) 「死の美学」の相違

これに対して韓国の事例 a は、一見、ディズニールランドの事件と似ているが、細かく内容をみると大きな相違が認められる。前述したような家長中心の事件ということなどもあるが、それよりも注意したい重要な相違は、その当時伝賃金が暴騰し、そのための自殺者が続いたことで、記事の主眼はむしろこの点に置かれていることである。

記事の最後の段には、嚴氏の遺書の一部が掲載されているが、「暴騰

する不動産価格に自分の家の夢はさておき、毎年上がる家の貸借料も充てられない庶民の悲哀を、家族たちを感じさせたくない」「経済担当者たちが卓上空論で実施する経済政策の度に外れて失敗し、貧しい庶民の首を絞める」とあり、こういう内容が書かれていたために、マスコミには物怪の幸い、こぞって記事に取り上げた<sup>(33)</sup>といっても過言ではない。すなわちこの記事の目的であり、隠れされたメッセージは、あくまで伝賃金の暴騰、政府の政策への抗議であって、この同伴自殺自体は、そのための手段にすぎない。この記事に見られるような抗議性・攻撃性が、日本の自殺記事、さらには日本人の自殺自体との最も大きな違いといわれてよく、実は新聞が何を取り上げ、どう記述するのか、読者は何を新聞に求めているのか、また自殺記事が及ぼす現実の自殺への影響等が、本来最も問題とすべき点であるが、このメディアと社会との相互交渉は、詳しくは別稿に回さざるを得ない。ただ簡単にいってしまうえば、韓国の自殺そのものも、その抗議性に特徴があるが、新聞もそのなかから主に抗議性(憤り)を取り上げていく傾向にあり、これに対し日本の傾向は「迷惑を掛けること」にその基調<sup>(34)</sup>があるといえる。

仮に事例 a のような事件が起こっても、日本の新聞ならこうした記述もしないだろうが、論点を自殺自体に限っていくと、日本人ならまずこういう遺書も残さない。たとえ政府の政策が悪くても、おそらく自分の無能を恥じ、遺書には「自分が悪かった、もうこれ以上人々に迷惑を掛けたくはない」と書くだろうし、たとえ原因は書いたとしても、あからさまにそのせいにするような表現はしないことだろう。誰かやどこか

に恨みはあったにせよ、結局は攻撃の対象を自分の方に向け、恨みを最後には内向させて、内罰的に死んでいく。それが日本人の死に方であり、「死の美学」であり、責任の取り方だからである。

どこかに恨みを残して死ぬことは、日本人の心情からすると、そこに責任転嫁しているようで、「死にぎわが汚い」とか「往生ぎわが悪い」などと非難され、また「死に恥をさらす」ようなものであって、これを「いさぎよし」とはしない。つまり「いさぎよい最期を遂げる」のが、日本人の死に方の美学なのであって、遺書にくだくと恨み辛みを書くことは、「未練がましい」「恥ずべき行為だ」とされてしまうだろう。日本人の自殺は武士の切腹がその典型の一つといえようが、苦しさを顔に出さず、感情を押さえて死んでいく、そこに美を感じ、価値を見い出した。その日本人の美意識からすれば、韓国の自殺はどれもこれも未練いっぱい、はっきり言えば見苦しく、韓国的な美学からすれば日本人の自殺も同様であろうが、その美意識・感覚にあまりにも馴染まない。筆者が韓国の自殺資料の収集を行ってきて、最も驚き、違和感を感じた点は、こうした問題を自己の内部にはなく、外側に向けていく外罰的な、その攻撃性であった。この点こそ日本人の自殺とは最も違う点で、抗議の自殺が多いというのは、むしろその一つの表われに過ぎない。

韓国には確かに抗議の自殺は多い。事例dやfのような「事件」は、ちょっと日本では起こりそうになく、日本でも盛んに報道された九一年五月の明知大生の死を契機にした連鎖焚身の嵐も、象徴的にそれを物語っているようだが、資料を収集した八九年九月からの一年でも、抗議の自殺

は実に多かった。労組の集団焚身は事例fだけでなく京畿道安山市(No. 200)でも起こったし、日本大使館前での抗議自殺は二件(No. 134, No. 151)、「真の教育実践要求」という遺書を残した大邱の女子高生(No. 149)、江原大女子大生の焚身(No. 150)、軍浦市の板子村撤去抗議の住民焚身(No. 154)、学術大会阻止に抗議の保健治療院幹部の自殺(No. 157)、賃金協商に不満の抗議自殺(No. 170)、解雇労組委員長の焚身(No. 172)、労組幹部の焚身(No. 172)と、枚挙に暇がない。しかし筆者が指摘したのは、こういった点にあるのではない。二つばかり事例を加えて話を進めよう。

「事例o」成績不振の中学生自殺「母の過欲に自信ない」(朝鮮日報、九〇年四月四日)

「大邱II 朴圓秀記者」二日晚一〇時頃、大邱市壽城区泛魚四洞キョンウォンゴルフ練習場の裏側の野山で、この洞内の金某君(一四・大邱D中三年)が成績不振を悲観する内容の遺書を残して、三メートルの高さの松の木にナイロンの紐で首を絞め息絶えているのを、付近を散策中であつた秋ジョンヨップ氏(四四)が発見した。

金君は父母に「お母さんお父さん御免ね。明日をまた迎え、あさつてをまた迎える自信がない。お母さんの過欲が一・二番を要求するので、僕は成績が出せない」という内容の遺書を、妹には「お兄ちゃんは逝く。お前は勉強をしつかりやれ。お母さんの訴願を聞き入れてやってくれ」という内容の遺書を、それぞれ残した。

「事例p」「父母の過剰保護が嫌だ」高三年生首吊り自殺(東亜日報、九〇年

五月二日)

一日午後二時頃、ソウル市冠岳区新林一二洞の裏山中腹で、鄭鎮鎬君(一六・N商高三年)が一・五メートルの高さの松の木に首を吊って息絶えているのを、住民が発見、警察に申告した。

鄭君が首を吊った場所には「父母の過剰保護が嫌だ」という内容の遺書を書き入れたノートが置いてあった。

鄭君の父(四八・労働)ら家族たちは、鄭君が去る八日家に遅く帰ってきたので、叱るや否や「過ぎた干渉が嫌だ」といって家出したと述べた。

ここに示した事例でも、単に成績不振の悲観自殺というのではなく、遺書に「母の過剰に自信なく」とか「父母の過剰保護が嫌だ」と書くように、自己の外部に問題点を見出し、そこに攻撃を向けていく点(新聞もまたここを強調して記事化する点)に、韓国的な特性がよく表れているといえよう。これに対し日本人の自殺は、大抵「自分が悪いのだ」「皆に済まない」「もうこれ以上迷惑を掛けられない」といった言葉が事前に語られたり、遺書に書かれたりするように、感情や破壊衝動を内側に向け、マゾヒスティックで内罰的である<sup>36)</sup>。過度に自己反省的で自虐的な「引責自殺」が頻発するのも、それを表しているが、こうした日本の自殺と比較した場合には、韓国人のそれは感情が外側に爆発し、アグレッシブで、衝動的であると特徴づけられよう。

ただし韓国にも、事例cのような「嫁に対して申し訳ない」という心情でなされる、極めて自己犠牲的な自殺もまま見られる。高麗葬(姥捨山伝説)などにも表れているような、家族や社会のためには自分がいな

い方がよいといった心情や自己消滅的な犠牲精神は、確かに韓国のもう一方の(伝統)のなかに根付いている。この点も含めて韓国の自殺を大雑把に概括すれば、先に紹介した中国と日本の中間型といった印象を筆者は持っているが、ここでは類似性はさておき相違点の方のみ強調していけば、こうした抗議の自殺や、夫婦喧嘩とか勤労者のストの最中に感情が爆発して死んでしまうような衝動的な自殺が、なぜ頻発するのか。前述した韓国人の説明のように、事故死だといってしまうえばそれまでであるが、もう少し文化的に補足していく必要があるものと思われる。

それを解く鍵の一つが、こうした事件の背景にあるとされる「事情」という観念で、それが韓国ではどう認識されているのか、またその認定のあり方と許容の範囲に関して、少し考えてみたい。

夫婦喧嘩の後の放火事件や結婚を拒絶された男性による無理心中事件の多さは、日本人の目からすればかなり異様に映るが、より異質なのは、それがある意味では許容され、厳しい批判の対象に曝されていない点である。感情を表に強く顕わにすることを評価する文化であるからなのかもしれないが、「腹立ち紛れの不貞」という言回しもあって、たとえ激憤のせいとはいっても、放火・殺人という犯罪がほとんど批判されない。否、激昂のせいで、殺人も相殺されてしまうのだ。韓国文化のこうした善悪・正否の論理を超えてしまう原理とは、おそらく事件の背後にある「事情」を認め、激情した側だけでなく激昂させた側にも問題があるとし、前者を大幅に斟酌していく構造があるからではなからうか。

さらにその「事情」は、「激憤」の度合いによって示され、解釈され



写真1-a 烈士たちの墓域 (光州市望月洞)



写真1-b 望月洞と墓参者たち



写真1-c 光州事件の犠牲者の墓

ていく構造と、自身のしたことが正しいとは評価されなくても、「激昂」することで自分の「気持ち」は解ってくれるだろうという心理が、潜んでいるとしか言い様がない。「腹立ち紛れの不貞」という言回しからは、自分も同じ立場なら同様に犯すかもしれないと同調するからなのか、さもなりそうなこととして不慮の事故と容認してしまうのか、未だ理解不能だが、激情した者への「情」を示す幅は日本よりは遥かに広い。

筆者の経験からいえば、韓国では事情も「情」の一つとして認識されているようで、「事情」という言葉が日本以上に多用される。「事情」とは動機の酌量にはかならないが、日本的な見方をすれば、それは「言い

訳」「弁解」でもあって、「いさぎよさ」とは背反した規範である。日韓の「事情」の意味や用法の相違については改めて論を起さねばならないが、日本の場合、この「いさぎよさ」が「事情(情状)」の幅をかなり抑制している。日本人の感覚からすると、韓国では善悪・正否という普遍的価値よりも、むしろ激情で示される「事情」の方が優先される状況すら、ままた見られるが、その激しい「抗議性」は、「他人へ迷惑をかける」ことを忌避する日本との対比で換言すれば、「抗議性」を媒介とした「他者との心情の交流」を志向しているといえるかもしれない。

これとも深く関わっているが、もう一点は、よく指摘される、抗日運動などで殺されたり死んでいった者、あるいは「義」のために抗議の自殺を行った者を、「烈士」として崇める歴史的風土であり、その文化的な特殊性との関連である(写真1)。これは言い換えれば、「恨」を抱いて死んでいくことが、日本とは逆に、美化の対象となることを意味して

おり、「恨を結ぶと鬼神になる」と同様に、「死んで(この世に)生きる」わけ、民俗学的にみれば、この相違はさらに日韓の死生観・靈魂観の違いに求めることができよう。

(三) 死生観・靈魂観の相違

日本なら「この世に恨みを残していたら成仏しない」というように、心を浄めて死なないと霊が浄化していかず、御霊化し、幽霊(鬼神)となつてこの世をさ迷いつづけ、この世に災いをもたらす、忌まれる存在となつてしまう。日本の葬送儀礼や追善供養の諸儀礼は、坪井洋文の示した図6でも見るように、それを恐れるための、霊の浄化を推進していく儀礼過程であり、儀礼は霊の浄化を中心に構成されているといつても過言ではなからう。

周知のとおり、日本では最終年忌と称し三三年あるいは五〇年が最後の法要で、この供養を行うと「仏様(先祖)が神様になる」といつて、これ以降はもう供養は行わず、先祖は没個性化(無個性化)・没人格化(無人格化)し、神という曖昧模糊とした存在に回帰していく。日本人の神という観念は、簡単にいつてしまえば、エネルギーのような姿の見えない散在的な存在で、雷(神鳴り)のようにエネルギーが凝集したときにだけ姿を顕わすが、これに対し、韓国の祖先は永遠に没個性化せず、常に人間の姿をした人格神として存在し続けるのであつて、こうした死生観・靈魂観の相違も、両国の自殺の形態を強く規定していよう。

日本に住む韓国人留学生呉善花氏の『続・スカートの風』のなかに、日本人の葬儀に参列したときの模様が、韓国のと比較しながら、次のように述べられている。

ご両親(亡くなった人の両親・筆者註)は顔にはほほ笑みを浮かべなが

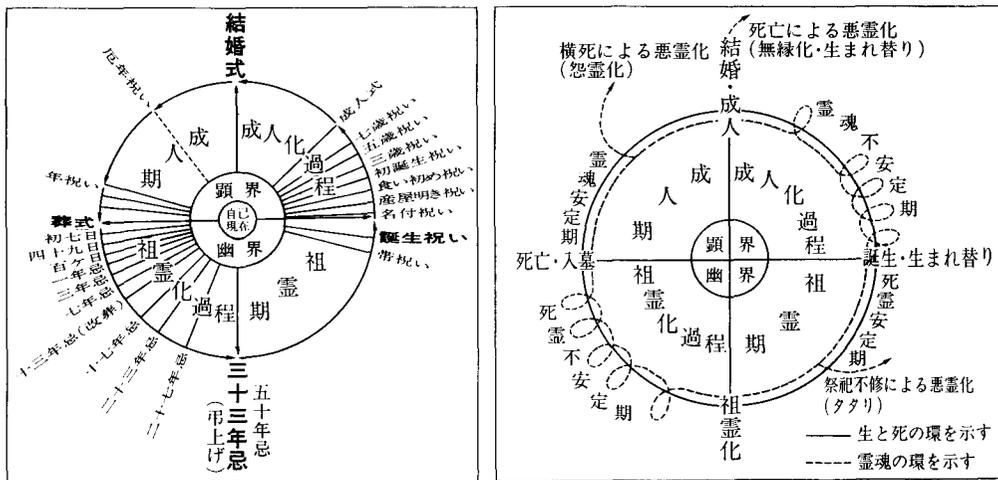


図6 日本人の通過儀礼と靈魂観(坪井洋文 1984)

ら、客たちにいろいろと語りかけている。客の方はきまつて口数が少なく、その顔はの上もなく悲しげである。お母さまが私に、にこやかに「息子はよくあなたのことを話していましたのよ、それは親しげにね」とやさしく声をかけて下さる。涙が出るのは私の方だった。

韓国では、両親はその悲しみを表にあらわすことによつて、同じように悲しんでくれる周りの人たちと一体化する。そこで、悲しんでいるのは自分だけではないと、心が慰められる。しかも、悲しみ

は激情である。その、勢いよく溢れ出し湧き起こってくる悲しみは、たとえ我慢しようとしても我慢できはしない。そして、張り裂けんばかりの慟哭と涙を抑えることなど、誰にもできはしない。韓国ではそうなのだ。

「両親は、生前のわが息子との楽しかった思い出をポツポツと客たちに語りながら、日本的な表現をすれば、終始そのたたまずまいを乱すことがなかった。そして、最後のお別れにと、棺桶に空けられた小さな窓を開いて、あの永遠の眠りについた安らかな顔を客たちに見せる時、ご両親のほほにわずかにつたつた涙が印象的だった。

悲しいのは韓国の父母であれ日本の父母であれ同じはずなのに、なぜ日本人はそれを我慢することができののだろうか？ いや、なぜ我慢するのだろうか？ 私はそれを単に説明的に知っているに過ぎず、感覚的に「わかった」ということができない(中略)。

一緒に悲しみを分かち合い、少しでも悲しみを解消しようとする韓国人に対して、悲しい心の解消はできるだけ自分の内部で処理し、まわりの人々には迷惑をかけまいとする日本人。そこには、自分だけの特別な感情をあらわにすることで、他の人びとから孤立することを避けようとする、申し訳なさそうで、小さな姿を感じる事ができる。日本人は明らかに、すでに亡くなった家族との関係よりも、いまに生きている人々との関係の方を重要視している。<sup>(39)</sup>

まさにここには葬送儀礼の違いばかりか、日韓の感情表現の相違をはじめ、実に多くの違いが見事なまでに写し出されている。また彼女は友

人で行った旅行の途中、一人が海で溺れてしまった体験を紹介し、急遽かけつけたその友人の親がやって来るや否や「息子の死のために旅行を中断させることになって、本当に申し訳ありません」と、何度も何度も頭を下げるその姿に、「死んでいった友がいかにも哀れで、心の底に強い反発を感じていた」<sup>(40)</sup>とも述べている。ここに描かれているのは、決して誇張ではなく、日本人の行動や心情の一面を実地的確に描写している。

ただ、日本人は「生きている人々との関係の方を重要視している」という指摘には、多少の違和感もあり、若干の補足をすれば、それは単に他人への気配りだけでなされるものではない。感情表現、特に苦しみは感情は表に出さないのが日本的な美意識なのであり、そしてそれは死者に対しても向けられる。つまり韓国流に泣かれたら、死者は「死んでも死にきれない」のであって、彼女には異様に見える親の振舞いも、この世に未練や恨みを残さぬよう、早く靈魂が浄化するよう、そのため一種の儀礼的な振舞いなのであって、それは日本人の靈魂観との関連ぬきでは論じ切れない。

こうした日韓の死生観・靈魂観の違いは、韓国人研究者の日韓比較論でよく説かれる武士道のほか、仏教の受容の違いとも当然深く関わっている。涅槃という言葉は、極楽浄土を指すほか、現世にあってなお純潔な生を営みつつある聖者の靈魂状態をも表しているが、輪廻から解脱して靈魂を静寂のうちに帰せしめようという純粹な死が、仏教の一つの本心であって、そのため生きたまま涅槃に入ろうとする捨身往生といっ

た思想も生まれてくる。「往生ぎわが悪い」といった表現も、ここに由来していようが、日本では捨身往生として焼身往生や補陀落渡海といった自殺現象が、平安末期から中世にかけて大流行する。少し遅れて近世にかけては、一種の修行儀礼として土中入定や即身成仏(ミイラ信仰)といった自殺現象も流行するほか、さらには江戸時代以降「桜は日本の原産」「桜は国花」という誤った観念が形成され、祖国のためには「桜花の如く散りぎわ美しく死んでこそ男の本懐」と教え込んだ近代軍国主義の特攻精神も、こうした流れのなかでの一種の自殺現象といえる。

日本仏教と自殺の関連もいずれ考えたいが、こうした仏教やまた武士道などの〈伝統〉のなかで、「静寂な死」や「潔い死」も尊ばれていたのであって、それは無個性化し浄化されていく日本の靈魂観とも深く関わりながら、今日の日本人の死生観を形成している。

### おわりに——今後の課題——

本稿で多少論じておく予定であった、その他の相違点についても、改めて別稿を用意しなければならないが、最後に問題点のみいくつか箇条書き的に指摘しておきたい。

その一つは、自殺が衝動的で、感情や破壊衝動が外側に向っていく特性とも関連していようが、韓国には「自殺の名所」が成立していない点である。日本人の死に方の場合、やはり「死に場所を選ぶ」とか「死にどころを得る」といった表現がしばしば使われるように、自殺にとって

も「死に場所」が極めて重要な構成要件となっている。「死に場所を誤る(間違える)」ことは、日本人の心情にとって、死を完成させず、未練を残すことにもなる。日本人のこうした心性が、どのように、またいつ頃成立したのか、未決の大問題であるが、その要因の一つに近松門左衛門によって完成された「道行」との関連が指摘されよう。

近松が元禄一六年、『曾根崎心中』で完成させた「心中の道行」とは、文学・演劇的には、地名を順次列挙しながら叙景と抒情を融合させる、時間と空間の推移を描く表現形式であるが、一方それはこの世とあの世を結ぶ道程でもあり、心を浄化していく過程であるともいえる。現実の自殺においても「自殺の名所」とは、そこに辿りつくまでに未練や恨みを昇華していく過程として、「穏やかな死」を迎える儀礼として機能しており、また日本では情死・親子心中とも、単独自殺より景勝地など風光明媚なところが選ばれる傾向が遥かに高い。

一方韓国の場合、そうした傾向は全く見られない。自宅に多いのは、オンドルで練炭ガスが手段に採られやすいこともあるが、その衝動的な自殺傾向との関連も当然存しよう。釜山太宗台の自殺岩(写真2)の成立過程も、今後追究していかねばならない課題であるが、集めた事例を見る限り、死に場所として選んで来るといふよりは、家族や友人らと観光で偶然訪れ、景観美に誘われるように投身する例が多く、やはり衝動的な傾向が認められる。

もう一点、指摘しておきたいのは、捨子(棄児)との関連である。日本の場合、親子心中が大正末期以降急増するのとは対照的に、図1にも

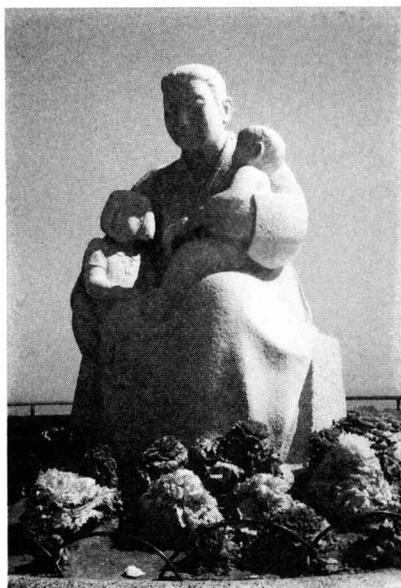


写真 2-1-b 展望台の中心にある母子像



写真 2-1-a 釜山市太宗台展望台の全景  
(晴れば、ここからは対馬がよく見える)

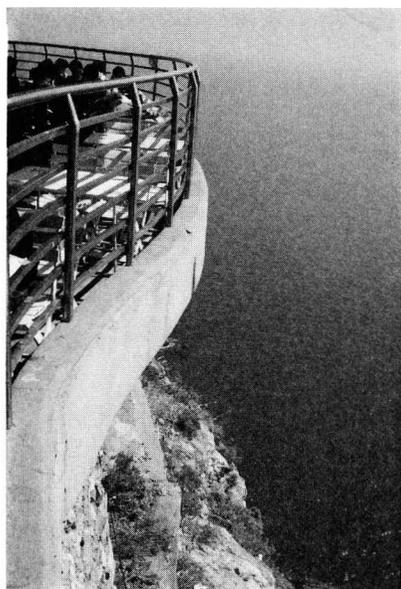


写真 2-1-d 釜山市太宗台の展望台  
(自殺岩はこの下にある)

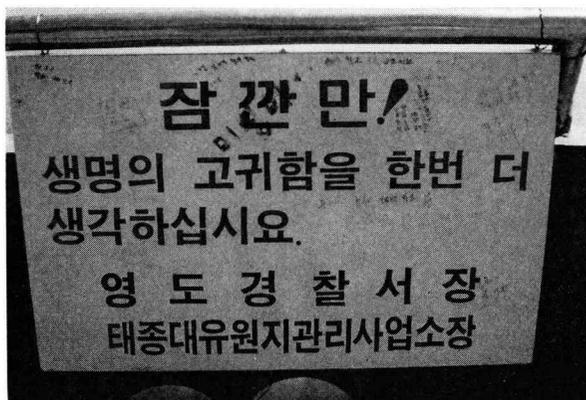


写真 2-1-c 「ちょっと(待て)！」の看板

示したように、近代以降の捨子の激減傾向が認められ、この逆相関の関係から、両者には深い関わりのあることがわかる。すなわち近代化・都市化による日本社会の変質で、子育てはすべて血を分けた生みの親の責任という観念が生成され、子どもを残し親だけ自殺することが、捨子と同様、我が子を見捨てる非情な行為として、また他人に迷惑をかける無責任な行為(養育の放棄)と見做されるに至ったことが、親子心中を発生させた社会的な要因であるといえる。<sup>(4)</sup>

しかし韓国の場合、こうした相関が認められず、同伴自殺の増加と並行し、近代化の進行とともに棄児も増加傾向にあったらしい。この点、日本とは全く対照的である。「孤児輸出」の汚名を雪ぐため、九〇年より政府が規制を強めたことから、その汚名も雪がれつつあるが、それ以前の状況は、

表5でみるように、保健社会部の公式統計においても、一九八〇〜八八年の間、年平均捨てられた子ども(棄児)は一万二〇〇〇名、累計一〇万五三二六名にも達し、うち五九%の六万二三一二名が海外入養されたという。

表5-a 年度別 棄児・未婚母・入養の現況

年 度	棄 児	未 婚 母	海外入養	国内入養
1980	8,500		4,144	3,657
81	9,138		4,628	3,267
82	11,587	7,500	6,434	3,298
83	12,114	9,518	7,255	3,004
84	11,430	10,142	7,924	3,000
85	14,230	10,383	8,837	2,855
86	13,887	12,035	8,680	2,854
87	13,304	12,460	7,947	2,382
88	9,136	12,506	6,463	2,324

表5-b 類型別 入養児童数 (1987)

計	私 生 児	施 設 収 容 児 童	心 身 障 害 者	欠 損 家 庭
7,947	4,562 (57.5%)	1,658 (21%)	1,009 (12.8%)	691 (8.7%)

表5-c 年齢別 入養児童比率 (1987)

1歳未満	1-3歳未満	3-7歳未満	7-18歳未満
76%	9%	12%	3%

(朝鮮日報, 1989年2月12日)

日本人的な感覚からすれば、ただただ驚くばかりであろう。

韓国の場合、基本的に父系の男子しか養子に迎えることのできない、血縁重視の父系出自規制によって、国内入養の困難なこともあるが、捨子を慎んだり子どもを道連れにする日本の母親の心情には、子どもを残して去ることが、誰かに迷惑を掛けたり、また責任の放棄と世間から見做されかねないと思える心意も深く潜んでいることだけは確かである。

こうした世間の目を気にするといった心情は、韓国の場合、比較的弱いといえようが、それでは韓国において捨子と同伴自殺の両者がどう関わっていくのか、今のところ全く解釈は不能である。ただ日本の都市化に伴う親子心中の発生とは、かなり異なる民俗文化の構造的変容のあり方が予想されるが、しかしその解釈は、両者の経年的変化をきちんと押

さえた上でなされねばならないのはいうまでもない。

以上、課題ばかり残してしまったが、本稿が読者に対し、自殺という行為や現象が、単なる異常行動ではなく、その文化の〈伝統〉のなかに根ざした一つの文化的行動であることを、示し得たなら幸いであり、また今後本稿であげた課題を一つ一つ解明していきたい。

註

- (1) James W. Carey, *Communication as Culture: Essays on Media and Society*, 1989, Unwin Hyman, pp.15-21.
- (2) S. Elizabeth Bird and Robert W. Dardenne, *Myth, chronicle and story: Exploring the narrative qualities of news*, in James W. Carey (ed), *Media, Myths and Narratives: Television and the Press*, 1988, Sage, p.70.
- (3) 布施豊正『自殺と文化』新潮社、一九八五年、二〇六頁。
- (4) 小田晋「書評：大原健士郎著『心中考―愛と死の病理』」『精神医学』一五巻一二号、一九七三年、一二二―一二三頁。
- (5) 飯塚進「親子心中を考える」『朝日新聞(大阪)』一九七〇年六月六日付 同「心身障害者に係わる『道連れ自殺』について(1)」『桃山学院大学社会学論集』七巻二号、一九七三年、五三頁。
- (6) モーリス・パンゲ『自死の日本史』筑摩書房(竹内信夫訳)、一九八六年七九頁 (Maurice Pinget, *La mort volontaire au Japon*, Gallimard, 1984)。
- (7) 新聞のコラム欄等には、社会学者をはじめ知識人らのそうした見解がしばしばみられる。たとえば韓完相「동반자살과 문화적 범죄」(同伴自殺と文化的犯罪)や、馬光洙「더 죽고 나 죽자 (お前も死んで俺も死のう)」(『日刊至聖』一九九〇年五月七日付)では、日本同様、「ただひとつ韓国だけにこんな現象がしばしば起きる」といったように記述される一方、その〈解釈〉は「身体髮膚父母受之」による父母の子女の付属物視や、百済のケイベック將軍の集団自殺等の〈伝統〉が強調されるなど、その言説は極めて韓国的なコードのなかで成立している。韓国におけるこうした

- 〈解釈〉に関しては、前述したように、改めて分析の対象としたい。
- (8) 島山箕山『色道大鏡』『続燕石十種』二、国書刊行会、一九〇九年、五〇九頁。
- (9) 高橋重宏『母子心中の実態と家族関係の健康化―保健福祉学的アプローチによる研究―』川島書店、一九八七年、一七頁。
- (10) 布施豊正『自殺学入門―クロスカルチャルの考察―』誠信書房、一九九〇年、八四頁。
- (11) 高橋重宏は「母子心中」を〈動機〉との関連で、大きく「没我的(他者同化的)母子心中」と「利己的(自己同化的)母子心中」の二タイプに区分している。前者は子どもの疾病・障害を苦に、子どもの将来を悲観し子どものために子どもを殺し母親が自殺する共生共死関係の強いもの、後者は夫や妻の不貞、親の疾病、親や夫の死など、母親側の問題で子どもが犠牲になるものであるが、彼によれば、厚生省の全国調査から、その実態を観察すると「没我的(他者同化的)母子心中」が六件(一三・六%)、「利己的(自己同化的)母子心中」が三八件(八六・四%)になるとし(不詳の四件を除く)、「これらのことから、母子心中の主因は、夫婦を中心とした親側の問題で子どもが犠牲になっていることが一層明確化される」と述べている。また「日本の母子心中が、欧米の子殺しと際立って相違する点は、欧米の子殺しが、子どもへの憎しみから生起するのに対して、日本の伝統的な母子心中は両タイプともに、子どもに対する愛情から生起していることである」という。前掲(9)、二八―二九頁。
- (12) 前掲(5)、また越永重四郎・島村忠義らによって〈親子心中〉に対する国際比較の意識調査が行われた(東京・ソウル・ロサンゼルス・トロント・メキシコ・バンコクの六都市)。その成果は、島村忠義「親子心中の日本の特徴」に関する検証の試み』『日本赤十字看護大学紀要』一〇号、一九八七年、四一―四九頁に一部公表されている。
- (13) 大原健士郎『日本の自殺―孤独と不安の解明―』誠信書房、一九六五年、二四六―二八七頁。
- (14) 拙稿「血縁幻想の病理―近代家族と親子心中―」岩本通弥・倉石忠彦・小林忠雄編『都市民俗学へのいざない―混沌と生成―』雄山閣、一九八九年、八三―一〇八頁。
- (15) また例えば、金両基の著作には、一九四五年東京で親子心中の現場を目撃した母親が「日本人は至毒だ。子どもは子どもたちの運命で生きる。死のうというなら自分だけで死にさない。子どもたちまで連れて死ぬなんて」と述べたという記述があるが(『한자 民俗의 뿌리―日本文化로 正명한 한자 正통문화―(韓国民俗の根―日本文化で照明した韓国伝統文化―)』朝鮮日報社、一九八七年、四一―四二頁)、これも当時韓国には、ほとんどどうした現象のなかったことを示していると思われる。
- (16) 「死亡申告書」を基礎にした経済企画院の「死亡原因分析」の自殺者数は、一九八〇年より公表されているが、八〇年一八三三名、八五年二八二二名、八八年二三六七名であり、この数値から一般には韓国の自殺率が算出され、例えば八八年の自殺率は一五・一二名とされる。ところが警察の「変死者発生統計」に基づくと、自殺者数は八八年七三三名と「死亡原因分析」の三・三倍にも上る。
- (17) 金永模「自殺하는 韓國人(自殺する韓國人)」『月刊 읍서버(オブザーバー)』一九九〇年六月号、二八〇―二八九頁。
- (18) この朝鮮日報の記事の最大の問題点は、自殺率の単純な事実誤認にある。この記事でもWHOの八〇年人口統計年鑑に基づく数値を紹介し、韓国の自殺率が二二・六名で世界六位であるとしながらも、「しかし我が自殺集計が政府公式統計と警察統計の間に三倍以上の格差が出るという事実を勘案すれば、我が国の自殺率は世界最高水準に近接するだろうという推定だ」とも記述する。しかしWHOの二二・六名という数値は、計算すれば簡単にわかることであるが、明らかに自殺者数の多い警察の「変死者発生統計」を利用している。同じ間違いは『시사저널(時事ジャーナル)』一九九二年七月二三日号の、呉民秀「一日、自殺二〇名、世界一位を超えるらしい」と題する記事でも、同様の単純ミスを犯している。
- (19) 마광수・유안진 외『自殺 우리는 때때로 죽음을 생각한다(自殺、私たちはたがたび死を考える)』普盛出版社、一九九〇年八月。헤르만 헤세의『자살, 어느 쓸쓸한 날의 선택(自殺、あるうら寂しい日の選択)』책나루、一九九〇年八月。한국종교학회 편『한국종교학개론(韓國宗教学会編『죽음이란 무엇인가―여러 종교에서 본 죽음의 문제―(死とは何か―いろいろな宗教から見た死の問題―)』図書出版窓、一九九〇年一〇月。
- (20) 前掲(1)、二三頁。
- (21) 前掲(2)、六九頁。

- (22) ポール・リクール『解釈の革新(新装版)』白水社(久米博・清水誠・久重忠夫編訳)、一九八五年。筆者の方法は、ロラン・バルト流にいえば、「物語のコミュニケーション」と呼ぶことができるような包括的操作に相当しよう。
- (23) 坂田山心中は、昭和七年大磯海岸で起こった大学生と素封家令嬢との心中事件であり、その「天国に結ばれる恋」と題した哀歌が流行歌となり、映画にもなったことは周知のことであろう。「天国に結ばれる恋」という呼び方は、この坂田山心中に限らず、ほかにも昭和三二年に起こった愛親覚羅慧生(溥儀の姪)と学習院大生の天城山心中でも用いられている。同様に韓国でも、一九二六年玄界灘に投身した歌手尹心應と作家金祐鎮の情死事件が、近年「死の讚美」と題され映画化され、評判を呼んだが、この心中事件は日本の影響が色濃く顕れているとされている。
- (24) 拙稿「隠蔽される自殺―戦後日本の自殺報道の経年変化―」『日本民俗学』に投稿予定。「死を語ること」を隠蔽する傾向とは、簡単に述べると、紹介した朝日新聞の二月半月間の記事でもわかるように、新聞に掲載される自殺は、手段が九〇例中、飛び降り一七件、飛び込み一二件と、この二つが圧倒的に多く、特に飛び込みの場合には「電車が何分遅れ何万人に影響を与えた」という表現がたいに記述される。一〇年前までの新聞が多く、自殺を伝えようという姿勢があったのに対し、最近の新聞が伝えようとする隠れたメッセージは、実は「世間に迷惑を掛けるな」という点にあり、現在の日本の新聞は、世間的な有名人の自殺以外では、一般人の自殺に関しては、こうした「迷惑自殺」しか扱わなくなってきた。
- (25) 表1の資料は、飯塚進「道連れ自殺、今昔」『桃山学院大学社会学論集』一二巻二号、一九八二年による。この表の「一家」は一家全員あるいは父母と子、「その他」は祖父母と孫、兄弟姉妹等を指している。なお夫婦心中の数は示されていない。
- (26) 林憲「精神徴候の通文化比較から見た親子心中」加藤正明ほか編『講座家族精神医学』第二巻、弘文堂、一九八二年、三二一―三三七頁。
- (27) スチュワート・ピッケン『日本人の自殺―西欧との比較―』サイマル出版会(堀たお子訳)、一九七九年、一八―五四頁。
- (28) 稲村博『自殺学―その治療と予防のために―』東京大学出版会、一九七七年、三頁。
- (29) ただし「無理心中」か否かの判断は、遺書でもない限りかなり困難である。少々古い資料になるが、岡崎文規によれば、一九五六年の家族心中の総数は四〇〇件、そのうち無理心中は二六四件で六三・三%を占めるといふ(『自殺の国』東洋経済新報社、一九五八年)。
- (30) 母子の場合は、練炭ガスや投身といった親が直接手を加えない手段が選ばれるが、父子の場合も含め、こうした手段の場合は、ほとんど必ず「同伴自殺」という表記となる。
- (31) 布施豊正『自殺と文化』新潮社、一九八五年、一八頁。
- (32) 前掲(14)、及び前田實子「日・仏の母親の養育態度について―調査資料を中心に―」『児童心理』三〇巻二号、一九七六年。
- (33) この事件は朝鮮・東亜に限らず、中央・国民・京郷・世界・ソウル・韓国・ハンギョレの各新聞でも、こぞって掲載し、社説にも取り上げたところが多い。テレビでもMBS『世論広場』をはじめ多くが取り上げた。この韓国での一連の動きをみて、日本でも朝日新聞が掲載したが、その事前にも伝貫自殺は続いていた訳であるのに、なぜこの事件のみが反響を呼んだのか。この事件のどこが衝撃的で、何に人々は心を打たれたのか、筆者の関心またテーマはこの点にある。その詳しい分析は課題としておく。
- (34) これに関しては、前掲(3)及び前掲(13)を参照された。
- (35) モーリス・バンゲは「日本人にとつての罪とは集団からの離脱」だとし、そのすべての自殺現象の本質的な要因は「日本人の責任の強さ」に帰着すると指摘する。また彼は、職務上の責任というこの感じやすい点を、誰か第三者に批判されたり、自分の心のなかでそこに何か負い目を感じたような場合、「社会的存在としての自己を非難された日本人」は、非難の対象とされている過ちやミスを償い、失われそうになった名誉を回復するため、自殺という破壊行為を選ぶ場合もあり、それは同時に「自分を罰することによって相手に復讐するのだ」とも指摘する(前掲(6)、六九―七四頁)。日本人もこうした広い意味では、抗議の自殺を行っているわけで、日本人のこのような心理や道徳的責任の追及のやり方は、モラルマゾヒズムと称されるが、また日本語の最大の罵倒語は「死に損ない」であろう。
- (36) 前掲(26)、及び祖父江孝男編『日本人・その構造分析』至文堂、一九六九年。
- (37) 最近の事件でいえば、例えば法廷での証言「人ではなく獣を殺した」で

知られる金富男事件(91・8・16証言)をはじめ、第二の金富男事件と称される金浦垠事件や、原州のエホバの証人教会放火事件(92・10・4)に対する新聞の論調は、日本人の感性では極めて異質感がある。「復讐劇ではない」としたり、家庭を崩壊させた妻側にも問題があったとする主張は、まるで私刑を認めているようで、日本には存在しない「家庭破壊罪」とも合わせて、改めて論じたい素材である。

(38) 図6は、坪井洋文「ムラ社会と通過儀礼」同編『村と村人(日本民俗文化大系八巻)』小学館、一九八四年による。

(39) 吳善花『続・スカート風の風―恨を楽しむ人びと―』三交社、一九九一年、一〇三―一〇五頁。

(40) 前掲(39)、一〇五頁。

(41) 前掲(14)。

〔謝辞〕本研究は、文部省在外研究(一九八九年度)およびトヨタ財団研究助成(一九九一年度)の支援を得て行われたものであり、ここに記して感謝する次第である。また民俗学の手ほどきから御指導を賜わってきた千葉徳爾先生、および在韓中、公私ともに御厚誼を賜わった中央大学校文科大学朴銓烈先生には、改めて格別の謝意を捧げたい。

(東海大学文学部 国立歴史民俗博物館共同研究員)

A Comparison of Symbolic Systems  
regarding "Parent-Child Suicides" in Japan and Korea  
—A Folkloristic Analysis of the "Suicide Case"  
as Mythological Narrative—

IWAMOTO Michiya

Though "parent-child suicide" has been mostly regarded as a "phenomenon unique to Japan", this paper aims to present examples of "parent-child suicide" in Korea, in an attempt to correct this opinion. Through the comparison of cases in the two cultures, the author also aims to get a rough overview at a deeper level, as to which of the various phenomena of "parentchild suicide" are common to the two, and which are typically Japanese; that is, not only the act of "parent-child suicide" but also the larger symbolic systems of the society and the culture in which the act occurs. For this purpose, this paper begins with the presentation of "a total image of suicide", including "parent-child suicide" in Korea, which has rarely been reported in Japan. As a source of information, the author collected articles on suicide from two typical Korean general newspapers, the "Chōsen Nippō" and the "Tōa Nippō" over a period of a year, and analyzed these. With regard to use of newspapers as sources of information, the author considered, from the methodological viewpoint, that the character of news in the form of a newspaper article should be not taken to have merely the simple function of the "transmission" of information; it should be understood as something creating mythical "stories" that put greater importance on the role of the readers (decoders). If we understand the newspaper article in this way, the hidden code concealed in repeatedly-told news provides the decoders with definitions of various cultural values. Analysis in this way shows that Japanese and Korean codes concerning suicide and "parent-child suicide" cases are similar in many ways, and very different in many other ways. The greatest difference is that one of the important codes in Korean "stories of suicides and double suicides" is "resistance" to such suicides, while the major value code in Japanese "stories of suicides and parent-child suicides" is the need to refrain from "bothering others". Seen from the totally-opposite Japanese value code, the Korean code is given a negative, "ungallant" value. Therefore, "parent-child suicides" in Japan and Korea may resemble each other in appearance and form, but are very different in meaning.